

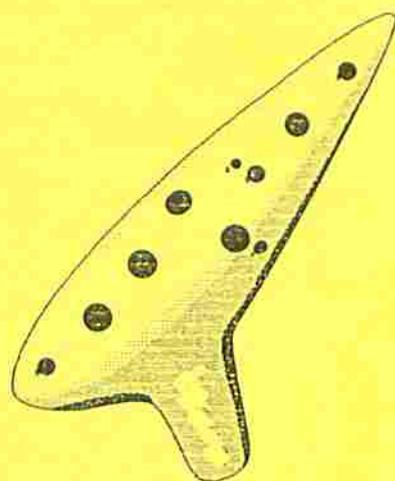
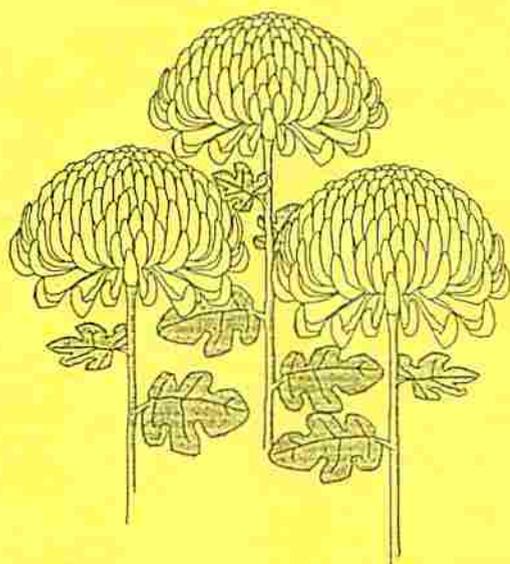
昭和62～平成元年度 伊勢原市教育委員会指定委託研究
学校同和教育研究紀要

研究主題

「人権を尊重する民主的な
人間関係の確立をめざして」

—認め合い、励まし合い、共に生きる生徒の育成—

平成元年11月9日



伊勢原市立中沢中学校



本校は、昭和62年度より三か年にわたる学校同和教育の研究指定を市教育委員会よりいただき、昨年中間報告会を実施し、造詣の深い諸先生方からご指導、ご助言をいただき、その後において、十分研究に生かし、積みあげきれてはおりませんが、ここに研究の一端を披露し、一応のまとめとする運びとなりました。

同和教育は、全ての学校で、積極的に取り組まなければなりません。

学校生活の中で、生徒たちの生活はどうでしょうか。学校生活の営みの中でさまざまな事象が目の前に繰り広げられます。私達は、時には、「はっ」とすることもあり、全く気づかないこともあります。しかし、生徒達はその中で、深く傷つくこともあります。見えがくれする偏見や差別、人権侵害を鋭く見抜く目と感性、差別に気づき、しない、許さない、負けない子をどう育てるか苦悩しました。

憲法並びに、同和対策諸法の基本精神を基に、「基礎学力の向上を図り、進路の保障に努めるとともに、科学的・合理的な見方、考え方を養うことによって、同和問題を正しく認識し、人間の尊厳性についての自覚を高め、真に民主的人間関係の確立に努力する生徒を育成する。」とある本県同和教育の中学校の目標をおさえ、私達は、現存する差別や偏見に直面したとき、その差別を解消する実践、更には、学校生活の中で起こりうるあらゆる人権侵害（いじめや無視、仲間外れ等）をなくし、人間尊重の精神を積極的に教育活動の場に具現化し、神聖にして侵すことのできない基本的人権を誰もが等しく享有し、希望に燃え、精一杯に生きるための教育実践の推進こそが同和教育の根幹をなすものと推論し、共通理解を持ちました。

研究実践に際し、教育委員会のご指導・先進校の研究より「教師自らが変わることが子供を変容させる」とご教授を受け、最初の一年間を教師自身の研究にあて、その中より、教育活動の全体を通して、着実に実践することが肝要であり、学習面における、基礎基本のおさえと、人間的なふれあいや心情面を大切にすること、そして、協働の立場にたって創意工夫をしまりました。

可能な限りの時間と場を創意し、教科・道徳・特別活動の研究に加えて、実践七場面、学級の日の設定と三年生全員の一人一鉢の菊づくり、ちぎり絵、オカリナづくり等、身近な生活の指導を通して、豊かな情操や、忍耐強く、継続することのすばらしさに気づかせ、同時に、その中に潜在する差別や矛盾にも気づく生徒の意識向上と解決への実践力および、PTA活動の中での啓蒙を図り、差別や矛盾の解消を図ってきました。

まだまだ私達の教育実践は一筋の光を見出したとはいえ、未熟で課題も多く、皆様のご批判・ご指導を糧に明日からの研究・実践を推進する覚悟です。

最後に、多くの制約の中で、研究実践に真剣に取り組みをいただいた全職員に深く感謝しております。この紀要も職員の手作りによるものです。

また、これまで、ご指導、ご助言いただいた市教育委員会並びに、中教育事務所の先生方及び、茨城県利根町立利根中学校長小島昭典先生・静岡県天城湯ヶ島町立天城中学校をはじめ、参観・資料提供をいただいた多くの学校に深く感謝を申し上げます。

私たちは、だれでも生まれながらにして自由であり、平等であることを当然のこととして願っています。また、一人の人間として、幸せで生きがいのある人生を送りたいと望んでいます。こうした願いは、日本国憲法において「何人も侵すことのできない」基本的人権として、すべての人に保障されています。

しかし、残念ながら、人間としてのこの当然の権利が差別や偏見のために、十分には保障されていない現実がたくさんあります。たとえば男女の差別・人種差別・心身障害者への差別・学歴による差別・部落差別などです。

こうした差別や偏見の中で、もっとも深刻で重大なものが部落差別すなわち同和教育であります。いまなお、少なからざる人びとが、全く理由のない不当な差別や偏見により苦しんでいるのです。このことは、基本的人権が著しく侵害されるという重大な問題であり、日本国憲法に反するものであります。

このような差別や偏見を解消し、真に明るい民主的な社会を建設するため、教育の果たす役割は極めて大きいと言えます。

伊勢原市教育委員会は、このような考えから数多くの研修会や研究会を含む同和教育の推進・充実策を講じてまいりました。昭和62年度より小・中学校それぞれ一校ずつを、同和教育研究中心校として、学校同和教育推進のための中心校を委託したのもその一つであります。

本校では、その私たちの委託に応え、神奈川県教育委員会の「同和教育基本方針」に基づき、研究の基本的な考え方を同和教育解決のための基盤となる資質の育成におき、「人間尊重の精神を基盤として、差別をなくそうとする意欲と、これを克服する実践力を培い、差別を許さない人間の育成」（神奈川県同和教育基本方針）を目標に、「人権を尊重する民主的な人間関係の確立をめざして」を主題に、「認めあい、励まし合い、ともに生きる生徒の育成」に努め、研究を進めてこられました。

その手順として、まず各教科・道徳・特別活動等の目標や内容について、同和教育の視点から改めて検討され、学校の全教育活動において同和教育を推進されました。なかでも、目標・内容が特に同和教育と深い関係のある教科（国語・社会）を重点教科として人権・差別にかかわる題材や内容を中心に、同和教育・人権教育の視点から指導し、また道徳・特別活動等にあつては、同和・人権教育としての計画的な指導を進めてこられました。とりわけ、数年前から生徒会を中心にして取り組んできた「オアシス運動」や菊づくりや草花栽培、一分間スピーチ等は、道徳や各教科等の人間尊重の指導とあいまって、自然をいつくしみ、互いの立場を認めあい、他人の痛みが分かる生徒の育成に大きな役割を果たしてきました。

昨年11月に神奈川県一健康優良校として表彰されたのも、また昨年・今年と本校の生徒が運動や文化活動の面で数々の活躍をしているのも、心身ともに健全な生徒の育成に成功した証左であり、また同和教育研究の成果とも言えましよう。とは言い、行事や進路指導等の多忙な中学校教育の中で、3年間という長い期間に亘り、この研究に取り組んでこられた校長先生をはじめ諸先生方の並々ならぬ御苦勞に対し、市教育委員会として心から深甚の謝意を表するものであります。

目 次

I. 学校と地域の概要-----	1
II. 研究の概要	
1. 研究主題-----	1
2. 主題設定の理由-----	1
3. 研究のねらい-----	2
4. 研究仮説-----	2
5. 研究の計画と経過-----	3
6. 研究の組織-----	5
7. 全体構想図-----	7
III. 研究の実践	
1. 特別活動研究部	
(1)ねらい (2)仮説等-----	8
(3)実践内容	
①進路-----	9
②学級の日-----	31
③自然愛護活動-----	44
④1分間スピーチ-----	47
⑤実践7場面-----	56
(4)特別活動研究部のまとめ-----	69
2. 教科研究部	
(1)ねらい (2)仮説 (3)内容-----	70
(4)教科研究部のまとめ-----	91
3. 道徳研究部	
(1)ねらい (2)仮説-----	95
(3)内容-----	96
(4)道徳研究部のまとめ-----	110
道徳参考資料(学習シート・指導案)-----	112
4. 調査・資料研究部-----	120
IV. 研究の成果と今後の課題-----	139



I. 学校と地域の概要

本校は創立8年目、主な学区は小田急線伊勢原駅の北側部分、旧伊勢原町の中心部となっている。生徒は伊勢原小学校から85%、残り15%が成瀬小学校(下糟屋地区)と桜台小学校(池端地区)から来ており、現在673名、市内で最も小規模の中学校である。市の中心部の学区とはいえ、学校の所在地はまわりを田んぼや梨、ぶどう、柿、いちごなどの畑に囲まれ、通学道路は四季折々の大山の眺めと共に素晴らしい自然に恵まれている。また広い校地に少人数ということで、ゆったりした情操が培われる条件も整っている。

開校以来、生徒会ではオアシス運動のスローガンを掲げ、朝晩のあいさつや、廊下での会釈等、割合良く実行されている。更に現在では、それを伸長させた形の生活習慣、実践七場面の推進を図り、その定着化に努めている。

しかし、校内では、時に軽はずみな行動で人を傷つけたり、誰をも差別なく一人の人間として尊敬する気持ちを持ってない者もあり、同和教育を高めていかなければならない素地は十分にあるようだ。更に極めて小数ではあるが、学校に來れない生徒、来ても授業になじまない生徒もあり、これらの生徒の学力保障、進路の保障を含め、教員、生徒、保護者一体となって、一人ひとりの人権を大切にするための教育環境作りに知恵をしぼり、情熱を傾けているところである。

II. 研究の概要

1. 研究主題

「人権を尊重する民主的な人間関係の確立をめざして」

認め合い、励まし合い、共に生きる生徒の育成

2. 主題設定の理由

神奈川県同和教育の基本方針に定められた基本事項の内、学校教育について次のように述べられている。「学校教育においては、人間尊重の精神を基盤として、差別をなくそうとする意欲と、これを克服する実践力を培い、差別を許さない人間の育成をめざして、児童・生徒の発達段階に即した同和教育を進めるとともに、教育の機会均等の保障に努める。」

また、神奈川県同和教育の目標—中学校における同和教育の目標には、「小学校における教育の基礎の上に、基礎学力の向上を図り、進路の保障に努めるとともに、科学的、合理的な見方・考え方を養うことによって同和問題を正しく認識し、人間の尊厳性についての自覚を高め、真に民主的な人間関係の確立に努力す

る生徒を育成する。」とある。

同和教育は人と人との間に存在する差別をなくそうという意欲と、これを克服する実践力を育成することである。これは豊かな人間性と人権尊重の精神を育てることによって実現されるものであると考える。しかし、現実には自己中心的な生徒が多く、日頃の学校生活の中での生徒の活動を見ている、助け合って共に伸びようとする思いやりのある行動や意欲的な活動などに欠けているような気がしてならない。近年、学校教育において「いじめ」が大きな問題として取り上げられているが、これも偏見や差別による問題行動の現れであり、人権尊重の自覚の低さに起因するところが多い。本校においても例外ではなく、物を隠す、友達を無視する、陰口を言うなどの、思いやりや信頼の乏しさなどから起こると思われる問題行動がみられる。また、励まし合い、共に学ぼうとする連帯感も低く、怠学、部活をさぼる、行事・学習に真剣に取り組めないなど、学校生活に興味を持って参加できない生徒も少なくない。これらも問題行動につながる一因と考えられる。この様な現状をふまえ、教育活動全体を通して、科学的、合理的な見方、考え方を養い、正しい民主的な人間観を持つことのできる生徒の育成をめざすため、上のように主題を設定した。

3. 研究のねらい

「人権を尊重する民主的な人間関係」を確立できるよう、学校生活のあらゆる面を捉えて生徒への指導を工夫していく。特に、学習や、学級の生活を充実させることにより、一人ひとりを大切に、認め合い、励まし合い、共に生きる生徒を育てる教育実践をする。

4. 研究仮説

教育活動全体を通して、科学的・合理的な見方・考え方を養い、思いやりの心を育てていくことにより「人権を尊重する民主的な人間関係」が確立され、認め合い、励まし合い、共に生きる生徒が育てられると考える。

5. 研究の計画と経過

昭和62年度～64(平成元)年度伊勢原市同和教育研究校として指定される。

(1) 62年度の計画と経過

①研究会の持ち方

全体会 学年部会

研究部会

研究推進委員会

研究企画会

毎月1回

毎週木曜日5校時

②年間計画

4月	研究内容の立案	↑ 研究準備期間	↑ 資料		
5月	〃				
6月	実態調査方法の検討				
7月	実態調査実施 県外優良校視察 和歌山県和歌山市立西和中学校				
8月	実態調査のまとめ				
9月	実態調査の分析				
10月	研究体制の検討 県外優良校視察 天城湯が島町立天城中学校				
11月	学習会 三重教育大学今野教授 講演 全国同和教育研究発表会に参加(校長)			↑ 指導法の研究	↑ 収集
12月	学習会・調査、分析				
1月	学習会				
2月	〃				
3月	年間の反省と次年度への方向付け、研究体制の確立	↓	↓		

(2) 昭和63年度実践研究の計画と経過

☆教科授業研究は63年度に2回、64年度に1回行い、その中で9教科すべて実施する。

☆道徳授業研究は63年度に2回、64年度に2回実施する。

※教科・道徳授業研究は、できるだけ多くの職員が行うよう配慮する。

学級組織の編成と学級の日の設定について

☆学級組織の編成について

- ・学級の特性を考慮し、学級組織を編成する。
- ・係としては学習班(学習係)と自然愛護の班(係)を設ける

☆学級の日の設定について

職員が生徒と共に学級会活動や係活動に取り組む時間を設けることが必要であろう。学級の活動を強化、保障するために部活動無しの日を月に2回作る。→(後に1回に変更) 全職員が会議のためではなく、部活動とは別の形での生徒とのふれ合いをより多く持つためである。

月	63年度実践研究の計画と経過	
4	63年度研究実践の計画及び組織の決定 ・全教科、道徳、学級会活動の指導のねらい・観点を定める ・実践研究 学級の組織づくり	部会・全体会
5	教科授業研究に向けての取り組み	部会・全体会
6	6/4 教科授業研究(1年-美術・2年-音楽・3年-社会) ・評価――観点による ・今後の課題 6/9 校内合唱祭 6/21大禮中研究発表会に参加	部会・全体会
7	合唱祭の取り組みについて検証 ・今後の課題	部会・全体会
8	8/3 茨城県北相馬郡利根町立利根中に行き、打ち合せ 8/24 茨城県北相馬郡利根町立利根中小島校長を講師に招く これまでのまとめ、2学期からの取り組みの検討	部会・全体会
9	体育祭、取り組みについて検証 道徳授業研究に向けての取り組み	部会・全体会
10	道徳授業研究(各学年) ・評価――観点による ・今後の課題 教科授業研究に向けての取り組み 10/9～11 県外優良校視察 奈良県宇陀野郡菟田野町立菟田野中 10/10～12 県外優良校視察 千葉県長南町立長南中、野田市立南部中 10/26 光輝祭1部	部会・全体会
11	光輝祭の取り組み・検証 11/24 教科授業研究(1年-英語・2年-数学・3年-保健体育) ・評価――観点による ・今後の課題 人権アンケート内容の提案ならびに実施・集計	部会・全体会
12	12/5 中間報告会、公開授業(道徳-各学年・2年-国語・社会)	部会・全体会
1	・評価――観点による ・今後の課題	部会・全体会
2	学指・学会及び短学活の事例研究 63年度研究の取り組みについて反省	部会・全体会
3	64年度研究の実践計画の検討 ・研究の方針、組織、計画の決定	部会・全体会

(3)平成元年度実践研究の計画と経過

☆教科授業研究は63年度に2回行った継続として残りの教科を行い、その中で9教科すべて実施を完了した。

☆道徳授業研究は本年度も2回実施した。

※教科・道徳授業研究は、できるだけ多くの職員が行うよう配慮した。

月	元年度実践研究の計画と経過
4	元年度研究実践の計画及び組織の決定 ・全教科、道徳、学級会活動の指導のねらい・観点を再確認する 学級の組織づくり 推進委員会・部会・全体会
5	教科授業研究に向けての取り組み 5/23進路指導授業研究 5/29学級の日 国語・社会授業研究 推進委員会・部会・全体会
6	6/4 教科授業研究(1年-理科、技術家庭(女)・2年-3年-) 道徳授業研究に向けての取り組み P T A地区懇談会-4回(毎回冒頭に同和問題啓蒙映画を上映)↓ 6/13学級の日 国語・社会授業研究 推進委員会・部会・全体会 6/14, 15, 19, 20
7	道徳授業研究 紀要原稿作成に向けての取り組み 人権アンケート内容の提案ならびに実施・集計 7/12学級の日 国語・社会授業研究 推進委員会・部会・全体会
8	掲示物の作成 紀要原稿のまとめ、2学期からの取り組みの検討 発表に向けての諸準備 推進委員会・部会・全体会
9	9/14 道徳授業研究 体育祭、取り組みについて検証 発表準備(公開授業指導案・環境整備) 9/27学級の日 国語・社会授業研究 推進委員会・部会・全体会
10	発表準備(公開授業指導案・発表内容の整理) 光輝祭への取り組み 10/ 9 光輝祭第1部 10/ 学級の日 10/29 光輝祭第2部 紀要完成 推進委員会・部会・全体会
11	発表に向けての最終確認・リハーサル 11/9 研究発表会 学級の日 発表についての反省会 推進委員会・部会・全体会
12	生徒実態調査・集計・分析(生徒の変容を確認する) 学級の日 推進委員会・部会・全体会
1	研究を通して得たものにより、本校のこれから進む道を検討 学級の日 推進委員会・部会・全体会
2	研究を通して得たものにより、本校のこれから進む道を検討 学級の日 元年度研究の取り組みについて反省 推進委員会・部会・全体会
3	2年度研究の実践計画の検討 学級の日 研究の方針、組織、計画の決定 推進委員会・部会・全体会

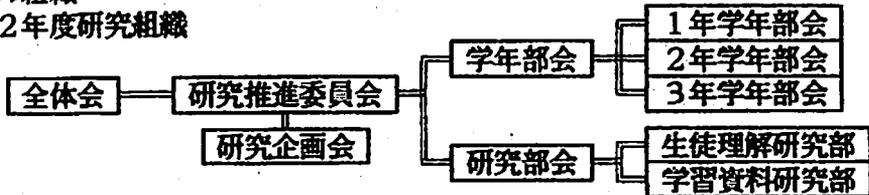
P T A活動を通しての働きかけ

6月に4回にわたって夜7時から行われたP T Aの地区別懇談会の始めに、毎回「同和問題の解決のために」という映画を上映した。

また、日曜授業参観の機会を利用してビデオで本校の研究について説明し、理解と協力を求めた。さらに、P T A広報紙「ききょう」でも、この研究を話題としてとりあげ、シリーズを組んでくれている。

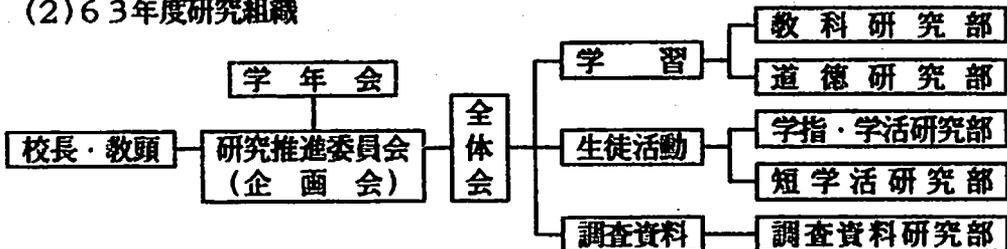
6. 研究の組織

(1) 62年度研究組織



- ・研究推進委員会
校長、教頭、教務主任、学年主任、研究部代表、研究委員で構成し、研究の内容、進め方及び各部の研究推進等の検討、調整を図る。
※構成員の重複を避けるため、研究企画委員は各部の代表を兼務しない。
- ・研究企画会
校長（教頭）と研究主任及び各学年代表の研究委員をもって構成し、研究内容、方向、全体計画等の企画をする。

(2) 63年度研究組織

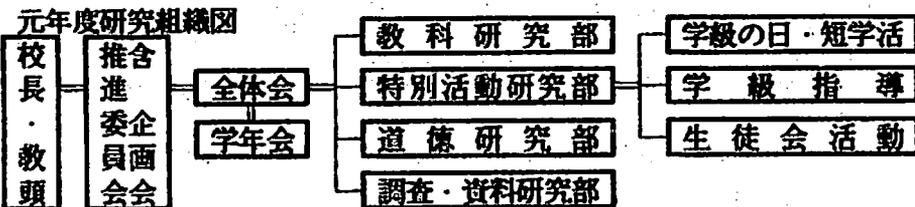


学年主任は研究部長を兼ねない。――学年における研究のイニシアチブをとる。
研究主任は教科研究部以外には属さない。――必要に応じて各研究部に参加する。
研究推進委員会

- <構成>校長、教頭、教務主任、研究主任、各学年主任、各研究部長 計12名
- <役割>研究の内容、進め方及び各部の研究推進等の検討・調整を図る。
- ※推進委員会は内部機関として研究企画会を設ける。

(3) 元年度研究組織

昨年度の反省に基づいて以下のように変更した



研究推進委員会：校長、教頭、教務主任、各学年主任、企画委員
研究企画会：研究主任、研究副主任、会計、各研究部長

7. 研究の構想

学校教育目標

教育基本法及び学校教育法に掲げる目的、目標のっとり、地域社会の実状と生徒の実態の上に立って、人間性豊かな生徒の育成を図る。

- 生命を大切にす心身共に健康な生徒
- 自他の立場を理解し、互いに協力する生徒
- 自主性に富み、実践力のある生徒
- 知性を磨き、創造力を伸ばす生徒

研究主題

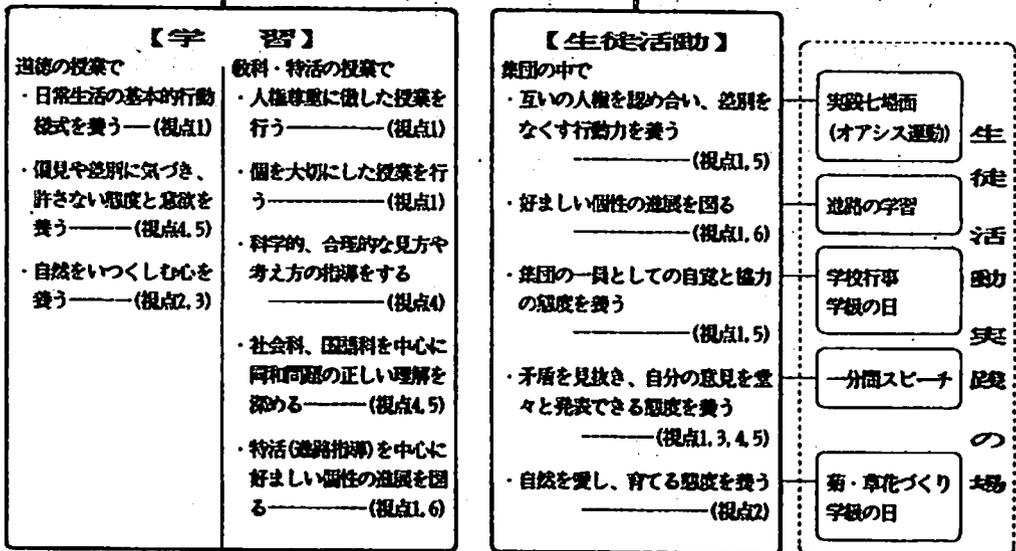
「人権を尊重する民主的な人間関係の確立をめざして」
 —認めあい、励まし合い、共に生きる生徒の育成—

本校同和教育でめざす生徒像

- 互いの立場を認め合い、他人の心の痛みがわかる生徒
- 互いの人権を尊重し、共に伸びていく生徒
- 話し合い、問題を解決する生徒

本校同和教育の視点

- 視点1 個を尊重し、集団の中での豊かな人間関係をつくる
- 視点2 自然を愛する心を持つ
- 視点3 豊かな感受性を持ち、感動する心を持つ
- 視点4 科学的・合理的的精神に立脚し、客観的に判断できる
- 視点5 物事を自分の問題としてとらえ、自ら解決する
- 視点6 働く意義や目的を正しくとらえ、適性に応じた進路選択ができる



教師集団として
 人間尊重の精神を
 基盤とするよう
 意志統一する

学年・学級経営

個々の生徒をみつめて
 ・学習や運動に打ち込めない生徒
 ・ばかりにされている生徒
 ・いつもひとりぼっちでいたり
 仲間外れにされている生徒
 に根気よく指導していくとともに、
 そのような状況をなくすように集団
 に対して働きかける

Ⅲ. 研究の実践

組織の中に五つの研究部を置いて次のように研究実践を進めてきた。

1. 特別活動研究部

(1) 研究のねらい

- ①生徒が当面する身近な問題や課題を、生徒自身が自らの力で解決できるように、学級集団を基本として計画的、継続的に指導し、生徒の自己実現を図る。
- ②個人及び集団の一員としてのあり方についての指導、人間関係の確立、個性の理解や意欲的な学習態度の形成、自己実現を図る指導、心の健康と全ての面で人間尊重の教育を行う。

(2) 研究の仮説

- ①生徒が当面する身近な諸問題を話し合い、活動を通して解決していくように計画的に継続的な指導計画を立て、内容を充実させて実践していけば生徒の自己実現が図れるだろう。
- ②学校・学級において望ましい人間関係の確立を基盤とするために、生徒会活動・学級指導・学級会活動を意図的、計画的に行っていくことにより、互いに思いやる態度、協力性、相手の立場に立って考える態度など、人権に対する意識が身につくであろう。

(3) 研究の内容

本校研究の「中沢中学校の目指す生徒像」への取り組みとして当研究部では五つの活動を通して、そのねらいに迫りたいと考えた。

◇好ましい個性の進展を図る ⇒ ①進路指導の充実

◇集団の一員としての

自覚と協力の態度を養う ⇒ ②学級の日の実施

◇矛盾を見抜き、自分の意見を

堂々と発表できる態度を養う ⇒ ③一分間スピーチ

◇互いの人権を認め合い、

差別をなくす行動力を養う ⇒ ④実践7場面

◇自然を愛し育てる態度を養う ⇒ ⑤菊・草花づくり

①進路指導

ア. ねらい

進路指導は、ともすれば進学指導に偏りがちな現実が社会にあり、一般的に多くの人々は進学についての指導を進路指導だと思っている。このような社会の中で子供たちは常に大きな悩みや苦しみを抱えているといっても過言ではあるまい。一人の子供の適性(個性・能力)や希望をどう生かしていくのがよいかを真剣に考えることを教師のつとめとしてしっかり認識しておかなければならない。

また、進路指導は進学指導や就職指導だけに終わらず、将来どんな生き方をしたらよいかを考えさせ、職業や学歴や出身校によってその人の人間としての価値が決まるのではなく、将来社会人としてどんな生き方・生きがいを持って生活するかによって決まるのだということに気づかせ、社会のため、自分のため、自分を生かす進路、そんな進路を考える生徒を育てたい。

私たちは進路指導を次のように考えている。

◎「生き方を教える」

よりよい社会人として生活していくことの大切さを教えることから始まる。単に進路先を選択するのではなく、将来、自分はどう社会に尽くしていくのか、社会の中でどのような生き方をしていくのか、働くことの尊さ等々、しっかりした考え方を育てることが大切である。また、職業選択の自由を阻害する要因を排除するとともに正しい職業観を育成し、生徒が誤った優越観や劣等観を持つことのないように努めることも大切である。その中で、互いの進路の選択に対して、仲間を理解し、励まし合える基本が生まれる。お互いの進む道を将来に思いを馳せて考え、認め合えることの大切さを身につけさせたいためである。このことが生きる力となり、差別の存在の不当性を認識し、差別解消へ向けての実践力につながる。

◎「自分を知り、支え合う指導」

学校生活の中で自分を知ることの大切さを気づかせたい。自分を知ることが他を尊重することにつながる一つの要素である。

「自分を知る」ややもすると成績中心になりはしないか、生活の中で見られる自分の姿を仲間を通して自分の特性や個性をつかむ。その中ではお互いに働きかけがあり、自分を知る手がかりを、共に見つけ

合う学習を通して、相手を大切に作る心が育つと考える。

成績も自分を理解する要素の一つとして大切であるが、主たるものではない。子供の持つ様々な良さ、状況を自らがはっきりと自覚し、自分に自信が持てることこそ重要である。そんな積み重ねをしたい。

◎「進路選択の機会の確保と保障に全力を尽くす」

進路選択の機会を個々の状況を充分把握し、子供と保護者、教師が一体となって確保していく。子供の夢を、生き方の実現をどう具現化できるか、自己実現に最大の援助を図り、取り組んでいきたい。

進路保障は機会の確保と自己実現の保障である。そのための進路学習の必要性を現実のものにしたい。

進路決定のために、補充学習を計画し、学習力や学力の向上に努めたい。個々の持つ真の力を開発し、少しでも子供の進路設計を実現させることができるよう、学力の向上に努めたい。

私たち教師集団のこうした姿勢を子供に見せ、子供を引っ張り、共に学び合う中で進路の保障に最大限努力していく。

こうした視点に基づいた進路指導を展開し、期待に胸を膨らませて決定し進んだ職場や上級学校からの中途離脱をなくすことが必要である。卒業後の同校についても、よく相談に乗り、自分はどの様な生き方をするのか、自分の足でしっかりと歩むことが常にできるよう努めていくことが私たちの責務と考えている。

◎「同和教育と保護者・地域」

教育の場で正しく同和問題を学ぶことがなかった保護者には、代々、親から言い伝えられた誤った考えや歪曲された事実から差別意識や偏見を持っている人もいます。このような誤った差別意識や偏見を持った保護者がいるということは、学校で同和問題を取り上げたり、同和教育を推進する上で子供に正しい同和問題を理解させ、差別解消に向けての実践的な態度を育てるのに大きな壁や障害になる。この壁や障害を取り除くことも学校同和教育の一つの重要な課題であり、その意味からも、保護者への啓発を進めていくことが本校の同和教育推進のポイントにもなる。また、学校同和教育・社会同和教育を推進する行政や地域の関係諸機関や諸団体との関連を深めながら、本校が日常、同和教育をどう進め実践していくかの指針として取り組んでいきたい。

イ. 実践内容

a. 進路指導

学級指導年間計画の指導内容を適応、学業、進路、健康・安全の4つの指導内容とし、昨年の反省から4つの指導内容のバランスを考慮し、生徒の発達段階に応じたものとなるよう配慮した。また、同和教育として取り上げるところを示した。

平成元年度 学級指導年間計画

重点目標

互いに認め合い、励まし合い、協力して学校生活の向上・発展を図る。

個性の伸長を正しく導き、集団の一員としての自覚や協力の態度を育成する。

指導内容

- ア 適応指導 個々の生徒の不安や悩みを解消し、学校生活の適応を図る。
- イ 学業指導 課題をもつて自主的に授業にとりくみ、望ましい学習習慣の形成を図る。
- ウ 進路指導 自己の理解を深め、進路に対する関心を高めると共に、適切な進路選択の能力を育成する。
- エ 健康、安全指導 健康な生活を営むための基礎的な事項を理解させ、安全な行動がとれるよう習慣化する。

指導上の留意点

学級指導の授業を基盤とし、総ての学校教育活動の中で、生徒個々の発達段階に応じて指導にあたることに留意する。

指導方法

ア 説話による方法 イ 討議や話し合いによる方法 ウ 作業しながら学習をすすめる方法 エ 資料や読物を利用する方法 生徒の発達程度によりできるだけ具体的かつ興味をかきたてる方法を取りあげて指導する。

平成元年度 学級指導年間計画

1年生の努力点

- ・ 中学校生活に早く適応させる。
- ・ 基本的な生活態度を身につけさせる。
- ・ 学習にたいして自主的にとりくむ習慣を身につけさせる。
- ・ 進路への関心を持たせる。

月	主 題 名	わ ら い	進路指導	進路	同和	保健	生活	道徳	英語	音楽	体育	美術	家庭	総合
4	中学校生活の出席 中学校生活の勉強・授業	新しい生活集団のきまりや生活の仕方を知らせる。 中学校生活のでの授業や学習の方法を理解させる。	○	○										
	遠足について	遠足の目的や内容について理解をさせる。	○											
5	明るい学級	生徒同士の融和を図り、明るい学級作りを目指す。	○											
	将来の夢と希望	将来への希望を出させて、進路についての関心を高める。												
6	梅雨時の健康	梅雨時にかかり易い病気を調べさせ、衛生面に注意させる。												
7	私のつきたい職業	自分のつきたい職業に関する知識を深めさせる。												
9	2学期の見通しと心構え	夏休みの反省などから2学期への心構えを持たせる。	○											
	進路学習の必要性 人と個性	学習と進路の関係を理解させる。 人にはそれぞれ個人差や特徴があることを理解させる。	○	○										
10	男女の役割	男・女の特徴を理解させ、役割分担の理解をはかる。												
	自己を知る	自分の特徴を知らせ、自己の向上をはからせる。												
11	悩みと相談	悩みを解消するための方法と相談の受け方を理解させる。	○											
	身近な職業	身近な職業を考えさせ、自分の将来を見つめさせる。												
12	冬休みの生活	冬休みの意義を理解させ、有意義な年末年始の過ごし方を考えさせる。	○											
	新年の抱負	新しい年を迎えた気持ちを大切に、決意を新たに一層勉強や部活動に精進させる。	○											
1	中学卒業後の進路	中学校卒業生の進路を調べ、進路選択の参考にさせる。												
	自分の体	自分の健康状態を知り、健康の保持増進に関心を深めさせる。												
2	学習態度を見直そう	自分の不得意教科への取り組みを考えさせる。												
	進路計画の立案。	進路を決定するまでの手順や方法を学ばせる。												
3	春休みの生活	春休みを有意義に過ごさせ、2年生への意欲を育てる。	○											
	1年間の反省と休みの過ごし方	生活・学習・部活動等の1年間の反省をさせるとともに春休みの生活を有意義にさせる。	○											

平成元年度 学級指導年間計画

2年生の努力点

- ・ 集団の一人として責任のある生活態度を身につけさせる。
- ・ 個性の伸長を図りつつ、集団の質を高める。
- ・ 心身の健全な発達を助長する。
- ・ 進路の明確化に努める。

月	主 題 名	ね ら い	進学指導 心身発達	進路 男女別	進路 個別
4	2年生になつて	2年生としてその立場を理解して、その役割と責任を自覚してけじめのある生活を送るようにさせる。	○		
	学校生活の決まり	きまりは何故あるのか、何のために作られるのか考えさせ中学生としての生活を正させる。	○		○
	野外宿泊訓練の意義と生活	宿泊学習の意義や目的を理解させ、意欲的に参加させる。	○		
5	職業の意義	職業につくことの意味、価値ある人生を送るために働くことの自覚を持たせる。			○
	よりよい学習法	不得意科目を無くすためにどのような努力をすればよいか学習方法を改善させる。	○		
6	季節と健康	季節に応じた健康管理の大切さを理解させる。		○	
7	資格や免許のいる職業	職業の中には、資格や免許の必要なものがあること、またその取得方法について理解させる。			○
9	2学期の見通しと心構え	1学期、夏休みを反省し、規則正しい生活ができるようにさせる。	○		
10	いろいろな職業	自分の個性を生かし、自分に最もあった職業につくために多くの職業について知る。			○
	進学の意義と上級学校	将来の進路や職業につなげて進学することの意義を考えさせる。希望する職業との関連の中で高校の種類や内容特色について理解させる。			○
11	男女の役割	男女の特性の上に立って役割分担の理解特性を学校生活に生かさせる。		○	○
	各種学校 働きながら学ぶ	上級学校の中には高校以外にもさまざまなものがあることを理解させ、さらにその上の上級学校について知らせる。卒業後もやる気さえあれば進学先があることを知らせる。			○
12	冬の健康	風邪について知り、予防方法、体力作りを積極的に行う態度を養う。		○	
1	新しい年の初めに	新しい決意をもち中だるみのないよう勉強に部活に中心となって頑張る。	○		
2	学習と部活動	生活時間の使い方を考えさせ、計画的な家庭学習ができるようにさせる。	○		
	自分の特色と進路	自分の特色や適性を正しくとらえ、将来の職業・希望と関連させながら進路計画を立てさせる。			○
	余暇の過ごし方	自由な時間をどのように過ごすかで、心のゆとりが生まれその中から生きがいを見つけることに気づかせる。		○	
3	学習検査の受け方	学習検査の受け方、真剣にテストに備え学習意欲を打ち出し、学級全体の雰囲気をも高める。	○		
	よりよい進路計画	進路計画を検討するためのめやすについて理解し、機会あるごとに検討、修正して行こうとする心構えと進路計画を立てさせる。			○
	1年間の反省と春休みの過ごし方	生活、学習、部活動の1年間の反省をさせるとともに春休みの生活を有意義に送らせると共に3年生への心構えを作ろうとする心構えを高める。	○		

平成元年度 **学級指導年間計画**

3年生の努力目標

- ・互いを認め、尊重する人間性を培う。
- ・自主独立の精神と集団への積極的参加の態度を養う。
- ・余暇を善用する態度を養う。
- ・主体的に学習する態度を身につけさせる。

月	主 題 名	ね ら い	学力向上	健康	生活	進路	その他
4	最上級生の心構え	最上級生としての自覚を深め、リーダーとしての役割を認識させる。	○				
	学級生活の充実	みんなで協力して集団生活の向上を図る態度を育てる。	○				
	3年生の学習	自己の学習についての問題点について考えさせ学習計画の改善、計画に即じた実践に努めさせる。	○				
5	自己の特色と進路選択	自分の個性・能力・適性を改めて見つめ直すことにより新たな進路の可能性と自己実現への努力点を考えさせる。				○	○
	進路希望の確立	進路に向かって、進路に対する確固たる考えをもち、自分の進路希望に応じた生活設計をする必要性を理解させる。				○	○
6	梅雨期の健康	梅雨期にかかり易い病気について調べさせ、衛生面に注意させる。		○			
7	進路先の調査方法	自分の希望する進路先をできるだけ具体的、直接的に調査させ、その進路を選んだ場合本当に満足できるか確かめさせる。				○	○
9	2学期の見通しと心構え	2学期の行事や予想されることがらについて、見通しをもたせ、自己の生活のあり方を考えさせ生活の充実を図る。	○				
	進路情報の整理	進路先の調査をまとめ、自分に適した進路について確かめ選択させる。				○	○
10	学習と健康管理	学習を効果的にすすめるために、学習への意欲と健康な体バランスのとれた心が大切であることを理解させ、どうしたら心身の健康が維持できるかを考えさせる。				○	○
	私の勉強法	勉強法について互いに発表しあい、自己の勉強法の改善に役立たせる。				○	
11	進路の決定にあたって	進路決定にあたって自己の置かれた立場、自己の特性、親の願い、自分の希望について考え、進路決定にあたっての正しいありかたを考えさせる。				○	
12	冬休みの事前指導	冬休みの生活のありかたについて考えさせ、有意義な冬休みがとれるようにする。		○			
1	新年の抱負	新しい決意をもって、自分の希望の実現をはからせ、中学生生活の最後を有意義に送る態度を養う。		○			
2	卒業までの見通しと心構え	自己の進路についての計画表に沿った生活を確立する態度を養う。				○	
	受験期の健康生活	受験期の健康について認識を深め、ベストコンディションでこの時期を乗り越えるようにさせる。				○	
	あせりと不安	入学試験をひかえ、あせったり悩んだりしている多くの生徒に自信を与え解決の糸口をつかませる。				○	○
3	受験前後の心構え	受験についての心構えを考えさせる。				○	
	将来の生活に備えて	新しい環境に向けて、意欲的な出発ができるようにする。				○	○
	新たな生活への出発	希望と誇りと自信をもって、卒業後の第1歩を踏み出す心構えを育てる。				○	○

○前回は進路とは何か、また本校の進路の学習について考えてみたいと思います。

1 進路学習の手順

- ①将来の希望
- ②進路の計画を立てる
- ③自分を知る・進路相談をする・職業や上級学校を探る
- ④自分で進路を選ぶ
- ⑤就職や進学の手続きをする
- ⑥将来の生活への心構えをつくる

これらのことから一年生から学んでいくわけです。これからの進路の学習にあたっては進路の情報や資料などを調べたり、家族や先生ともよく相談して、自分自身の方で最もよさわしい進路が得られるようになってほしいものです。

<進路各の調査>

0 少しずつ、つくっていくよう未来の進路

2 将来の希望

○2年生のある学年で、将来どんな職業につきたいかという調査をしたところ、次のような職種別の結果が出ました。

農	業	—	2名	製造業	—	3名	小売業	—	1名
サービス業	—	10名	公務員	—	10名	その他	—	4名	
未定	—	5名							

○皆さんは将来どんな職業を希望していますか、それにはどんな職業があるのかわかっておく必要があります。職業の種類をおおまかに分類しましたので参考にしてください。

- ①人を相手に働く職業
例：販売員、店員、保健外交員、美容師、理容師、スチューデスなど
- ②生物を相手に働く職業
例：農家、林業、漁業、水産養殖業など
- ③物を相手に働く職業
例：製鉄工、塗装工、金属プレス工、大工、自動車修理工など

④事務をとる職業

- 例：事務員、秘書、キーパンチャー、タイピストなど
- ⑤高度な知識や技術および特別の才能を必要とする職業
例：研究者、技術者、医師、作家、評論家、プロスポーツ選手、芸能人など
- ⑥資格や免許を必要とする職業
例：ガス溶接作業主任者、電気工事士、無線通信用士、自動車運転手、航空機操縦士、医師、弁護士、公認会計士、裁判官、外交官など

3 就職についての状況

現在、中小企業の間で人手不足が問題になっているようです。国民金融公庫が発表した「全国小企業動向調査」の中での調査結果によると、今抱えている経営問題の内、「求人難」を第一にあげた企業の比率が急増しているとのことです。平塚公共職業安定所管内での求人数は7月現在で3倍(昨年度は2倍)となっています。本校にも会社の方が直接求人依頼にみえました。このような状況を見て安易に就職できると思うことは大きなあやまちです。自分を生かし、同時に社会に役立つ職につくことは、私たちにとっても大切なことです。全体として求人数は増えているといっても希望する職種や労働条件にあったものはなかなか無いものです。現在進学を希望している人も、自分が就職するときのことを考えてこの点を慎重に考えていく必要があります。

4 進路選択の理由(昭和63年度中学3年生)

昭和63年度中学校・高等学校における進路指導に関する総合的な実態調査の結果次のようなことがわかりました。

- 中学3年生の進学希望者では進路選択の理由として最も多かったのは
○将来の仕事に役立つ知識・技術を身につけたいから(54.7%)
- また、就職希望者のあげた理由として最も多かったのは
○社会人として早く自立したいから(41.0%)でした。

5 いろいろな進路

いろいろな職業について家族や友人と話し合い、その職業につくためには中学校を卒業してから、どんなコースをたどっていけばよいか考えてみましょう。

- 例：①中学校卒業→大工見習い→建築士免許取得→工務店経営
- ②中学校卒業→高校→工員・事務員・店員・公務員
- ③中学校卒業→高校→大学→国家試験→弁護士

本校の進路指導の進め方として、これまでに述べてきた内容を考慮しながら、保護者向けの進路説明会を持ち、進路だよりを発行、また、進路希望調査も行った。以下にその資料の抜粋を掲載する。

学級会活動年間指導計画は学校及び生徒会の行事を考慮して計画を立てた。

平成元年度 学級会活動年間指導計画

重点目標

- 発達段階を考慮した適切な教師の指導助言のもとに、生徒ひとりひとりの主体的な生活態度を培い学級生活向上のために実践する態度を養う。
- 係活動を活発にし、生徒会活動との関連において協力と責任と自主性を養う。

	1 年	2 年	3 年	
1 月	主 題 わらいと、てだて 互いに自己紹介をしよう。 学級の組織を作ろう。 学級目標を作ろう。	主 題 わらいと、てだて 学級の組織を作ろう。 学級目標をたてよう。 宿習学習の計画をたてよう	主 題 わらいと、てだて 学級の組織を作ろう。 学級目標をたてよう。	主 題 わらいと、てだて 1学期としての反省をもち、この1年間の生活態度を振り返る。 1学期の反省をもち、この1年間の生活態度を振り返る。
2 月	遠足を成功させよう。 陸上競技大会への参加	陸上競技大会に全力で取り組もう	陸上競技大会にむけて	陸上競技大会にむけて
3 月	生徒会を盛り上げよう	生徒会を盛り上げよう	生徒会を盛り上げよう	生徒会を盛り上げよう
4 月	係活動を改善しよう	係活動を盛り上げよう	係活動を充実させよう	係活動を充実させよう
5 月	1学期の反省とまとめ	1学期の学級生活を振り返り返って	1学期のまとめと反省をしよう。	1学期のまとめと反省をしよう。
6 月	夏休みの計画を立てさせる	有意義な夏休みにしていこう	最後の夏休みを充実させよう。	最後の夏休みを充実させよう。
7 月	体育祭を機会に結びを強めよう	体育祭を成功させよう	体育祭を成功させよう	体育祭を成功させよう
8 月	光輝祭への参加(合唱祭)	光輝祭にとり組もう(合唱祭)	光輝祭を盛り上げよう(合唱祭)	光輝祭を盛り上げよう(合唱祭)
9 月	光輝祭の反省	光輝祭の反省	光輝祭の反省	光輝祭の反省
10 月	2学期を振り返り返って	2学期のまとめと反省	2学期の反省とまとめ	2学期の反省とまとめ
11 月	寒椿古・駅伝大会への参加	寒椿古・駅伝大会を頑張ろう	寒椿古・駅伝大会を頑張ろう	寒椿古・駅伝大会を頑張ろう
12 月	学級生活の反省と点検	学級生活の反省と点検	学級生活の反省と点検	学級生活の反省と点検
1 月	学級の歴史を作ろう	1年間の学級の歩みを振り返ろう	学級の歩みを振り返ろう	学級の歩みを振り返ろう

進路指導計画は各学年の学級指導年間計画の中に位置づけし、3年間を通した指導となるようにした。

平成元年度 進路指導年間計画

進路指導方針の要旨

- ・ 教師が個々の生徒の理解に務め、生徒一人一人の個性、能力の伸長を促す。
- ・ 生徒自らに能力・適性を知らせ、入生感・職業感を育てる。
- ・ 諸条件を総合的に判断し進路計画を立てさせ、適切な進路選択をする能力を養う。

1 年	2 年	3 年
進路への関心の高揚	進路の明確化と吟味	適切な進路の選択
自分の将来の進路について関心を持ち、高めるとともに希望や計画を持ち、その実現のために自己理解に務める生徒を育てる。	正しい職業観を確立し、進路情報を基にいっそう明確な進路の希望や計画を持たせる。また自分自身で吟味し、実現しようとする生徒を育てる。	自分の能力・適性を理解し進路情報に基づき、適切に自分の進路先を具体的に選択させ、将来の生活によりよく適応し、向上する態度や心構えを養う。

指導上の留意点

- ・ 進路相談の充実
- ・ 進路情報を得させる。
- ・ 特長が体験をさせる。
- ・ 調査の実施(進路意識、職業意識)

3年間で進路希望を育てる手順

	手 順	1 年	2 年	3 年
進路意識の醸成	「なりたい」という気持ちを起こさせる。	将来の希望と進路学習 1. 将来の夢と希望 2. 私のつきたい職業 3. 進路学習の必要性 7. 進路計画の立案	進路計画ののび直し 14. よりよい進路計画	
職業観の形成	「何のために」目的や理由をはっきりとしかも意義のあるようになるべきか、職業につくことにより自分にプラスになり生きがいを感じるように		職業の世界 8. 職業の意義 10. いろいろな職業 11. 進学の意義	
進路希望の明確化	「なるには」なるためのコースを明らかにする。	身近な職業 5. 身近な職業 6. 中学卒業後の進路	9. 学出免許のいる職業 学ぶための機会 11. 上級学校 12. 各種学校 12. 働きながら学ぶ	進路選択にあたって 17. 進路先の調査方法 18. 進路情報の整理
進路希望の現実化	「なれるか」可能性、実現性	人と個性 3. 人と個性 3. 自己を知る	自分をいっそうよく知るには 13. 自分名の特徴と進路	進路選択にあたって 15. 自己の特徴と進路選択
進路希望の実現	「なろう」実現をめざして努力			進学、就職の準備 16. 進路希望の確立 19. 進路の決定にあたって
進路希望の達成	「なる」自分を生かし社会のために生きがいのある生活を送れるように			卒業後の心構え 20. 将来の生活に備えて 21. 新たな生活への出発

また、学級指導略案や資料等を各学年の担当者が各学年教師に提示し、学級担任はそれを参考にして授業を進めた。そして、今年度は初めて同和教育の視点に立って進路指導の授業研究に取り組んだ。各学年の授業者は略案をもとにして指導案や工夫した資料の作成に努力した。

1 年学級指導指導案

1. 題 材 将来の夢と希望
2. 本時の目標 希望に満ちて入学してきた生徒が将来の夢と希望について考えることにより、進路への関心を高めることができる。
3. 指導過程

学習段階	学 習 内 容	学 習 活 動	留 意 点
導 入	将来の夢と希望	夢と希望とは自分にとってどんなものかを考えさせる。	明るい希望をもっているかを確認する。
展 開	夢や希望の内容 友達の夢や希望	小さい頃からの夢を思い出し、時代毎に書き込み最後に現在の夢を書く。 各班の代表者が発表し合う。 友達の夢や希望を知る。	代表に発表させる。 作文を書かせておく。
まとめ	夢や希望を実現するために 個々の将来の夢や希望の検討及びこれからの学習。	希望をもつことの大切さを知る。 個々の希望をみつめ直し、今後どんな努力や学習が必要かまとめさせる。	今後どんな努力や学習が必要かまとめさせる

4. 評価及び事後指導

- ・将来の夢と希望について考えさせ、進路への関心を高めさせることができたか。
- ・各自異なる希望をこれからの進路学習によって、自分で見通しを立てる気持ちができるように指導する。

1 年学級指導指導案

1. 題材 人と個性
2. 本時の目標 自分について深く考えたことの少ない生徒が、自分の行動や性格について、チェックリストを付けさせることなどをおし、人にはそれぞれの個性があり、この個性を伸ばしていくことが自分の将来の進路に関連があることがわかる。

3. 指導過程

学習段階	学習内容	学習活動	留意点
導入	人と個性	「十人十色」ということを考える。 人には色々な特色があることを知る。	
展開	自分の行動・性格 級友から見た自分	日常生活を振り返って、自分の行動や性格をまとめる 気付いたことをメモする。 まわりの人から自分を見てもらう。	チェックリスト使用 個人を傷付けないようにする。
	職業と個性	自分の考えていた自分と級友から見た自分についての違いを発表する。 知っている職業をあげ、それについている人たちの個性について話し合う。	
まとめ	将来の進路と自分の個性	自分が希望する職業をあげ、どんな個性をもった人がよいか考える。 自分の個性と希望する職業に向く個性を比較し感じたことをノートにまとめる。	特色のある職業について考えさせる。 将来の進路を考えたときに自分の個性をどのように考えていたかを反省させる。

4. 評価及び事後処理
 - ・人には色々な個性があることを知り、個性を生かそうとする意欲をもつことができたか。
 - ・自分の特色を知り、それをもとに努力点を明確にし、自分を成長させて行くように励まし助まして行く。

チェックリスト

わたしはこんな人

	A	B	C	D	氏名
1. 靴 学校を休まない					休みや遅刻が多い
2. 雑 学習、読書を好む					体を動かすことが好き
3. 服 言葉使いをあまり気にしない					言葉使いに気を付ける
4. 黙 深く考える					直感を大切に
5. リーダー性 グループの中心となり信頼されている					人を補助するほうが好き
6. 随分 責任感がない					責任感が強い
7. 強 途中で終わってしまうことが多い					粘り強く最後までやる
8. 頑 大切に長く使う					新しいものを好む
9. 友 人に気配に声をかけられない					新しい友人を作るのが上手
10. 独 話も上手活動的					一人であるのが好き
11. 強 だまっている					自分の言いたいことをはっきり言う
12. 随 人の噂を気にする					気にしない
14. 飛1 人が見ていなくてももしっかりやる					人が見ていると頑張れる
15. 飛2 自分の気持ちを大切に					相手の気持ちを大切に
16. 雑 考える作業を好む					体を使う作業を好む
17. 手先の器用さ	器用	普通	普通	器用でない	
18. 他人の世話	好き	普通	普通	きらい	
19. 機械を動かすこと	好き	普通	普通	きらい	
20. 自然を相手にすること	好き	普通	普通	きらい	

1年学級指導指導案

1. 題材 私につきたい職業
2. 本時の目標 将来の職業については夢や希望でしかない生徒が、級友や自分の将来希望する職業をお互いに発表し合うことにより、それについての考えを深めることができ、希望にむけて努力することができる。

3. 指導過程

指導段階	学習内容	学習活動	留意点
導入	自分や級友の将来つきたい職業の発表。	特級がつきたい職業について、話し合う	かたがたをきかせる。
展開	希望する職業につくための問題点。 解決方法	自分の希望する職業につくための、どのようなことを考えに入らなければならぬかを考える。 ・能力・適性・家庭の意向・経済・資格 どのような問題点を挙げて話し合う。 ・自己理解・学習方法の改善・家族との話し合い ・教育相談・職業についての調査	特級の意見に留意する。
まとめ	将来の職業についての意識高揚	思いの強さを自分の声で発表する。	顔の表情等の観察を促す。

4. 評価及び事後指導

将来の希望実現に向けて努力する気持ちをもてたか。
将来の希望が実現できるよう、具体的に目標を立てさせて個別指導する。

2年 学級指導案 (進路)

1. 題材 いろいろな職業
2. 本時の目標 自分の希望する職業について、単なるあこがれとしてとらえている生徒が、いろいろな職業を調べることにより自分に最も合った職業に就くためにはどうしたらよいかを、考えられるようになる。
3. 指導過程

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	身近な職業における種類や役割、特性の違い 職業部の内容、特色、適性による分類	知っている職業名をあげ職業分類、職業分類によって仕分けして発表する。 職業を次の観点によってグループで分類してみる。 ・人を相手にする ・生物を相手にする ・物を相手にする ・事務をとる ・専門的な知識や技術を必要とする	なるべく異なった職業、職業に分けるよう配慮する。 職業の偏見に注意する。
展開	職業の特性と要求される資質	分類されたそれぞれの職業グループについて、どのような特色があり、どのような資質が要求されるか調べたり考えたりしたことを発表する。 ・明瞭で外向的で社交的な人柄の人が向くもの ・個人的な人 など	自分の希望する職業について念頭におきながら考えさせる。
まとめ	自分に合った職業についてまとめる。	職業の要求する資質や条件と自分の適正についてまとめる。	職業を表面的にとらえるのではなく、一つの個性や能力の発掘として考えさせる

4. 評価

職業によって要求する資質があり、適正があることがわかったか。

2年 学級指導案 (進路)

1. 題材 資格や免許のいる職業
2. 本時の目標 資格や免許の必要な職業を知ることにより、自分の希望職業についてその資格や免許の取得方法を調べることができるようになる。

3. 指導過程

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	資格や免許の必要な職業	自分の知っている職業の中で、資格や免許の必要な職業をあげさせる。	
展開	取得方法 資格や免許を必要とする職業 希望職業の資格や免許の取得方法	職業について必要な資格、免許とその取得方法について身近な人に聞いてきた事を発表させる。 いくつかの職業名をあげ、取得方法別にまとめる。 各自に希望職業の資格や免許を取るための方法を書かせる。	なぜ資格や免許が必要なのかを考えさせることにより、社会的責任に目をむけさせる。 希望職業に資格・免許がない場合は興味ある職業について書かせる、
まとめ	資格や免許を持つことの意義	資格や免許を取得することの意義や有利性を説明する。	

4. 評価

- ・資格や免許の必要性が理解できたか。
- ・希望職業の資格や免許の取得方法がわかり、意欲付けができたか。

1. 題材

進路の選択にあたって

2. 本時の目標 進路を選ぶ条件を理解させ、希望する進路を考えさせながら意欲的に学習に取り組みうとすることができる。

3. 指導過程

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	進路希望の実際	学級の実態を把握し、感想を発表する。	ひとつだけでなく、第2第3希望までかく
展開	未決定の理由と問題点 進路選択の基盤	問題点を発表する。 事例を比較し、話し合いを持つ ・自分の将来の見通し ・自分の特性 ・家庭環境 ・進路先の内容	心構えに問題はないか考えさせる。 自己理解点検カード 進路学習計画表
まとめ	進路選択の反省 進路選択にあたって	学習した内容から、自分自身を見直す。 進路学習への心構えをつくる。	本人の希望、保護者の意見、担任の意見が一体となるようにさせる。

4. 評価

進路選択の心構えができ、これからの学習への取り組みに対して意欲的になってきたか。

1. 題材 進路先の調査方法
2. 本時の目標 希望する学校・就職先の調査の必要性を感じ、方法や内容について理解することができる。
3. 指導過程

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	学校・就職先についての知識	希望する学校・就職先についてどのくらい知識があるか話し合う。	
展開	調査の必要性	進路選択の失敗例等を知り、その原因について話し合う。	原因についていろいろな角度から考えさせたい。
	調査の内容	何を知らなければならないか意見を出し合う。	「進路のてびき」
まとめ	調査の方法	調査方法には、どのような方法があるか意見を出し合う。	卒業生、兄弟、親、教師等、いろいろな人からきく方法をとらせたい。
	まとめ方と発表方法	計画を立てる。	
まとめ	調査計画	グループごとに、活動計画を話し合いまとめる。	

4. 評価

進路先の調査の必要性を理解し、目的を持って計画を立てられたか。

1. 題材 進路の決定にあたって
2. 本時の目標 進路の決定を迫られる時期を迎え、自分自身を見つめ直し、進路選択上の内外の諸条件を再確認し、検討して、より具体的な進路計画を設計することができる。
3. 指導過程

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	進路選択のための諸条件	進路選択のための諸条件にはどんなものがあるか、発表する。	適性を生かすことが大切であることを確認させる。
展開	将来の職業	将来どんな職業につきたいか発表する。	
	希望の職業につくためのステップ	希望の職業につくためにはどんなコースがあるか発表する。 ・卒業後すぐに就職 ・高校の学科 ・大学に学部 ・専門学校 ・職業技術校	資格についても調べさせる。 専門学校、職業技術校については、わからないことが多いので、しっかり確認させる。
まとめ	高校の特色	進路について考える。	
	自分の進路希望の吟味	各自の適性、能力、家庭状況等から考えて、希望進路が自分にあるか考える。	自分の意志を明確にできるように注意する。
まとめ	目標に向かって	目標に向かって、勉強以外に何を具体的にすべきか考える。	

4. 評価 自分の適性にあった職業を考え、目標達成への意欲と積極的な態度を養うことができたか。

学級指導指導案

指導者 伊勢原市立中沢中学校 教諭 橋本 貴永

1. 日 時 平成元年5月23日(火) 第6校時
2. 学 級 第1学年4組(男子20名, 女子20名, 計40名) 1年4組教室
3. 学級の実際 全体的に明るい雰囲気である。特に男子が積極的で、板書や発言の際には先を争っている。また、グループ学習の時には理解の遅い生徒に対して、みんなで教えあう体制もできている。その際、当初あった「からかい」も影をひそめてきたが、再発しないように努力し今の雰囲気継続させたい。
4. 題 材 名 将来の夢と希望
5. 題材設定の理由 中学校に入学して2ヶ月ほど過ぎ、生徒の心には不安も去り夢と希望に満ちあふれている今、それらを整理して、具体的な努力方法を探り、向上する態度や心構えを養いたい。
6. 指導目標 将来の夢と希望について考えさせ、進路への関心を高めさせることができるとともに、個々の異なる希望をこれからの進路学習によって自分で見通しを立てる気持ちができるようにしたい。
7. 指導計画
第1次・・・将来の夢と進路学習
第2次・・・身近な職業(本時は2時間目)
第3次・・・人と個性
自分の将来の進路について関心を高めるとともに、希望や計画を持ちその実現のために自己理解に務める生徒を育てる。
8. 本時のねらい 自分自身の進路への関心を高めさせるとともに、進路を見通した日々の努力につなげるようにしたい。
9. 同和教育の観点より特に留意すること
視点1 個を尊重し、集団の中での豊かな人間関係を作る。
視点5 物事を自分の問題としてとらえ、自ら解決する。
視点6 働く意欲や目的を正しくとらえ、適性に応じた進路選択ができる。

10. 指導過程

学習段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導 入 (10分)	将来の夢と希望	・夢と希望とは自分にとってどんなものかを考える。	・明るい希望を持っているかを確認する。 ・代表に発表させる。 ・前日に書かせた作文を教師が続む。
展 開 (35分)	夢や希望の内容	・小さい頃からの夢を思い出し、時代毎に書き込み最後に現在の夢を書く。	
	友達の夢や希望	・各班の代表者が発表しあう。 ・友達の夢や希望を知る。	
ま と め (5分)	夢や希望を実現するために 個々の将来の夢や希望の検討及びこれからの学習	・希望を持つことの大切さを知る。 ・個々の希望を見つめ直し、今後どんな努力や学習が必要かをまとめる。	・今後どんな努力や学習が必要かをまとめさせる。

11. 資料Ⅰ プリント「私の夢」

資料Ⅱ 作文「私の将来の夢・希望」

12. 評価及び事後指導

①将来の夢と希望について考えさせ、進路への関心を高めさせることができたか？

②各自で異なる希望をこれからの進路学習によって、自分で見通しを立てる気持ちができるように指導する。

私の夢 1の4 柳沢智美

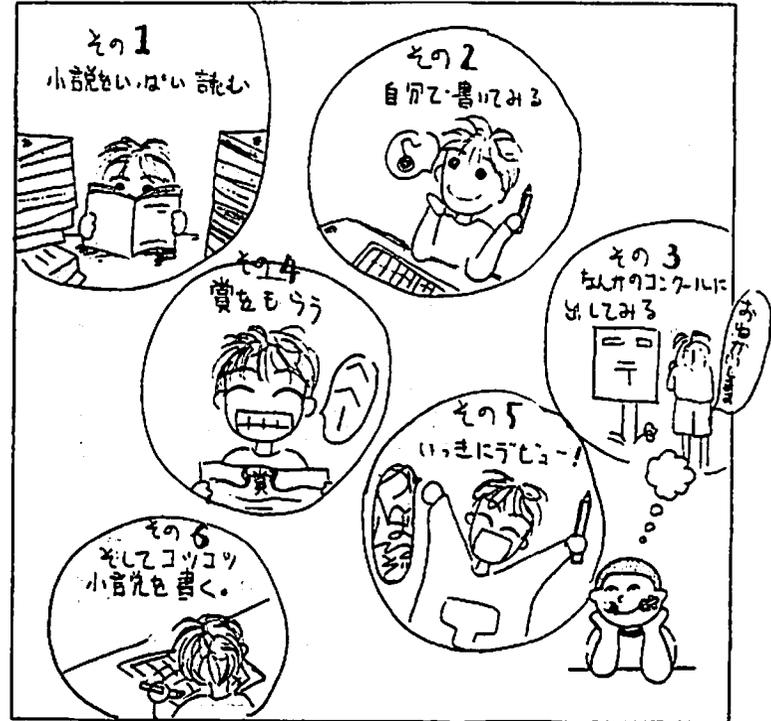
1 私達は小さいころからいろいろな将来を夢みてきました。その夢を思い出して整理してみましょう。

年代	夢や希望	主な理由
幼稚園のころ	ドラえもん になりたい。	21世紀の道具を出せるから、未来に行きたいから。
小学校低学年のころ (1~3年)	:	:
小学校高学年のころ (4~6年)	小説家	やと現実を見はじめた小説家は自分の本がベストセラーになると有名になれるから。
現在	:	有名になれば収入がいいし、かっこいいから。

2 友達の夢や希望を聞いてみましょう。みんな、どんな夢を描いているでしょう。



3 自分の夢について、簡単な絵を書いてみましょう。



4 自分や友人の夢について考えてきましたが、その夢について次の視点でもう1度考えてみましょう。

	観	点
1. 現在の夢は、当分変わらないと思う。	思う	思わない
2. 現在の夢は、実現可能だと思う。	思う	思わない
3. 現在の夢は、父母も知っている。	思う	思わない
4. 夢を実現するために少しでも努力している。	思う	思わない

学級指導指導案

指導者 伊勢原市立中沢中学校 教諭 鈴木義子

1. 日時 平成元年5月23日(火)第6校時
2. 学級 第2学年1組(男子19名女子22名 計41名)
3. 学級の実態 全体的には明るく素直な雰囲気である。授業は静かによく聞くが、話し合い活動においては積極性にやや欠ける。わがままで他人任せの態度が見られる生徒もいるが、よい意見を上手に引き出して行く指導が必要である。
4. 使用教室 2年1組教室
5. 題材 働くことの意義と目的
6. 題材設定の理由 これまでの進路の学習では、自己を知り、将来の夢や希望を考えてきたが、2年生になったこの時期、「労働とは何か」を考え、学習することにより、自己の進路を見通した、より具体的な希望を持たせ、それに向かって努力する態度を育てたい。
7. 指導目標 身近な人たちの労働を知ることにより、労働に対する自らの差別的認識を克服し、「生き方をからめて「働く」という意味を考えさせる。
8. 指導計画
 - 第1時 「何のために働くのか」話し合う
資料(働くことについて考える)を読み、感想をまとめる
 - 第2時(本時) 身近な人(親など)の労働についてのレポートを読み合う。
9. 本時の目標 様々な職業の苦勞やよろこびなどを知り、働くことの現実性を見つめ、新たに自分の進路選択について考える。
10. 同和教育の視点
 - 視点6 働く意義や目的を正しくとらえ、適正に応じた進路選択ができる。

11. 指導過程

学習段階	学習内容	学習活動	留意点
導入	前時の学習の確認	前時に話し合った内容を思い出し、本時の学習の進め方について教師の話を聞く。	前時の学習内容を想起させ、本時の学習内容をつかむ。
展開	身近な人の労働についてのレポートを読み合う。 働くことの目的、意義について、再度考える。	身近な人の労働について調べてきたことを発表し合う。 ・発表された内容をもとに、感想や意見、疑問点などを出し合う。 働く目的や価値について、最初に話し合った内容や、自分の考えと照らし、感想や意見を発表する。	あらかじめ数人の生徒を指名しておき、発表させる。 働く目的や価値について強く感じた部分にアンダーラインを引くよう指示する。 個人と社会の両面から職業の本質をとらえさせると同時に、職業に様々な側面があることに気づかせる。
まとめ	自己の進路への展望と心構え	自分はどんな考えや心構えのもとに将来職業について働くようとしているのか、まとめる。	望ましい職業観であるか。

12. 評価
 - ・働くことの目的、意義について考えを深めることができたか。
 - ・望ましい労働観のもとに、自分の進路への関心を高めることができたか。

2年 進路の学習 働くって何だろう？

— 身近な人の労働 —

父に聞く

S

父は、機械設計 製図業務 こういうのが仕事をしています。この仕事についての理由は、会社の移転のために転職したからだそうです。そして自分の学んだ技術が ちゃんと生かされると思ったからです。楽しいことやうれしいことは、自分で設計した装置が完成した時です。苦しいことやいやなことは、やっぱり決まった時間に帰れないことだそうです。その仕事の中で生かしていると感じる時は、書いている図面が完成して進んでいる時です。私はこの話を聞いて、やっぱりその仕事によって苦しいこと、楽しいことがある。その仕事によって大変さがある。とてもおもしろいなと思いました。……

父に聞く

T

父は農家の5男に生まれました。兄弟が5人、食べるものも少ないです。見たら農家の子といえて、私は中学校3年生ころアルバイトから大工をします。食っていくためです。それから今までやっています。今年で25年になります。家を建てるために神経を使います。図面材料を買って、それから建てる準備をします。建てたときは、建前といって柱を建てることです。感動します。できあがって人が住んでおくれることが生かれています。

父に聞く

J

私の父は18年ほど前には公務物処理コンサルタントという仕事に就きました。なぜ現在の仕事についてなのかという自分の持っている学力、知識を最も生かせると思ったからです。そして、仕事についての目的は国際的に活躍したいからです。また、仕事をしていて楽しいことは自分の技術や知識が仁

事に役立った時で、苦しいことはないそうです。

No. 1.

生きがいを感じる時は人に「よられた」時だと言っていました。私は、父の生きがいも人に「よられた」時だなんて驚きました。私は人に「よられた」らすく、そのことから何かしようとしてしまいます。そんなことではいけない と思いました。

母に聞く T

母は薬科大学で薬剤師の資格を取ったので、卒業後病院の薬剤師として、結婚後薬局の管理薬剤師として働いています。毎日店頭に立って、いろいろな人に会い病気の症状を聞いて薬をすすめています。そして、その後その人からその薬を使って治った、という声を聞いたときは、とてもうれしく思い、とうとう効果があかちないと聞いた時は、からかりするそうです。そして少しでもいろいろな人の役に立ちたいと毎日お店に出ているそうです。

父に聞く M

私の父は55歳に製造業、おもに木を切るチェーンソー、鋸歯の切りばり機、建設機械のパーツやバル等の製品を作る会社に入社しました。父の仕事は経理で、会社の良し悪しは最終の経理の数値にあらわれるので、それを改善するのがそうです。目的は会社をよくするために、どのような部署にふつたと言っていました。最もうれしいことは、思いとを指摘して良くなった時、です。サウマンは上下関係があるので、その人間関係をうまくやっていくのが大変なとか、会社は人によって構成されているので、いろいろな指摘に対しても動かないときが苦しいのだ、ということです。

父の経理 という立場から会社によりよい提言を与え、改善させること、そして若い人を育て、1人前、それ以上の人間に育てることから生きがいだそうです。父は専攻専門職になろうと意気かきをもつて勉強すると同時に、幅広い知識を得るために、国際経済の知識も得ておかなければならない。父は自分がかつと思ふ職業には、ある程度の知識は必要で、会社に入ってからでも充分努力をする必要がある と教えてくれた。

学級指導指導案

指導者 伊勢原市立中沢中学校 教諭 北島 昌人

1. 日 時 平成元年5月23日(火)第6校時
2. 学 級 第3学年3組(男子 23名 女子 21名 計 44名)
3. 学級の実態 明るく楽しいクラスであるが、けじめが欠ける部分も多く見られる。またレクリエーションなどを行うときは積極性があるのだが授業になると反応がなくなり、積極性がなくなってしまう。
4. 使用教室 3年3組教室
5. 題 材 進路の選択にあたって
6. 題材設定の理由 いよいよ進路の選択の時期である。今まで行ってきた進路学習のまとめとして、より具体的に自分の進路をどのように選べばよいかを考えさせるとともに、個別指導のためのきっかけとしたい。
7. 指導目標 自己の能力・適性を理解し進路情報に基づき、適切に自分の進路先を具体的に選択させ、将来の生活によりよく適応し、向上する態度や心構えを養う。
8. 指導計画 自分自身を見直す。(本時) → 進路先の調査 → 進路情報の整理 → 自己の特色と進路の選択 → 進路希望の確立 → 進路の決定にあたって → 将来の生活に備えて → 新たな生活への出発
9. 本時の目標 漠然と進路を考えていた生徒が進路選択の基準と現時点での自分の進路を関連させて、不十分な点を反省し、進路を選ぶ諸条件を理解させ、自分の希望する進路を考えさせながらこれからの進路学習に意欲的に取り組もうとすることができる。
10. 同和教育の視点により特に留意すること
生徒一人一人の個性、能力の伸長を促す。(視点 6)

11. 指導過程

学習段階	学習内容	学習活動	留意点
導入	進路希望の実態	学級の進路希望状況とその選択基準を知り感想を発表	進路希望調査結果を発表 1つだけでなく第2第3希望までかく
展開	未決定の理由と問題点の確認 進路選択の基準	未決定の者はその理由または問題点(悩み)などを発表させる 2,3の事例を比較し、進路を決定していく場合、考えねばならないことを話し合う。 ・自分の将来の見通し ・自分の特性(能力・適性) ・家庭環境 ・進路先の内容 調べておきたい内容とその方法を考える	進路選択をする心構えに問題点はないか気づかせる 自己理解点検カード 進路学習計画表
まとめ	進路選択の反省 進路選択にあたっての心構え	今までの話から自分の考えかたの足りなかった点をメモする 進路学習への取り組みの心構え	本人の希望、保護者の意見、担任の意見の三者が一体となること。 これをきっかけとして進路の個別相談へもっていきたい。

12. 資料
 - ・学級の進路希望調査
 - ・2,3人の選択基準事例
 - ・進路学習計画表

13. 評価及び事後指導

- ・進路選択の心構えができ、これからの進路学習への取り組みにいよくてきになったか。
- ・進路学習計画表を掲示し、生徒の進路学習への意識の高揚を図る。

授業研究の反省

1年生

「将来の夢と希望」という題材の中で生徒に用紙を配布し、「私の夢」という資料をつくらせた。これを通して進路についての関心を高め、これからの進路学習によって個々の異なる希望に自分で見通しを立てる気持ちを起こさせる。さらに、その気持ちを日々の努力につなげるようにさせる。そこで生徒は各班ごとに将来の夢や希望について話し合い、代表者が結果を発表した。授業の雰囲気は明るく発言も活発で、全体的に盛り上がり、進路についての関心が深まったようだ。また、夢や希望を実現させるためにどのような努力をしなければならぬか、各自で考えさせることができた。しかし、中には自分の問題としての関心を持っていない生徒もいて、彼らが将来の夢や希望を持ち、それに向かって日々努力するようになることはなかなか難しい。これからの指導に力を入れ、このような生徒にも自分を生かす進路について真剣に取り組めるようにする必要がある。

2年生

「働くことの目的と意義」を考えさせるにあたって、“身近な人の労働”について調べ、レポートづくりをさせた。先に将来の希望の職業のアンケートを取ったが、まだ自分の将来について漠然としたものとしか捉えていない生徒が多かった。また、将来の希望と今の自分とをどう結び付けたらよいかのかわからないようだ。このことをふまえ、レポートづくりをさせた。それを学級で発表し合うことにより、労働をより身近なものとして捉え、さまざまな苦勞や仕事の喜びを知り、更に目的と意義を考えさせることにつなげていきたいと考えた。レポートは自分たちの親などの生の声が載せられたので、生徒は非常に興味深く学習できたようである。さまざまな職業の具体的な内容を知り、どの職業にもいろいろな苦勞や喜びがあることを学習することができた。今まで知らなかった親の姿(生きざま)を発見することができた。更に、この学習に基づいて正しい職業観を持ち、どう自分の将来を考えたらよいか、そのために今をどう生きたらよいかを考えさせ、指導していくことが今後の課題であろう。

3年生

「進路の選択にあたって」の題材のもとに自己の能力・適性を理解し、進路情報に基づき、適切に自分の進路先を具体的に選択させ、将来の生活によりよく適応し、向上する態度や心構えを養うという指導目標で各グループ毎に進路選択の諸条件について話し合い、発表した。明るい雰囲気ですさまざまな意見が出た。特に進路先の内容で調べておきたいことは、たとえば高校では校則や卒業後の進路状況を知りたいという意見が出ていたが、これは中学校卒業後の進路選択について考えがかなり具体的になってきたことを表している。この授業では進路を選ぶ諸条件を理解し、自分の希望する進路について検討させることができた。今後は、生徒一人ひとりの個性・能力の伸長を今まで以上に促す指導が必要である。

ウ. 評価と反省

学級指導年間計画に従い、研究部内の各学年担当者が各月の進路指導に関する略案をつくり、各学年の担任に提示した。これにより、昨年より計画的で充実した進路指導が行われた。昨年度の反省から今年度は進路指導の授業研究を各学年で進めた。この結果、生徒一人ひとりが進路に関する具体的な興味・関心を深めることができた。また、教師の進路指導に関する指導案の作成や資料の有効な使用方法等の研究に進歩があった。

授業において父母に対するアンケートやそれに対する感想、家庭で聞いてきた親の職業の内容や苦勞話を取り入れ、親子のふれあい・対話の機会として大変意義のあるものとなった。

各学年の担当者による進路指導の略案、資料作りにおいて計画通りにできずに学級担任に迷惑をかけてしまった。また、資料作りにおいては、その参考となるべき資料の収集ができていないため、略案や資料作りを独自に考えたために担当者に多くの時間を費やさせてしまった。

今後、すべての生徒が進路を自分の問題として認識し、真剣に取り組めるようにするとともに、正しい職業観の指導、個性・能力の伸長を促す指導をより充実させて、将来を考え、そのために今をどう生きてらよいかを考えさせていかなければならない。

②学級の日

ア. 設定理由

日頃の学校生活の中での生徒の活動を見ていると助け合って共に伸びようとする思いやりのある行動や意欲的な活動、進んで働く態度などに欠けているような気がしてならない。もちろん、生徒達の中にはそういったよい面もあるのだが、なかなか行動として表面化していないというのが現状ではないだろうか。今日の社会生活の中で、人間と自然、また人間同士の関わりを大切にすゝる気持ちが薄れているとよくいわれる。このことからの影響も多分に考えられるが、我々教師が学校教育の中で、どのようにその点を補っていったらいいのか、そこを考えてみたい。では、思いやり・意欲的な活動・進んで働く態度などは学校のどんな条件の中で養われるのだろうか。まず学校生活が豊かで楽しいものでなくてはならないだろう。そのためにも、教師や生徒同士が生徒一人ひとりの持っている良さを発見し、それを生かして生徒が協力して責任を果たし、集団の一員としての自覚を深めるような活動が必要になってくる。そこで、担任と生徒とのふれあいの場、また一人ひとりの活動と学級全員の協力の場として、教師の会議に妨げられることなく、生徒も部活動に気兼ねせずに活動できる、学級の日を設定した。

イ. ねらい

- a. 学校生活をより豊かで楽しく、また創造的なものにする。
- b. 教師や生徒同士が生徒一人ひとりの持っている「良さ」を発見し、それを生かして生徒一人ひとりが集団の一員としての自覚を深め、互いに認め合って、協力して責任を果たせるようにする。（「良さ」＝助け合って共に伸びようとする思いやりのある行動や意欲的な活動、優しい性格、進んで働く姿など）
- c. 自然とのふれあいを通して、生命を尊重する心を育て、広く他を思いやり、互いに認め合う人間性を育てる。

ウ. 仮説

担任と生徒とのふれあいの場、また一人ひとりの活動と学級全員の協力の場として、学級の日を設定し、その中で楽しく創造的な活動をしていく。さらに自然愛護活動も取り入れていくことによってねらいに迫れると考える。

エ. 研究の実践

ア. 1年 オカリナの製作

学級でのアンケート調査実施に始まり、生徒一人ひとりが協力して創造的で豊かな楽しい学校生活を送るという目的で設定された「学級の日」の趣旨を考慮し、創り出す個の喜び、合わせる(合奏)全体の喜びを求めて学年会での検討を経てオカリナの製作が決まった。

年間計画

月	内 容	月	内 容
4	アンケート調査実施	10	音程調整・絵付け・ニス塗り
5	道具(粘土かきべら)づくり	11	運指等の基礎技術指導
6	石膏型づくり(型枠も)	12	簡単な斉奏
7	オカリナづくり	1	合奏の練習
8	オカリナづくり	2	合奏の練習
9	素焼・音程調整	3	合奏の練習

第1回(4月) アンケート調査に基づいた学級での話し合いを行った。

これを参考にして学年会で今年度はオカリナづくりと決定した。そのために、教師2名がオカリナづくりで有名な東京都昭島市立中神小学校の養田先生の所へ指導を仰ぎに伺った。

第2回(5月) 粘土かきべらを製作した。

長さ12センチ、直径1センチの木の丸棒の両端に針金を輪にして順糸でしばりつけて固定する。

第3回(6月) 石膏型を製作した。

ブリキの型枠と、シリコンの原型を作ってそれをもとにして作りたいくつかの石膏型を準備しておく。それに粘土を詰めて型抜きし、これを粘土板の上に貼りつけてブリキの型枠で囲み、石膏を流し込んで麻スタッフで補強する。

第4回(7月)・第5回(8月) 粘土でオカリナを製作した。

場所や道具の関係で200人の生徒が一度に作業できないので、7月の学級の日、8月の全校登校日、学年登校日、職員作業日など数回に分けて作業をした。前回までに作っておいた石膏型(雌型)に粘土を詰めて成形し、木を削った雄型に合わせて凹みをつくり、これを型から抜く。→決められた位置と大きさの指穴を開ける。→吹き口と歌口の成形をし、試し吹きをして音が出るようにする。→上下半分ずつに分けて作っていたものをドベ(粘土を水でドロドロ)を使って貼り合わせる。

第6回(9月)・第7回(10月) 素焼きをした。(教師) 素焼きをしたオカリナの整形と音程調整をして、絵付け・ニス塗りを行った。本来、音程調整と整形は素焼きをする前にしておくことが望ましいが、夏休みなどで時間的に無理であったので、先に素焼きを行ったものが大多数になった。

オカリナの作り方

各部のサイズ

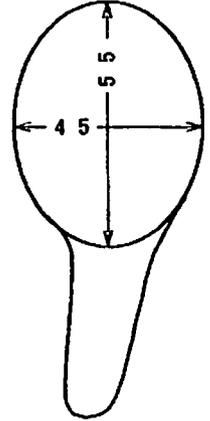
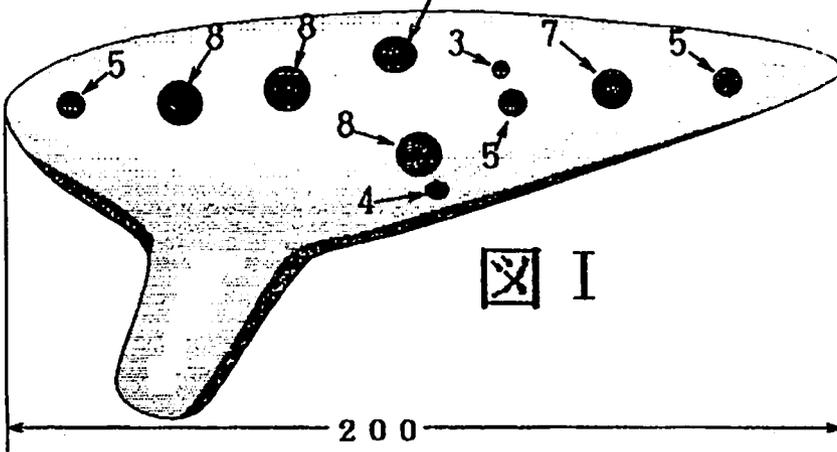


図 I

雌型の作り方

ブリキの型枠(幅5cm程度)

型枠と雄型はできるだけ等間隔に、近すぎるところの無いようにする。

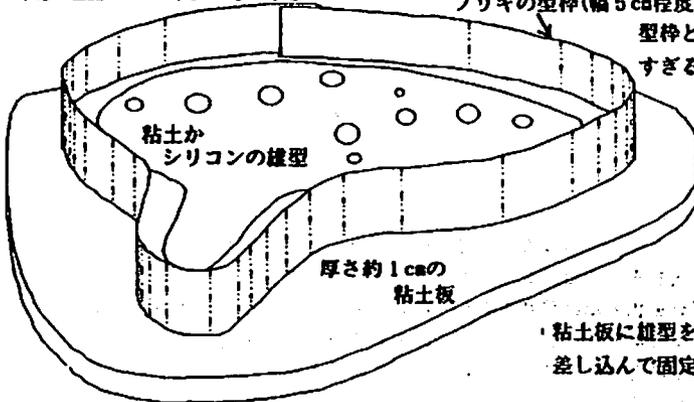


図 II

粘土板に雄型を隙間の無いように貼り付け、型枠を5mm程度差し込んで固定する。ここに石膏を流し込む。

<石膏の溶き方と流し込み方>

風邪をひいていない(湿気を吸っていない)焼き石膏を使うこと。

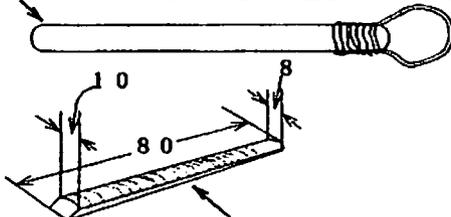
容器に必要な量の水を取り、そこに石膏の粉を振り入れる。入れる粉の量は、水面上に乾いた粉が出ずに、残った水も無いようにするのが適量。途中で決して混ぜないこと。適量を振り入れたら、容器の横をたたいて気泡を無くし、泡を立てないように100~150回ヘラでかきまわす。十分流動性があるうちに気泡を含んでしまわないように型に注ぐ。念のため、型の周囲をたたいて気泡を抜くこと。

上の様にして反対側もつくる。

<注意> 雄型の上面(流し込むときは下面になっている)が平面になるようにするため、粘土板は一定の均等な厚さにし、平らな所に置く。

必要な道具類

粘土かきベラ 丸棒の端に針金を曲げて用糸で縛り付ける



歌口の穴をきれいにつくるためのヘラ----竹を削って作る。

細工用鉄ベラ

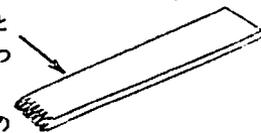
3mm程度の太さのピアノ線を曲げてグラインダーで削り、刃をつける。



木か竹で作った筒のようなもの(上半分と下半分を接合するとき、接合面にきずをつけてそこにドベを塗る。)

※ドベ: 粘土を水でどろどろに溶いたもの

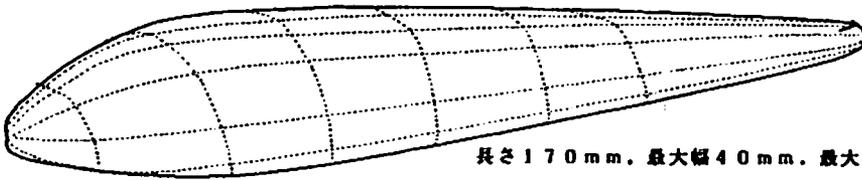
図 III



オカリナのつくりかた2

中型（オカリナの内部の空間の形を考えて木を削って作る。）上下半分ずつ2個で一組

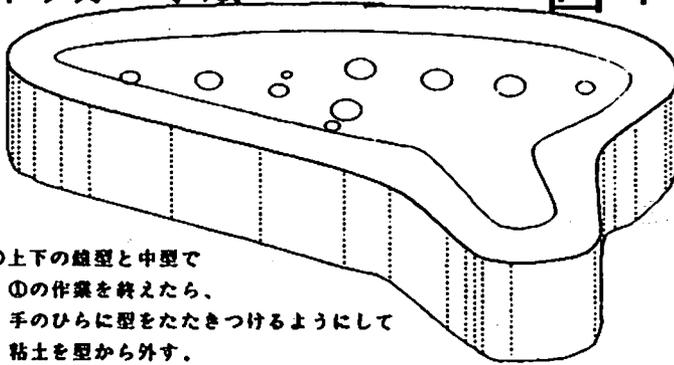
図Ⅳ



長さ170mm、最大幅40mm、最大厚さ18mm程度

作り方の手順

図Ⅴ



①石膏の雛型は左のようにできる。雛型に200から300gぐらいの粘土を詰め込み、しっかりと指で押しつける。中型の形に合わせてへこみができるように強く押すこと。はみ出した粘土は型の上面に合わせて削り取る。ある程度へこみができたら薄いビニール（木製の中型と粘土の雛型のため）などをかぶせ、上から中型を押しつけてみる。さらに、はみ出した粘土を削り取る。これを繰り返す、中型の平らな面が雛型の上面と水平になるようにする。この作業を上下両方の型で行う。

②上下の雛型と中型で

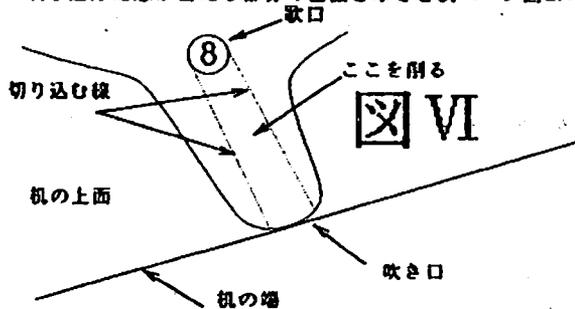
①の作業を終えたら、手のひらに型をたたきつけるようにして粘土を型から外す。

③決められた大きさの指穴を開ける。

（金属のパイプなどで必要なサイズ—3、4、5、7、8、10mmのものを揃えておき、4cmぐらいに切っておくと便利）指穴をパイプを使って開ける際には穴の裏側に指を当ててパイプを回転させながらオカリナの長軸に向かって押し込む。裏から指を当てておかないと押す力でオカリナがつぶれてしまう。（図Ⅰ、Ⅹ）

④歌口をつくる。下の図のように下半分の部分を机の端に伏せて置き、吹き口と歌口をつなぐ息の通る道を作る。

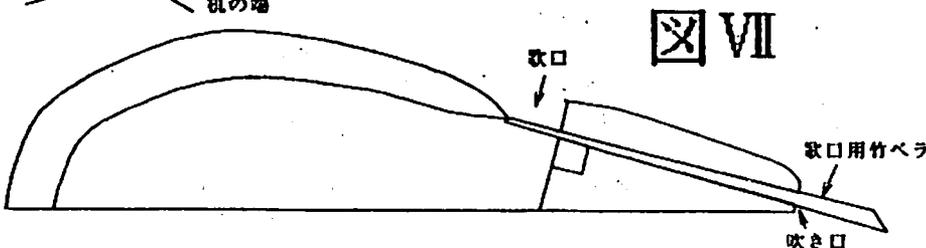
歌口と吹き口の両端を結ぶように7から8mm幅で鉄ペラなどで切り込みを入れる。この時、歌口より吹き口に向けて徐々に深くなるように切る。竹ペラの後ろの刃の部分で歌口から吹き口に向けて粘土を削り取っていく。削り取った面はなめらかな平面になるようにすること。竹ペラの向きを逆に薄い方を歌口側になるようにして仕上げる。歌口にヘラの先端がいくように置き、上から四角柱状にした粘土を上から押しつけるようにしてヘラを埋め込む。次に歌口の穴を開けるためにヘラを少し（1cmぐらい）引き抜く。歌口のところにヘラと直角になるように直径8mmのパイプを差し込んで歌口を開ける。差し込んだパイプを抜いてヘラを元の位置まで押し込む。それから吹き込んだ息が当たる部分の位置と厚さを次ページ図Ⅵのように粘土を削る。



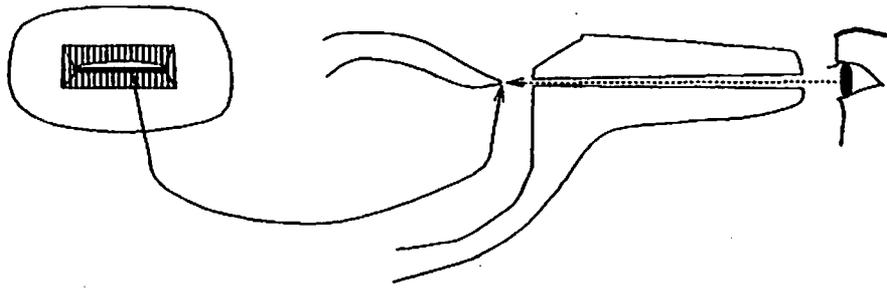
図Ⅵ

竹ペラを元の位置まで差し込んだときに押し出された粘土を鉄の細工用ヘラできれいに取る。パイプを再度元の位置まで押し込んで歌口の穴をきれいにする。図Ⅵのような正しい形になっているか因べる。吹き口からのぞいてみたときに息が当たる部分が息が通る穴の中央に見えれば、ほぼ良い。

図Ⅶ

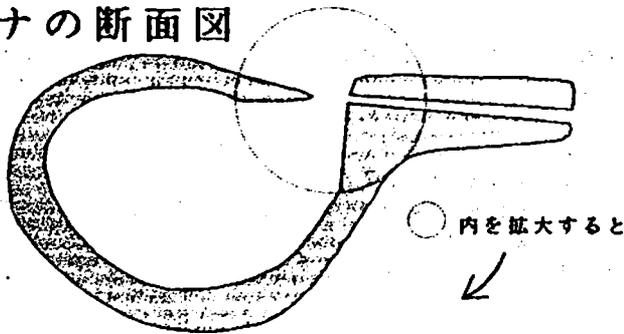


オカリナのつくりかた3



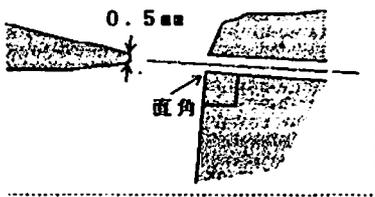
図VIII

オカリナの断面図

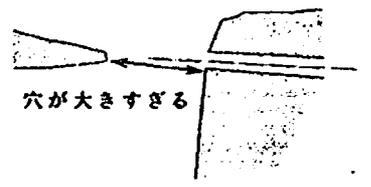
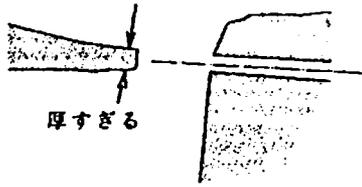
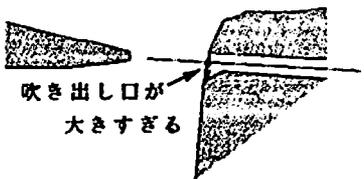
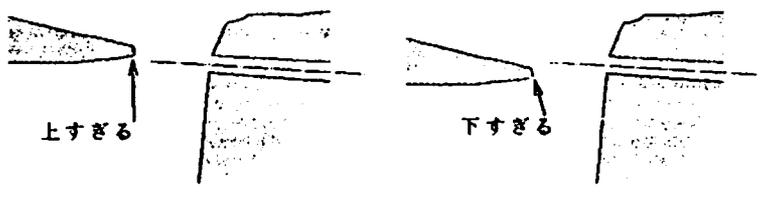


図IX

正しい



音が出ない



オカリナのつくりかた4

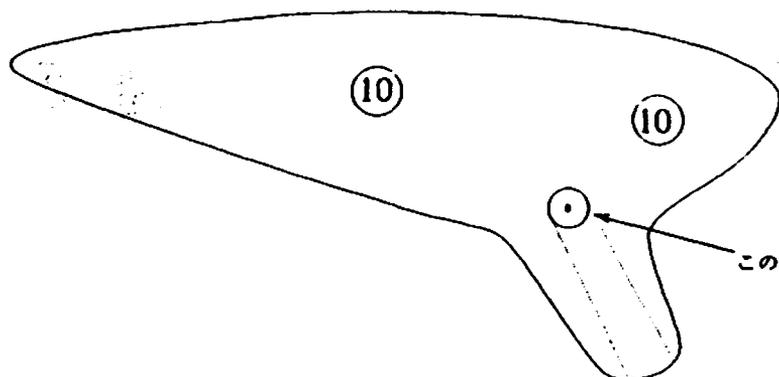


図 X

この穴は作業④の歌口を作るときに開ける。

- ⑥手のひらに乗せて試し吹きをし、音の出が悪いときは図Ⅶの矢印の部分を上下に動かしてみても鳴るところを探す。息の通る穴の出口のあたりが特にきれいでできていないと良い音は出ない。また、穴の中に粘土のかけらが詰まっていたりしても同様である。
- ⑦上下の部分それぞれの接合面に竹や木で作った糊（髪をとかす糊でも良い）で傷をつける。傷をつけると接合時によくかみ合ってしっかりとつけやすい。接合面にドベを少し盛り上がるように塗って両方を合わせる。その際、上の部分と下の部分の大きさが違うことがあるが頸の部分をはめて接合し、尻の方のずれた部分は接合した後ヘラで削って修正する。また、接合する際、はみ出したドベをヘラで除き、形を整える。
- ⑧粘土が生乾きになったところで指穴の大きさを調節して音程を正しく整える。
- ⑨十分乾燥させた後、素焼きを行う。
- ⑩この後、本焼きをしてもよいが、絵の具で彩色してニスを塗ってもよい。

生徒の感想

「オカリナを作って」

私はオカリナを作りとてもよい経験になったと思います。はじめのうちは、本当にオカリナが鳴るのだろうか、不安で胸がいっぱいでしたが、作っていくうちに早く自分でふけるようになっていと思うようになりました。

オカリナを見ていると、形は少しおかしいけれども、私にとっては大切な世界でただ一つしかないオカリナです。でき上がったら、このオカリナを大切な宝物にして、いろいろな曲をふけるようになりたいです。

b. 2年 「和紙染色ちぎり絵の共同製作」・「巨大カルタ大会」

学級の日は何をやるか、学級での話し合の結果を学年委員会に持ち寄り検討した結果、和紙を染色したちぎり絵の共同製作ということになった。これは、1年の時に学級の日活動として行った「卵殻彩色モザイク画」の共同製作をさらに発展させたいと考えたからである。昨年度は原画を学級の生徒数で均等に分割して切り分けたベニヤ板を一人一枚ずつ分担して、ポスターカラーで着色した卵殻を貼り付け、それを寄せ集めて91センチ角の作品に仕上げたものであった。今年度はそれを一歩進め、原画を6等分し、班毎に製作して出来あがったものを一つの作品としてまとめる方法で行うことにした。それは「ふれあい」という目的を考えたとき、一人ひとりが自分の受け持った部分を分担して行うより、作業の時にみんなが頭をくっつけ合わせて互いに息のかかる距離で行った方がより目的にかなっていると考えたからである。11月からの時期を後期とし、ここでは共同で製作したものでみんなが楽しむことに使えるものとして巨大カルタの製作とそれを使ったカルタ大会の実施ということにしてはどうかという案が現在有力である。

年間計画

月	内 容
4	取り組む内容を学級で話し合う
5	学級でテーマを決め、テーマに基づいて図案を描く
6	学級の図案の選考・決定
7	下絵の作成・材料の準備・和紙の染色
9	班毎に和紙を使って製作する
10	班毎に和紙を使って製作する 学級で1枚に張り合わせ、文化祭に展示する
11	新たに取り組む内容について、 その具体的な方法を学級で話し合う
12	(絵札の図案、読み札を考える)
1	(絵札、読み札づくり)
2	(巨大カルタ大会)
3	1年間の活動の反省

第1回(4月) 活動内容を決定した。

学級の日の活動内容として何をするかを各学級で話し合いを行い、その案を学年委員会に持ち寄り、目的に合ったものとして「和紙染色ちぎり絵の共同製作」と決定した。

その他にビッグアート、熱気球づくり、巨大カルタ、竪穴式住居の復元などの案もあった。

テーマは学年統一ではなく、学級の独自性を生かし、それぞれの学級で決定することにした。

第2回(5月) 学級のテーマを決定した。

「和紙染色ちぎり絵の共同製作」にふさわしい学級テーマを決定するために一人ひとりの生徒から意見を求める。

学級によっては小集団で案を出し合い、それをたたき台にして決定した。

各学級のテーマ

1組-メルヘンの世界

2組-アニメの世界

3組-ドラえもん

4組-伊勢原市の未来

5組-クラスをイメージする

6組-明るい学級

シンボルの絵

※テーマになっていないもの、和紙の素材を生かしきれないもの、子どもたちの発達段階にふさわしくないものなどもあるが、学級の日におけるふれ合いを考えたとき、子どもたちの欲求を満たすようなものにもすることも大切だと考え、敢えて強い指導は加えなかった。

第3回(6月) 学級全員で話し合い、生徒一人ひとりが作成した図案から学級テーマにふさわしいものを選び、それをもとにして原画を描く。

第4回(7月) 原画をもとに、実際に和紙に貼れるように模造紙に実寸大(91×182 cm)の下絵を作る。→和紙を原画に基づいた色に従って染色する。→下絵を和紙に写す。

第5回(9月) 原画を6等分し、各班がどこを担当するかを決定する。原画に基づいて和紙に写した下絵に、染色した和紙をちぎって貼る。

生徒の感想

「ちぎり絵をやって」

一年のとき卵のからのモザイクをやって、できあがったときとてもうれしかった。いっしょうけんめい作ったものの完成は、とてもうれしいと思う。こまかくていねいにやればなおさらです。クラスの全員があつまって一つのことをやるのはむずかしいが、やりがいがあると思う。

大きな和紙に一つ一つ小さなものをはって一つの絵をつくるのは思ったより大変なことだった。

「ちぎり絵をやって」

大きな和紙が置かれた机を、班のみんなでかこみながら、ひとつひとつの作業を進めていると、クラスの中のぎくしゃくした部分が、今は少しきえているような気がします。もうそろそろかたづけなければと思い私がみんなに、「かたづけ始めて下さい。」と言っても、「あっ、もうちょっと。もうちょっと、待って。」といって、なかなか作業を中断してくれない日ともいたり、作業中もあちこちの班で笑い声がとびかっていました。とても楽しそうで……。もちろん、私もとても楽しかった。

始めは先生の手をかりていたけれど、今は私達だけで作品を仕上げる事が出来そうです。

c. 3年 菊づくり(全員が一人一鉢ずつ3本仕立て)

昨年度は一人一人が連風を製作し、学級でつなぎ合わせて掲げてみるところまでできた。学級での話合いの結果、自然愛護活動として昨年学級で6鉢育てた菊を今年度は一人一鉢育ててみようということになった。そして11月には学校を菊で飾りたいという気持ちで菊作りが始まった。

年間計画

月	内 容
4月	親株の育成
5月	挿し芽 挿し芽用の発砲スチロールの箱を用いる 1人2本ずつ挿し芽をする。
6月	移植 ポットに移植、挿し心 腐葉土と赤土を混ぜる
7月	移植 大鉢に移植、肥料を与える 3本仕立てに 挿し心 風などで折れないように枝を固定する
8月	水やり 夏休みなので学級ごとに当番を決めて毎日 脳芽かき 水をあたえる。
9月	増し土の選定 鉢の上まで土を盛る うほみの選定 いっぽみを残す
10月	輪台つけ 光輝祭を菊で飾る 菊花展 (光輝祭) 10月29日
11月	後始末
12月	冬至芽の根分け 大鉢のまま越冬管理する うほみづくり 落葉かき
1月	腐葉土づくり
2月	冬至芽の挿し心 今年度の反省
3月	冬至芽の植替え 来年度の計画

第1回(4月) 菊作りの説明をし、挿し芽用の発砲スチロールの箱を学級6個持ってくる。

第2回(5月) 学級の自然愛護係を中心に、学級毎に箱に挿し芽床を作り、好きな品種の挿し穂を一人一つ取り、挿し芽をした。品種名と自分の名前を書いたカードを自分できちんと貼る。好きな品種を選んだ事などから自分の菊という愛着がでてきたようである。

第3回(6月) 挿し芽床の小箱からポットへ移植する。

第4回(7月) 2つあったもののうちよい方を大鉢へ移植する。→全員の大鉢を学級毎に日当たりのよい場所に移動する。3本仕立ての整枝をする。→全員の鉢を学級毎に日当たりのよい場所に移動する。自然愛護係で経験している生徒が初めての生徒に教えたり、お互い協力し合う姿が見られた。また自分たちの作業を振り返りながら、話し合ったり、作業をしていく。

第5回(8月) 長雨のため、病気が発生したりするので傷ついている葉を取り除き、枝が折れないように支柱にとめる。薬剤の散布がしやすいように鉢をならびかえる。

夏休み中の炎天下の中での作業であったが、みな楽しんでいて、欠席者がかなりいたが欠席者の菊もよく手入れをしていた。

第6回(8月) 正面を決め枝が伸びてくるので上の方で止め直す。脇芽を欠き、柳芽のあるものは取り除く。

夏休み中の作業であったが生徒同志、生徒と教師で話をしながらお互いの親睦を深めることができた。

第7回(9月) 体育祭の練習期間の忙しい中昼休みに集まり油粕を入れる。この時期になると柳芽の発生が多くなり毎日観察して取り除く必要がでてくる。

第8回(9月) つぼみが出て来るので、3本それぞれの頂部に予備のつぼみを含めて2個ずつのつぼみを残して余分な脇芽を欠く。同時に茎がまっすぐになるようにカラータイで止め直す。

菊作りを通して、命あるものへのいたわりの心が芽生えてきたのではないかと思われる。また、お互いに教え合ったり、協力して仕事をする事の素晴らしさも学んだようだ。10月29日の中沢光輝祭の菊花展を目指し、今後の作業を進めていきたい。

生徒の感想

- ・先生や友達とともに菊作りができてとても楽しい。
- ・一鉢の菊を作るのにいろいろと大変で疲れるけど、成長して花が咲くのが楽しみです。
- ・私の菊は枯れてしまったけれど、もらった菊を枯らさないようにきれいに大きく育てたい。
- ・一度枯れそうになったが、下の方から新しい芽が出てきて、育っているので、その生命力には感心した。
- ・初めての菊作り、思っていたよりも大変です。でも今は早く咲かないかと楽しみです。

オ. 評価と反省

学年によってふれ合いの方法は様々なものになったが、それぞれの学年ともゆとりある時間(2:30~4:20)の中で活発に活動できた。また、設定してあった時間だけでは足りずに、熱中している内に5時、6時になったクラスも多かった。

ねらい(1), (2)について

- ・オカリナづくりは技術を要するものであり、生徒にとっては初めてのことである。この世に一つしかない楽器を作って音を出すということは生徒の興味・関心を引く効果が大きかった。教え合うという要素も大きく、生徒の日頃の授業とは違った面が見られた。男女の協力や教師とのふれあいなど多くの面で得るものがあった。技術的なもの、作り上げるものとしては、同じ様なことが美術や技術家庭科などの教科でも言えることだが、生徒が一生懸命にやる気持ちの中には教科の評定を気にしている部分もある。良いものを作りたいという純粋な欲求を生かしているという意味でも、この活動は、より本質的なものに迫れたのではないだろうか。
- ・ちぎり絵では一人ひとりがそれぞれ原案を出して、それをみんなで検討してより良いものを作っていこうとする活動自体が互いに認め合うことにつながった。この過程で絵をつくり、協力して工夫しながら活動していくことが学校生活の中に創造的な活動を持ち込むことになった。また、この作品を仕上げるには協力して各自の責任を果たすことが不可欠であった。貼り絵そのものは単純な作業であったが6, 7名の生徒がくっつき合って作業していく中で生徒同士のふれあいが図れた。
- ・菊づくりでは一人ひとりが自分の鉢植えを大切にするだけでなく、灌水作業の当番をきちんと責任を持って果たし、他の生徒のものも大切に扱ってきた。また、作業の内容についても互いに教え合いながら進めることができた。

ねらい(3)について

3年の活動の中でのみ扱われたが、前述したように自分のものだけにこだわらないでどの菊も大切にするということができた。また、

毎日の観察で今まで気づけなかった自然の力の素晴らしさに気づくこともできた。

<反省>

まず言えることは月に1回という時間設定では内容的な制約と継続性を維持することがとても難しかったということである。実際に今年度の活動の中では月に1回では済まなかったし、今後、回数を増やすことも検討しなければならないだろうが、学校の会議や部活動との関係でなかなか困難であるというのも事実である。年間計画はあるが、なかなか先の見通しがつかず、計画と実際の活動とのギャップが出ている。下準備をするにも学校行事等との関わりで時間が取りにくい。そのため、本来学級の輪・心の豊かさを求めて設定した学級の日であったが、かえってゆとりのなさを生んでしまう危険性を持っているので、今後の実践にはその面でも改善が望まれる。また、取り組む内容も学級で話し合っているのだがユニークで創造的なものが少なく、教師の案に従っているところがあるので普段の学級指導の中で豊かな心を培う指導を心がけて行きたい。

③ 自然愛護活動について

人間と自然、また人間同士の関わりを大切にすゝる気持ちを高めていくために、生物とのふれあひを通して自然に目を向けさせ、もの言わぬ生き物や弱い者にどう関わるべきかを考えさせる中から思いやりの心を育てたいと考へた。そこでねらいを次のように設定した。

ねらい

自然とのふれあひを通して生命を尊重する心を育て、広く他を思いやり互いに認め合う人間性を育てる。

更に実践する上で教師にも生徒にもわかりやすいように「生き物に親しむ」、「生き物を知る」、「自然愛護に取り組む」等の活動を通して生命の尊さを知らせ、更に「自分の力を発揮し」「友達との活動や悩みを理解し」、「認めあひ、互いに協力して一つのものを最後までやり通す」という、豊かな人間関係を育てることにした。

年間計画

	草花づくり	菊づくり	係・教師の作業
4月	草花の種蒔き 水やり 管理	親株の育成(摘芯) 水やり 管理	摘芯 (はさみ ビンセット)
5月	草花の種蒔き 水やり 管理	水やり 管理 摘芯	挿し芽床の用意 挿し芽
6月	草花の種蒔き 水やり 管理 ポットへ移植 学級へ	鉢上げ 水やり 管理 摘芯	培養土づくり (小鉢 ビンセット)
7月	ポットへ移植 定植 学級見まわり	大鉢へ移植 支柱立て 水やり 管理	培養土作り 分配 (大鉢 支柱 ビンタイ 灌水当番作り)
8月	除草 管理 鉢へ移植 学級へ	わき芽を欠く 追肥 水やり 管理	固形油かすの配布
9月	除草 管理 学級へ配布 ポットから鉢へ移植	増し土 水やり 脇芽、柳芽欠き 支柱の固定	除草 管理 鉢やプランターの準備
10月	除草 管理 種蒔き	つぼみを1個に 輪台つけ 菊花展 水やり 管理	展示場所確認 (はさみ 輪台 ビンタイ 鉢皿等)
11月	種蒔き 移植	後始末 寒肥	(各用具の入れ物 化成肥料)
12月	種の収穫 管理	冬至芽の根分け 落葉かき 腐葉土づくり	培養場づくり (牛糞 軍手 袋)
1月	管理	腐葉土の 切り返し	

	草花づくり	菊づくり	係・教師の作業
2月	管理 今年度の反省	腐葉土の 切り返し 今年度の反省	腐葉土の 切り返し (フォーク)
3月	来年度の計画 ポットへの移植	来年度の計画 親株の摘芯	来年度の計画 (ピンセット)

実践内容 =平成元年度=

4月

百日草・朝顔の種蒔き、菊の親株を育て摘芯をする等の仕事をした。施肥や水やりの仕事等も生徒には加減が難しく、手がかかった。

5月

苗床作りと挿し芽をし、マリーゴールドと菊咲きマリーを蒔く。肥料の扱いや用具の扱い等々、些細と思われることでも不器用だったりいやがったりがあり、できる子がよく助けていた。挿し芽に根が付き感激する。

6月

コウスの種蒔き
いろいろな種を蒔いてきて、「コウスとはどんな花か」等、関心が出てきた。菊は小鉢上げをする小さな芽のか細い根を大事にしながらいよいよ真剣に取り組む。中鉢へ移植
3枝の調節

7月

中鉢から大鉢へ移植～3本仕立てまで作業中枝が折れたり、きつく結びすぎたり土を入れすぎたりいろいろあったが、命あるものの扱いを知ったように思える百日草・朝顔の鉢を学級で管理

8月

水やり
学年・学級別灌水当番表に従って作業。長いホースをうまく操作しないと鉢が倒れたり水の届かないところがあったりでこれも大変な仕事であったがチームよくこなしていた。すぐにグッタリする草に気を使っていた

9月

鶏頭・コウスの鉢を学級へ配る。それぞれの学級で工夫し、教室や廊下を飾る。菊は増し土をし、脇芽・柳芽欠き支柱への固定等をする。すっかりおおきくなってつぼみもついたりして以前にも増して自分の鉢を大切にしている3年生の姿が見られた。

10月

菊に輪台をつける。
1,2年よりもやはり一人一鉢の自分の鉢を管理している3年生の方が積極的かつ慎重に仕事をしているのが目立った。手を洗って花にさわる姿等がほほえましい

11月～

これからは後始末とか種の収穫、落葉集め、圃場作り等々、いわば裏方の大変な仕事が続いている。しかし、昨年を振り返ってみるとそれぞれの子に向いた仕事があるもので、このような体力的な仕事に生き生きとして力を発揮する生徒も多く、皆で楽しんで仕事をする姿が浮かぶ。

<評価と反省>

本年度に向けて昨秋より枯葉集め等を行った事や、昨年の経験もあってか興味関心を持って取り組んだ生徒が多く見られた。特に3年生は「自分の菊」ということがあり1、2年生以上に積極的に取り組んでいた。

挿し芽に根がついたり、種が芽を出した時々の喜び、それをていねいに鉢に植える優しさ、発育の悪い苗を心配したり、菊の3本の枝を慎重に曲げていくいたり、いよいよ大鉢に移すときの期待、夏休み中の水やり等の責任、開花の喜び等々、場面場面の生徒の反応は確かに手ごたえがあり、ねらいに迫るものであったと思える。だが、全部が全部そうであったわけではなく、大勢の中に紛れて手を出さずに終ったり、枝が折れてもそのままだったり、自分の分は終わったとさっさと帰ってしまったたり、灌水当番を忘れてりするなど考えさせられる場面もあった。しかし、これらのことは自分の姿を知る良い機会でもあったと思えるし、教師の指導の手がかりとなるものでもあった。教師も一人一鉢に取り組んだこともいろいろな面でお互いを知るのに役立ったと思う。

自然愛護とは、手を掛ければ掛けただけ、その結果が見えてくるものである。(植物の成長を通して・・・)それだけまじめに関わった者は、より一層興味と関心があらわれ、また関わりを持つという子ども達の実態がある。そこにこの活動の奥深いものがある。

今後は全校生徒一人一鉢の方向を目指し、草花も増やしていくことで問題点を補いながら、先にあげた「ねらい」に更に迫りたいと考えている。鉢が増えれば費用も労力も、関わる時間も増える。この点も大きな課題である。

④1分間スピーチについて

ア. ねらい

自分の考えをまとめ、小集団や学級で、さらに大勢の中でも自分の意見をしっかり言えるようにすることを目指している。

- そこで
- ・自分の意見を人前で発表できる態度を養う。
 - ・聞く態度を身につけると共に、正しい考え方で物事を捉えられる態度の育成。
 - ・自分自身、または身の回りの事柄(友人関係、学級、社会)を客観的に考えることができ、他人への思いやりの持てる生徒の育成。

以上の3点をねらいとして各学級で取り組んでいる。

以下が取り組みの具体的な内容である。

イ. 実践内容

「帰りの会」の中に位置づけ、1日男女1名ずつ「1分間スピーチ」を行う。

- a. スピーチの内容 学期毎にテーマを決めて(原則的に)取り組むようにしている。

	一 年	二 年	三 年
一学期	なんでもよい		
二学期	学級のこと	友人、家族のこと	新聞を読んだでの自分の考え
三学期	部活動、家庭	新聞を読んだ	自己を知ろう

b. 話し方

第1回一分間スピーチアンケートの結果より、一層の話す態度・聞く態度の指導が必要であることがわかったので、「1分間スピーチ話す態度聞く態度」を決めて取り組んでいる。

一分間スピーチ話す態度・聞く態度

- ・大きな声で話そう
- ・わかりやすい言葉で話そう
- ・聞き手の方を見て話そう
- ・発表者を見て静かに聞こう
- ・発表の内容について考えながら聞こう

c. スピーチカード

スピーチの内容を記述する。終了後、日直・教師が感想を書き入れて、教室に掲示する。他人の意見を知ることにより、考えを深め自己を顧みる機会として役だっている。また、月毎に用紙を変え、新鮮な印象を与える工夫もしている。

ウ. 評価と反省

特に話の苦手な生徒にとっては、一分間スピーチが定着していくことによって、とても話やすい雰囲気が学級に出来てきたためか、徐々にではあるが声も大きくなってきて、温かいはげましの言葉もでてくるようになってきた。今後、よりよい学級の雰囲気をつくりあげていくためには、一人一人がいかに係活動、委員会活動、日直の仕事などを責任をもって自主的に出来るかどうかにかかっていると思われる。従って、短学活をより充実させるために下記の内容を継続して研究を進めなければならない。

◎係活動の検討（各学級の実態に即して、話し合いで決める）

- ・一分間スピーチの運営→一人一人が気持ちよくスピーチできる
雰囲気づくり→

・スピーチを行う生徒の紹介
・聞いた後の感想を述べる
・明日の生徒の紹介
・各学年朝会での発表会
・係による聞く態度の指導

- ・朝自習時間の運営→一人一人が意欲的に取り組めるような工夫

個に応じた問題作成
班による協力態勢づくり
学習の決まりなどの作成

- ・日直の仕事の検討→各学級の実態に即して、話し合いで決める

教室環境の整備（思いやりの心
朝の会の司会、帰りの会の司会
戸締り
日誌記入
明日の日直の紹介

<一分間スピーチアンケートの資料>

第1回一分間スピーチアンケート実施について

1. 1分間スピーチの影響について把握する。
2. 話すこと・聞くことについての生徒の実態を把握する。

第1回アンケートについての考察

1. 発表する態度について指導していく必要がある。
2. 発達段階からみると、1年2年3年と学年に応じてお互いを知り合えるという力が備わっていなければならないと思うが、結果からは2・3年が低い。相手に自分の気持ちが伝えることができないようである。特に、2年は思春期でもあり、相手に自分の気持ちを伝えにくい学年でもあるが、人間関係の面でも問題が生じやすい学年でもあるので、今後特に指導が必要とするのではないかとと思われる。
3. 話終わった後の感想を見ると、1分間スピーチの持つ影響の大きさを感じ取ることができる。
4. 聞く側の態度についても指導して行く必要がある。
5. 聞いていての感想から、お互いを理解するためには、聞く態度、話す態度の指導が必要。お互いの生活体験を理解できるようになってきたことがわかる。

以上の結果を見てみると、お互いを知り合えるという面では、1分間スピーチの必要性は大きい。しかし、よりよい人間関係の確立のためには、一層の話す態度、聞く態度の指導が必要と思われる。

第2回一分間スピーチアンケートの実施について

1. 前回のアンケートと比べて、その変容をみる。
2. 一分間スピーチの話題性を知る。
3. 一分間スピーチの当事者、聞き手の「一分間スピーチのねらい」の浸透を知る。

第1回・2回アンケート集計結果

1. あなたは前回（7月15日）のアンケート後、一分間スピーチを行いましたか

	はい		いいえ	
	第1回	第2回	第1回	第2回
1年	87.2%	92.3%	12.8%	7.7%
2年	76.1%	89.3%	23.9%	10.7%
3年	57.3%	91.6%	42.7%	8.4%

2. 1で「はい」と答えた人に質問します。

- ①大きな声で話すことが出来ましたか。

	はい		いいえ	
	第1回	第2回	第1回	第2回
1年	57.3%	59.2%	42.7%	40.8%
2年	40.7%	63.0%	59.3%	37.0%
3年	49.0%	66.8%	51.0%	33.2%

②はっきり、ゆっくり、聞き手を意識して話すことが出来ましたか。

	はい		いいえ	
	第1回	第2回	第1回	第2回
1年	30.8%	35.6%	69.2%	64.4%
2年	19.1%	20.7%	80.9%	79.3%
3年	29.7%	43.0%	70.3%	57.0%

③原稿だけでなく、聞き手をみて話すことが出来ましたか。

	はい		いいえ	
	第1回	第2回	第1回	第2回
1年	18.5%	21.7%	81.5%	78.3%
2年	29.6%	20.7%	70.4%	79.3%
3年	13.1%	20.1%	86.9%	79.9%

④言いたいことが、うまく発表できましたか。

	はい		いいえ	
	1年	60.4%	39.6%	
2年	44.0%	56.0%		
3年	62.4%	37.6%		

⑤スピーチをした後、友達との間でスピーチが話題になりましたか。

	はい		いいえ	
	1年	19.1%	80.9%	
2年	20.7%	79.3%		
3年	24.5%	75.5%		

3. 聞く側の態度について質問します。

①あなたは発表者を見て、聞いていますか。

	はい		いいえ	
	第1回	第2回	第1回	第2回
1年	84.3%	77.4%	15.7%	22.6%
2年	84.5%	77.2%	15.5%	22.8%
3年	84.6%	75.0%	15.4%	25.0%

②静かに聞いていますか

	はい		いいえ	
	第1回	第2回	第1回	第2回
1年	80.6%	75.3%	19.4%	24.7%
2年	82.2%	79.6%	17.8%	20.4%
3年	84.2%	74.6%	15.8%	25.4%

③発表者の話が聞き取れますか

	聞こえる		聞こえない		人によっては聞こえない	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
1年	15.7%	11.5%	2.5%	2.6%	81.8%	85.9%
2年	4.7%	12.6%	5.2%	3.4%	90.1%	83.5%
3年	19.4%	10.0%	7.5%	2.4%	73.1%	87.6%

④何を話しているのかがわかりますか。

	わかる		わからない		人によってわからない	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
1年	36.8%	30.0%	3.3%	2.6%	59.9%	67.4%
2年	17.4%	23.3%	5.2%	3.4%	77.4%	73.3%
3年	32.4%	21.4%	5.1%	3.6%	62.5%	75.0%

⑤他の人のスピーチを話題にしたことがありますか。

	あ る	な い
1年	8.3%	77.6%
2年	18.4%	71.4%
3年	11.6%	61.5%

⑥聞いていてどんな感想を持ちましたか、簡単に書いて下さい。

第1回

- ・面白かった。
- ・その人の考えていることがよくわかる。
- ・声の小さい人がいるので大きな声を出して欲しい。
- ・周りが静かにして欲しい。
- ・内容にまとまりがない人がいるので、自分もそうならないようにしたい。
- ・原稿がきちんと書けていて、発表の仕方がうまかった。
- ・人は色々なことを感じたり体験しているんだなと思った。
- ・みんなのスピーチを聞いていて、自分自身も得るところがあった。
- ・人によってはつまらない。
- ・スピーチでなく音読になっている。
- ・ゆっくり話して欲しい。
- ・文が短すぎる。
- ・部活動の話が多いので、もっと他のことも話して欲しい。

第2回

- ・人は、いろいろな考えをしているなと思った。
- ・なるほどと思うことが多くなった。
- ・感動した。
- ・性格や生活が良くわかる。
- ・家族や友人のことが良くわかった。
- ・世の中のニュースがよくわかってよかった。
- ・個性が出ていた。
- ・人によって聞こえないときがあるので、しっかり読んで欲しい。
- ・みんな人前に出ると緊張するようだ。
- ・平凡であまり面白くない。
- ・声が小さいので、わかるように話して欲しい。
- ・発表したことが実行できていない。
- ・自分は大きな声でやりたい。
- ・迷惑。早く帰りたい。
- ・大体の人が早口である。

4. スピーチを通して何を学びましたか。自由に書いて下さい。

- ・自分の意見を発表する楽しさ。
- ・みんな話上手だった。人間としてひとまわりもふた周りも成長したような気がする。
- ・友達のこととか、家族のことが良くわかった。
- ・余り人前で読めなかったんですけど、だいたいすらすら読めるようになった。
- ・どんな文章を書けば、みんなにわかってもらえるかを考えて文を作ることが楽しい。
- ・協力しなければ何もできないことを学んだ。
- ・新聞や世の中のこと、自分の知らないことがわかって良かった。
- ・相手に意志を伝えることが出来るようになった。
- ・人前で話せるようになった。
- ・差別を無くそうと思った。
- ・スピーチのこつがわかってきた。
- ・早く帰りたいのを我慢して聞いているので、忍耐力がついた。
- ・何も学ばなかった。

5. スピーチに対して、思っていることを自由に書いて下さい。
- ・人の考えや意見が良くわかり、素直に発表できて良いと思う。
 - ・時間が足りないから、時間の制限をなくして欲しい。
 - ・内容を制限しないで自由にして欲しい。
 - ・これからも続けた方がよい。
 - ・人前で話す練習になる。
 - ・将来役に立つ
 - ・スピーチは面白い。
 - ・色々な人の考えがわかる。
 - ・みんなもっと大きな声で話して欲しい。
 - ・何度やっても緊張する。
 - ・何を求めてやっているのかわからない。
 - ・あまりやりたくない。
 - ・面倒くさい。

第2回アンケートについての考察

1. 第1回に比べて話す側の意識が高まっている。
2. 聞く側の態度については今後とも指導していく必要がある。
3. 3の①②の変化については、意識の低下であるかマナーであるか探っていく必要がある。(3の④や4. 5で意見が出ているので低下でないと思えるが)
4. 2の⑤、3の⑥⑦のスピーチの話題性では、少ないとはいえ、ふた桁の数字になっていることから、一分間スピーチの持つ話題提供、重要さが現れているのではないと思われる。
5. 聞いていての感想から、お互いの生活体験を理解できるようになってきているのではないと思われる。

以上のことから考えてみると、聞くことによってお互いを知り合えるという面と、発表することによって自分自身が成長するという面がスピーチにあり、また、よりよい人間関係の確立の為に一分間スピーチが役だっていると思われる。これからもより充実させていく必要があると思える。

⑤実践7場面

本校では、開校以来、生活委員会を中心に「オ：おはようございます、ア：ありがとう、シ：失礼します、ス：すみません」とお互いに声を掛け合おうという「オアシス運動」を推進してきた。

互いの人権を認め合い、差別をなくす行動力を養うには、まず、しっかりとした基本的生活態度が確立されなければならない。毎日の学校生活の中に「命と健康を大切にする」こと、「学習の保障をする」こと、「好ましい人間関係をつくりあげる」こと等が基盤にあってはじめて人権教育が成り立つと考える。

そこで、学校生活における生徒の実態調査の結果や、“清掃活動が十分にされていない”、“毎朝行われている朝の自主活動が生徒の主体的な活動として定着していない”等の中沢中学校の生徒が抱えている問題点を、生徒と教師とで話し合い、開校以来推進してきた「オアシス」運動を吸収・発展させたものとして、学校生活における基本的な7場面を次のように設定した。

7場面

1. あいさつ
2. 歩行
3. 朝の自主活動
4. 清掃
5. 言葉遣い
6. 聞く態度
7. 時間を守る

この7場面の推進にあたって、互いの人権を認め、差別をしないということは民主的な集団の中でのみ培われ、また、そのような集団は生徒の主体的な活動を通して成立するものと考えた。そこで、活動の中心は生徒会とし、生徒相互の連携を保ち、教師と生徒との共通理解のもとに、生徒自らの手で粘り強く実践していくことにした。活動を生徒自身が主体的に進めていくことと7場面の実践を通して、互いの立場を尊重し、集団生活の向上に貢献できる人間性豊かな生徒の育成をめざした。

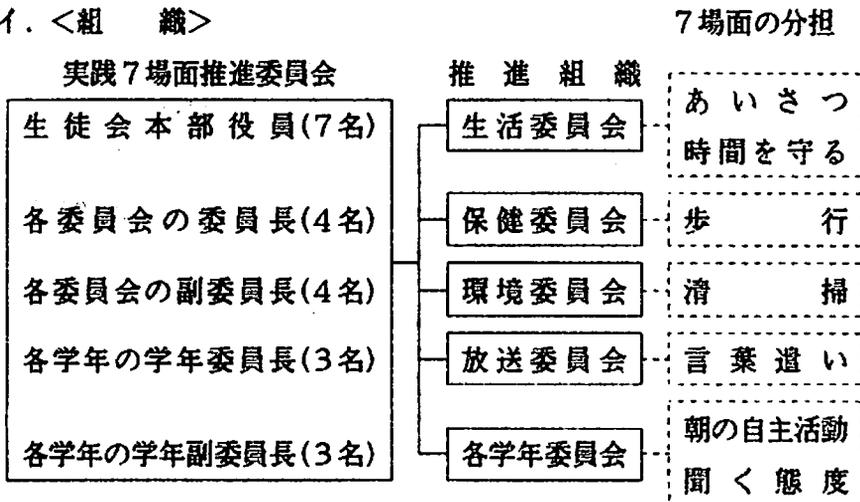
ア. <実践7場面推進活動>

実践7場面の規範

- a. あいさつ----- 生徒同士、生徒と職員、来賓、登下校時、入室時、授業時等でのあいさつがしっかりとできる。

- b. 歩 行----- 通学時の交通ルールを守った歩行、自転車の安全な乗り方、校内の廊下での歩行など、安全で他に迷惑をかけない歩行に心がける。
- c. 朝の自主活動--・朝の会を8時30分から9時までとし、その中の8時35分から8時55分までの時間を朝の自主活動の時間とする。
- ・チャイム着席、授業前の学習に対する姿勢の確立をする。日々の積み重ねを大切に、互いに教え合い、助け合う学習の実践の場とする。
- d. 清 掃-----他人に任せるのではなく、自ら進んで学習環境の整備に当たる。
- e. 言葉遣い-----互いに認め合い、相手の心に気を配った言葉遣いをする。
- ・目上の人には、適切な言葉(敬語等)を使う。
 - ・友達同士の日常の言葉遣いに気を配る。
 - ・大声で話をしない。
 - ・放送は、言葉の手本になるように十分注意する。
- f. 聞く態度-----話す側は、ゆっくり・はっきりと話す。
- 聞く側は、話し手の目を見て、静かに、そして素早く行動ができるようにする。
- ・放送がかかったら静かに聞く。(放送は簡潔にはっきりと)
 - ・授業中、友達の発言をよく聞く。
 - ・集会時(全校朝礼・学年朝会等)、に静かに話を聞く。
- g. 時間を守る-----チャイム着席・集会の集合時間・下校時間等を守る。
- ・遅刻をしない。
 - ・教室移動は早めにする。

イ. <組織>



* 推進委員会は、生徒会の特別委員会とする

* 推進委員会は、生徒会本部役員、関係委員会の委員長・副委員長、各学年の委員長・副委員長の計21名で構成する。

ウ. <推進活動>

- 推進委員会は、7場面についての基本的な方針を出し、各委員会はその方針に基づいて実践計画を作成し、実行する。
- 実践した後には必ず反省をし、推進委員会にかけて計画の見直しをし、再び各委員会が実行する。
- 委員会毎にそれぞれ7場面の分担をしてはあるが、その分担にしばられることなく推進委員会を中心に上記の委員会ばかりでなく、他の委員会にも必要に応じて働きかける。
- 全校朝礼・学年朝会等の集会活動や校内放送、学校新聞(資料1) 学年委員会だより(資料2)等を活用して全生徒への働きかけをする。

エ. 推進活動の具体例

生徒活動における実践7場面の年間計画を作成した。(資料3)
実践7場面と学校行事等がどのように関わり合うのかを検討した。



実践7場面について問題点を学級で話し合った結果を推進委員会がまとめ、生徒に報告した。(資料4)



この結果に基づいて推進委員会を開催し、問題点の確認とその解決方法を検討した。 (資料5)



各委員会で、更に具体的に解決方法を話し合い、実行した。 (資料6)



実践7場面を全校の生徒に浸透させるため、全校朝礼で実行委員長各委員会の委員長が生徒に呼び掛けをした。 (資料7)
その週には毎日、帰りの会で実践7場面についてのアンケートを実施し、その結果については次の朝、生徒会掲示板に掲示するとともに校内放送で報告・呼び掛けをした。 (資料8)



推進委員会を開き、アンケートの結果をもとに問題点を洗いだし、具体策を検討した。



各委員会では、更に細かい検討を加え、方法の見直しをして具体的な取り組みをした。 (資料9)

以上のように、学級→推進委員会→各委員会→学級→実践活動というような流れを原則として活動を推進した。

オ. 評価と反省

- ・ 7場面の一つを実践するにも大変なことであるので、始めは不安であったが、とにかくこの活動を全校生徒のものとして定着させることができた。
- ・ 生徒一人ひとりが、実践7場面を念頭に置きながら学校生活をするようになった。
- ・ 推進委員会を中心に生徒自らの手で活動を展開し、大きな運動として盛り上がった。
- ・ 生徒の自覚が高まるにつれ、生徒同士が7場面について互いに注意し合う場面があちこちで見られるようになった。
- ・ あいさつ-----お互いに大きな声で堂々とあいさつができるようになり、来客への対応も良くなった。

- ・歩 行-----以前は登下校の際の交通ルールは乱れがちであったが担当委員会の推進活動や各自の自覚により交通マナーが向上した。また、廊下の歩行についても、走ったり大声で話したりする者が少なくなった。
- ・朝の自主活動--チャイム着席や朝の活動が教師がいなくても、きちんと行われるようになった。
- ・清 掃-----清掃中に座り込んだり、遊んだりするものが減り、自分から進んで清掃に取り組む姿勢が見られるようになった。
- ・言葉遣い-----放送等の言葉遣いが、ていねいにきちんとできるようになったが、まだ、生徒同士、目上の人に対する言葉遣いは粗雑さがみられる。
- ・聞く態度-----「実践7場面、静かにしよう」などというかけ声が聞かれるようになってきたが、まだ、誰かが声をかけなければ静かにならない。
- ・時間を守る----遅刻者の減少、チャイム着席、集会の集合時間の厳守等よくなってきた。指導者も意識して行動を早めるようになった。

総括的に見てみると、推進活動によってかなりの前進は見られたが、まだ、不十分な点があるので、今後も継続して活動をしていきたい。

学年委員だより

月曜日から実践七場面の反省をやる。
 9/25の全校朝礼から3/30までチェックする。
 ～具体的な解決方法(実践七場面)～

朝自習は先生に答え合わせをしてもらう？
 朝自習をしっかりとがチェックする。
 朝自習の解決法～

1. 8:30 になったら「朝の会」を始める。
2. 先生が行、たらず朝自習班が「これから朝自習を始めます」と言う。
3. 次にプリントを配る。(静かにさせてから)
4. 8:50 になったら、終りにする。
5. 隣の人と交かんして答え合わせする(黒板に答えを書く)
6. 朝自習班が集める。
7. それを先生に出して印を付けてもらう。
8. 返してもらったら、ファイルにとじる。
9. 2週間に1度ファイルを集める。
10. 残りの時間は、次の授業の準備をして静かに待つ。

- 聞く態度
1. 班長ができるだけ班で注意する。
 2. 放送が入ったら静かにして、耳を付して自分に関係ない放送でも気が散らない。
 3. 先生が話し始めたら先生の方向を向いて静かに聞く。
 4. うるさい人がいたら、みんな注意しあう。
 5. 帰りの会に聞く態度がよくできていたかチェックする。
 6. 放送を簡潔にし、はきりと言ってもらふようにする。
 7. 放送前に受話器の音など、真新しい音で興味をかせる。
 8. 弁当の時間に集中して、放送する。

会長原稿

実践七場面の反省をやる。7月に実践七場面推進委員会を設立して以来、夏休みの間は、今まで特に目立って活動を行って、このころから、もうそろそろ時期だと思い、9月に、この日から、二、三回の会議を開きました。この会議では、各委員会の活動状況の確認を行いました。大きな見通しは、このころから、また動き始めたというところはほとんどありません。このころから、この委員会の今後の計画を立て、11月に行われた全校朝礼で、原副会長に推進する委員会の委員五人(このころは、五つの委員会のうち、二項目を担当している委員が二つある)より、第一回の活動報告として、この計画や全校生徒への呼びかけなど、具体的な内容を発表しました。このころから、早速具体的な動きを始めたいという方が、このころから、委員会として、このころから、定期開催の会議を開き、見直しをしていくつもりです。このころからの基本的な生活習慣が、生徒の間に、少くとも意識して行動されるため、このころから、準備をつくり、このころから、推進委員会としての役割を果して、このころから、全力投球で頑張りたいと思います。

生徒会会長 近藤雅彦

実践七場面資料2(学年委員だより)、資料7(生徒会長原稿)

実践7場面資料3(推進年間計画)

平成元年度 生徒活動における実践七場面の推進年間計画

実践七場面 ①あいさつ ②歩行 ③朝の自主活動 ④清掃
 ⑤その場にあった言葉遣い ⑥放送を聴く態度 ⑦時間を守る

月	学校行事	学年	学級	本部	生活	環境	保健	図書	放送	新聞	文化	体育
定例	全校朝礼	2.1.7	2.3.7.6	1.2.5.7	1~7		(5)		7			
	中央委員会			1.5.7			1.5.7				5.7	
	生徒委員会				1~7		1.5.7	1.7	5.7	1.4.5.7		
	学年朝礼	1.3.5.6.7	2.7				(5)		5.6.7			
	学級の日	5.7	5.7									
	毎日の健康観察						3.5					
	自転車点検						3.5					
4	対面式	1.5.6.7	1.5.6.7	1.5.7			(5)		6.7			
	部活動説明会	1.5.6.7	1.5.6.7	1.5.6.7			(5)		6.7			
	2年宿泊研修	1~7	1~7			4.5.7	5.6		5.6.7			
	身体測定						1.7					
5	健康診断	1.5.7	1.5.7				1.7					
	3年修学旅行	1~7	1~7			5.7	5.6					
	避難訓練	2.6.7	2.6.7		2	7	2.6		6.7			
	中間テスト	3.7	3.7									
	スポーツテスト	2.6.7	2.6.7				5.6		5.6.7			6.7
	生徒総会	2.5.6.7	2.5.6.7	1.5.6.7	1~7		5.6.7	5	5.6.7		5.7	
6	陸上競技大会	6.7	6.7	1.5.6.7	6.7	4	5.6		1.5.6.7			7
	校庭美化作業	1.4.5.7	1.4.5.7			4	1.4.5.6					
7	期末テスト	3.7	3.7									
	総体、壮行会	5.6.7	5.6.7	1.5.6.7			(5)		5.6.7			
	総合体育大会						(5)					
8	リーダー研修会			1~7								
	茅野市交流会			1~7								
9	避難訓練	2.6.7	2.6.7				2.6		6.7			
	地区防災 秋季体育祭	1~7	1~7	1.5.6.7	6.7	4	2.5.7 5.6		1.5.6.7			7
10	中間テスト	3.7	3.7									
	光輝祭	1.2.4.6.7	1.2.4.6.7	1.4.5.6.7	2.7	4			1.5.6.7		3.5.6.7	
	登校、交通指導						1.2.3.4.5					
11	生徒会役員選挙			1.2.5.6					5.6.7			
	期末テスト	3.7	3.7									
12	避難訓練	2.1.7	2.6.7		2	4	2.6		6.7			
	生徒総会	2.5.6.7	2.5.6.7	1.5.6.7	1~7		5.6	5	5.6.7		5.7	
1	寒稽古	7	7	1.3.7			5.6		1.5.6.7			7
	新人生説明会	1.5.6.7	1.5.6.7						5.6.7			
	登校、交通指導						1.2.3.4.5					
2	期末テスト	3.7	3.7									
	3年お別れ遠足	6.7	6.7				(5)					
3	生徒総会	1.2.5.6.7	1.2.5.6.7	1.5.6.7	1~7		5.6.7	5	5.6.7		5.7	
	卒業式	1.5.6.7	1.5.6.7						6.7			

☆ 各係、委員会等で学校行事を通して実践七場面について推進できる場面の番号を記入して下さい。

生徒 実践7場面



推進委員会

項目	問題点	実践場面	解決方法
1	さぼる人がいる	親しい友達が同じ清掃 場所ではなかったりしてあ りく清掃に行かなかったり。 遅れてきたりする	罰をあたえる ・注意する ・反省会をやる ・反省表を作る ・自分の分は自分でしっかりやる
2	清掃をやらず、話をして いる人や遊んでいる人が とてつ99い。	清 掃 時	責任を自覚させる
3	班としての行動ができて いない。	清 掃 時	しっかりと班作りを 見なおす。
4	かみせんを持っていない人が いる。	各 クラス	いっせいにやみせんを 集め各清掃場所 にやみせんを配布し、その 場所の人がその場所の かみせんをつかう。
5	清掃場所に行かない 基本的に清掃のしかたが なっていない	各清掃場所 清掃の時間には話していたり 遊んでいたりする。	まわりの人が注意する 話したり遊んだりしないように する
6	清掃用具の使い方がな くない 用具が足りない	ほうきやモップであそ んでいたりする 清掃時間	清掃用具を正しく使う 環境報がいかける
7	清掃の反省が全くとい ていへずに行か ない	清掃時間	放送の音楽の交代も やってみる
8	ゴミが落ちていても誰も ひらかない	3分や教室にゴミがあ るとい	環境報からみんなに おめする
9	注意してもはんにやる	清掃時間	到場が注意する 互いに注意しあう

<p>4. 現状の分析(問題点をあらいだす)</p>	<p>1 聞く態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表者等の発言が不適切 ・ 個人ミニの発言が足りず ・ 発表者本人と立場の人による発言が見られず <p>2. 朝自習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 真剣さが無い ・ 原委を重なるかという(内容を把握) ・ 個人への自覚が足りず <p>5. 方法の見直し(具体的方法を考える)</p> <p>1 聞く態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月曜日(9月11日)の朝自習時に国語教材を基に素早い質疑応答の意向を促進する ・ 原委を伝達する <p>2. 朝自習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間テストの2週間直前には実行する
<p>6. 具体的な取り組み(どう実行するか、いつまでに)</p>	<p>1 聞く態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表者の発言と同じ <p>2. 朝自習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5. 方法の見直しと同じ

2部作成して1部提出、1部控え

<p>3年学年委員会 推進委員会 1.9.8</p>	<p>委員長 上野陽一 副委員長 高田雅成 山内佐知子</p> <p>1. 1学期に決まったこと(目標等)</p> <p>1. 聞く態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表者本人に目新しい方法をとってもらう ・ 先生の話も聞く際は自分の態度を望む <p>2. 朝自習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題作りは学曜係にまかせ 実行は学年委員会で作り <p>2. 確認と進みどおし(実行できているか)</p> <p>1 聞く態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表者本人と話し合う機会ができていない ・ 学年委員による態度ができていない ・ 1学期と変わりが無い <p>2. 朝自習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期に代って休養期間に代わって、1学期より実行できず <p>3. 実行の分担と期日(できるだけ早く実行する)</p> <p>1 聞く態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月曜日(9月11日)の朝自習時に国語教材を基に素早い質疑応答の意向を促進する <p>2. 朝自習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9月9日よりスタート(休養期間に代って)
--------------------------------	---

聞く態度 朝自習	推進委員会	多田	副本間
1. 規範 (守るべき事)			
聞く態度			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 話している人の方を見る。 ・ 隣同士でおしゃべりせず、うるさい人を注意する。 ・ 話を聞く時、個人個人が、自覚をもち、よく聞く。 ・ 一度注意を受けたら、以後、注意を受けずに話を聞かせる。 ・ 放送が止まったら、おしゃべりをやめて、静かに聞く。 			
2. 行動目録 (項目別に日程を)			
9月21日(水) 学年朝礼で朝自習の聞く態度の			
取り組むについて発表し、各クラスで			
取り組むを実施し始める。			
・ 旧おしゃべりに委員会を開き、各クラスの状況を話し合う。			

朝自習
<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝自習のプリントを配布打につくる。 ・ 朝自習をしていない人から話を聞き、名簿などに記録し、注意してこれからはや、ていよくするようにさせる。 ・ 朝自習の答え合わせを先生方にやらせ、ていよく。 ・ 朝自習の時間内は、立ち歩きや自分の席でプリントをやる。 ・ プリントの問題でわからないところがあったら、近くの友達と相談して、協力合、て解いていく。 ・ 朝自習の始りと終わりの区別をし、はっきりさせる。
<p>9月20日(水) 21日(木) 24日(日) 25日(月) 30日(土)</p> <p>推進委員会</p> <p>委員会</p> <p>本校朝礼 (委員長の報告)</p> <p>プリント準備</p>

実践7場面アンケート

1年組 班		9月30日(土)		
場面	項目	守れた	守れなかった	
清掃	◦清掃用具を大切に使用していますか	172人	26人	
	◦清掃時間におくれていますか	159人	39人	
	◦清掃をまじめにやりましたか	154人	44人	
	◦反省をおこなっていますか	47人	151人	
聞く態度	◦先生の話を聞いていますか	167人	31人	
	◦授業中友達の話を聞いていますか	164人	34人	
	◦放送がかかった時、静かに聞いていますか	140人	58人	
	◦話している人を見えていますか	141人	51人	
朝自習	◦自分に関係ない放送でも静かにしていますか	135人	63人	
	◦自分の席でやっていますか	—人	—人	
	◦近くの人と相談してできませんでしたか	—人	—人	
	◦始めと終りの区別をつけましたか	—人	—人	
時間を守る	◦遅刻をしていませんか	195人	3人	
	◦チャイム着席を守っていますか	124人	74人	
	◦朝礼に遅れていませんか	—人	—人	
	◦下校時間を守っていますか	168人	30人	
	◦移動教室では早めに移動していますか	—人	—人	
場面	歩	◦ふざけて歩いたり、大声でしゃべりませんでしたか	14人	57人
		◦つわばきのかかきとぶんで歩いたり、下で歩いたり	187人	11人
		◦授業中や会議中の時、廊下を静かに歩きましたか	183人	15人
		◦下校中、自転車と歩行の人が一緒に行きませんでしたか	165人	33人
		◦学校内で、先生やお客様にあいさつができませんでしたか	169人	29人
	あいさつ	◦朝、教室に入ったとき大きな声であいさつができませんでしたか	100人	78人
		◦授業の始めのあいさつは元気な声でできませんでしたか	126人	72人
		◦目上の人(先生や来賓)には適切な言葉を言えませんでしたか	145人	53人
		◦授業中、大声で話していませんでしたか	101人	97人
		◦言葉遣い		

推進委員会	長 上野 陽一	副 高田 山内
1. 問題点はどこか		
話している人を見てはいない		
放送を静かに聞いている		
自分の関係ない放送を静かに聞いている		
代い		
朝自習のつじめと終始の区別がわかっていない		
「ソノ一上をまじめばその人が」で話が終わる		
2. 問題点を解決する方法		
放送で「三本割朝自習を始めます(終ります)」と開始と終了に流してもらう		
「ソノ一人」静かにしる橋を作り、放送時徹底して注意してもらう		
放送の時、注意をみんなと行い、音を鳴らしたところ、視聴者の注意をみんな		

<p>「各ソノ一人」放送委員、各級委員が積極的に関与出来る</p>
<p>3. 具体的な取組方法をどうするか</p>
<p>放送が「かかると」放送委員がソノ一人を静かにさせ、話を聞かせる</p>
<p>(他言禁止、一、各級委員も協力する)</p>
<p>朝自習係が、各級委員が「採点し、その人と行儀、たかど」がわかるようにする</p>
<p>「ソノ一上をまじめば」かきとったところ、たかどに班心のソノ一上を調音中心で、各級委員が「前に出て」行儀。</p>

(4) 特別活動研究部のまとめ

特別活動研究部は、5つの実践(進路指導・学級の日・1分間スピーチ・自然愛護活動・実践七場面)活動を通して子どもたちの意識の変容を見てきた。同和教育の基礎・基盤づくりとしての成果は得られたが、同和問題を自らの課題・問題として受け入れるにはまだまだ十分な状態とはいえない。

成果

- 学級指導・進路相談(3者面談等を含む)・進路便り等の進路情報により、一人ひとりの生徒が将来の生き方について真剣に考えるようになった。
- 学級の日を通して、互いを認め、協力し、励まし合い、問題を解決しようとする生徒の姿勢が見られるようになった。
- 一人ひとりの活躍する場面づくり(学級会活動・学年行事・学校行事)を通して、生徒一人ひとりが存在感を感じ、精神的な成長が各所に見られた。
- 1分間スピーチの実践により、自分の考えを簡潔にまとめ、進んで発表する態度とともに級友の考えや間違いを受容する態度が身についた。
- 自然愛護活動(草花づくり)を通して、もの言わぬものへのいたわりや、自然を身近に感じ、愛し、大切に作る心が育まれた。
- 実践七場面活動における生徒の主体的な活動を通しての推進により、礼儀・学習・奉仕・安全などの生活の基本的態度が育成された。
- これら特別活動の研究の進展にともない、徐々に社会に現れた人権問題、いじめや差別に対する正しい判断が見られるようになった。

課題

今後も同和教育を継続していく中で、将来生徒の一人ひとりが差別問題に直面したときに正しい認識・判断や行動をとれるよう、日々の実践活動を通して生徒に実践力を身につけさせたい。

2. 教科研究部

(1) 研究のねらい

- ①人権尊重に徹した授業を行い、思いやりの精神を育てる。
- ②一人ひとりを大切にし、わかる授業の展開に努め、各教科の目標を達成する。
- ③目標・内容が特に人権教育と深い関係のある教科にあつては、適切な教材を取り上げ、十分成果が上がるように指導する。

(2) 研究の仮説

- ①お互いに協力し、みがき合いながら学習することによって、互いの人権を尊重し、共に生きる生徒が育つであろう。
- ②各教科において、指導過程の改善、学習形態の工夫、教育機器の活用を図り、わかりやすい授業を実践してゆけば、教科の目標が達成され、将来に向けてたくましく生きる力が身につくであろう。
- ③同和問題や基本的人権を扱った教材を年間指導計画に位置づけ、差別される側の立場に立って指導していけば、差別や偏見について、正しい認識を持ち、人権尊重の精神が育つであろう。

(3) 研究の内容

- ①研究を進めるにあたって以下の事に留意する。
 - ・全教科の学習で、より効果的な授業をするためには、一人ひとりがかけがえない人間として尊重されなければならない。
 - ・各教科の授業では科学的・合理的な物の見方、考え方の学習、をすることによって問題解決する実践力を育てる。
 - ・「学び方を学ぶ」ことによって主体的・発展的な学習ができるようにさせる。
 - ・授業研究を通して指導内容をどの様な教材を用いて展開していくか、生徒が主体的に学習できるようにするためにはどうしたらよいかを学び合う。
 - ・人権尊重の教育に内容的関連の深い教科である国語科・社会科を重点教科として人権や人種差別等に関わる題材や主題を指導することにより、同和問題の正しい理解を深めさせる。
- ②各教科の努力目標と具体的な方策
 - 共通目標 各教科の学習活動を通して人権尊重の観点を踏まえて生徒一人ひとりの学習意欲を高め、主体的・協力的に活動させて、目標を達成させる。

教科	努力目標	具体的な方策
国 語 科	<ul style="list-style-type: none"> 他との関わりを大切にし、共に学び合う姿勢を持った授業を目指し、基礎学力の向上に努める。-----① 	<ul style="list-style-type: none"> 文学的文章を通して、人間への見方・感じ方を実感させ、人間としての生き方を育成する。-----③, ④, ⑤ 説明的文章を通じて判断力・実践力・論理的な思考力を育てる。-----④ 相手にわかってもらおうとする態度と話し方を育てる。-----① 相手を尊重する聞き方と受け入れ方を育成する。-----①
社 会 科	<ul style="list-style-type: none"> 教材の精選・構造化を進め、学習意欲を高めるとともに基礎学力の定着を図る。--①, ④ 社会的事象を的確につかませそれをもとに考え判断することにより、人権尊重の資質を高める。-----④ 生徒一人ひとりが課題を明確につかむとともに自らの到達点がわかる指導に心がける。-----① 	<ol style="list-style-type: none"> 同和教育関連重点教材を洗いだし、年間指導計画の中にしっかりと位置づける <ul style="list-style-type: none"> 地理的分野 <ul style="list-style-type: none"> --インドの身分制度、南アフリカの人種差別、アメリカの黒人問題 歴史的分野 <ul style="list-style-type: none"> --士農工商の身分制度、四民平等、全国水平社 公民的分野 <ul style="list-style-type: none"> --基本的人権の尊重、人権侵害、職業選択の自由と職業の確保 それ以外の時間においても常に人権尊重の観点に立った授業を進める。---④, ⑤ 重点教材等の時間を生み出すために、教材の精選と構造化を進め、学習意欲を高める。---プリントの活用、教育機器の利用など。---①, ④ 生徒一人ひとりに課題をつかませるために、柱の設問については自分の考えをメモさせる。・机間巡視による個別指導に心がけ、小集団による意見交換を通して互いの考えを深め、まとめる-----①, ④, ⑤ 生徒一人ひとりが課題について自己評価できるようにする。---①, ⑤ <ul style="list-style-type: none"> 単元の指導計画、指導目標を明確にする。 1単位時間の柱「主発問」を明確にする。 本時の目標達成を確認するために作業、設問を用意する。
数 学 科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を押さえ、科学的合理的な見方・考え方ができるとともに矛盾点を見いださせるようにさせる。---④, ⑤ 一人ひとりの理解度を考慮し個に応じた指導を目指す。① 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒のつまづきをとらえ、互いに教え合い学び合う協力的学習の場を作る。-----① 生徒の発想を大切にし、それを方向付けることによって興味・関心を高める-----①, ⑤ 誤った論証の矛盾点を見いださせ、科学的・合理的な見方・考え方の能力を高める。-----④, ⑤
理 科	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの科学的な物の見方・考え方が育つ授業を目指す。-----④ 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時の学習課題を明確にする。---⑤ 実験観察を通してデータの処理や読み取りを正確にできるようにさせ、問題解決の能力を培う。-----④
科	<ul style="list-style-type: none"> 小集団学習を取り入れ、お互いに協力し合って学習を進める。-----① 直接経験、あるいは視聴覚教材による間接経験を多くし、動機づけを図る-----③, ④ 実験・観察用具の充実を図る。 	

教科	努力目標	具体的な方策
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが自分の音を全体の響きにとけ合わせる合唱による演奏形態を核に共に美しいものを創造していく喜びを体得させ、意欲的に表現する授業を目指す。-----①, ③ 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 合唱・器楽合奏(リコーダー)を核とする表現活動--小集団(班またはパート別)活動を通して、互いの能力適性を認め合い、教え合合う中から美しいものを創造していく喜びを体得させる-----①, ③
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 2. 教材の精選---合唱・合奏の教材として生徒が意欲的に取り組む効果的なものを教科書以外のものからも積極的に取り入れる。(技術及び学年の発達段階も考慮する。) 3. 鑑賞指導を通して教材の普遍的な内容と、個々により異なる教材のあることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①, ⑤
美術科	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動の喜びを味わわせ、意欲的に表現活動に取り組ませる。-----③ お互いの作品を鑑賞し、認め合わせることで、個性や独自性の尊さを自覚させる。-----①, ③ 物事に感動する心の大切さを理解させる。-----③ 感性だけでなく、自然の理解や客観的な観察も重要だということを理解させる。-----②, ④ 	<ul style="list-style-type: none"> 教材に応じて学習形態をくふうし、小集団での制作を取り入れる。-----① 制作途中での意見の交換をする。-----① 作品展示や鑑賞の機会を持ち、賞揚の場を多く設ける。-----① 教材に変化をもたせ、興味・関心を高める。-----③, ⑤ 作品の制作には作者の心の動きが重要だということを強く訴える。-----③ 基礎技能や観察のしかたを継続的に指導する。-----④
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> 各種の運動(分野別)の特性を生かし、個々の運動能力に応じた目的を持って授業にとりくませ、楽しさや喜びを体得させると共に評価の方法を工夫する。-----①, ③ 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の実践を通して、健康の保持増進を図り、明るく豊かな生活ができる態度を育てる。-----①, ③ グループ学習を取り入れ、効果的(効率的)な授業を展開する。-----① ルールを守り、互いに協力して、安全に運動が行えるよう努力する。-----①
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ルールを守り、勝敗に対して公正で、相手を尊重できる態度を育てる① 自己の役割を自覚し、責任を果たし、互いに協力できる態度を育てる。-----① 	<ul style="list-style-type: none"> ①
技術・家庭科 男子	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容に生徒が興味・関心を持つようにさせる。-----⑤ 豊かな生活を営むために工夫、創造の能力と実践力を高める。-----⑤ 作業学習では安全と効率の面で指導の徹底を図る。-----①, ④ 	<ul style="list-style-type: none"> 実習題材の開発により学習の意欲化を図り個々の到達度に応じた指導をする-----① 個人差が生きる小集団学習の編成を工夫し、集団の質の向上を図る。-----① 題材の製作に入る前に「作業課題」を設けて試行作業を行わせる。 実習では作業の分担と同時に、お互いに協力し合って学習をする。-----①
技術・家庭科 女子	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上と意欲的な態度を育てるために生徒の思考過程にそった授業の展開をする。-----① 創意・工夫の場を多く設け、日常の実践・応用化のできる指導をする。-----⑤ 	<ul style="list-style-type: none"> 実践的・体験的な学習を積極的にすすめるための場面の設定をする。-----⑤ 題材の選択にあたっては生徒の実態と特質にあったものとする。-----①

教科	努力目標	具体的な方策
英語科	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが生き生きと言語活動に取り組めるような指導を工夫する。-----① 英語を通して外国の人々の生活や風俗・習慣などを理解させ、国際理解の精神を培う。-----④ 	<ul style="list-style-type: none"> 読み、暗記、ノート、ワーク等の学習が点検できるようなEnglish Card(個人)を活用する。-----① 小集団学習の意欲づけ、国際理解を深めるために、外国人教師とのチームティーチングをくふうする。---①、④ 授業をよりわかりやすくするために教材教具を工夫する。-----①
障害児教育	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、一人ひとりの能力に応じた指導に心がけ、ステップをできるだけ細かくし、無理のない、楽しく取り組める授業を心がける。-----①、③ 交流教科は担任との連絡を密にしてフォローしていく。---① 作業学習—木工、皮工芸、木版、粘土、調理実習等の作業学習を設定し作業段階を細かく幅広く用意し、本人に無理なく取り組める授業とする。-----①、⑥ 校外学習—キャンプ、やきいも会、アスレチック等を実施し、計画・準備・実施・反省等の過程を通して、国語・算数・社会・生活等の教科学習を進める。行事に楽しく取り組み、参加することを通して各自の役割を果たし、協調性を養う。-----①、②、③、④、⑤、⑥ 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の段階に応じて楽しく習得できる授業を行うことにより学習の成果をあげ、自信と喜びを感じさせる。-----① 教科学習では個々の生徒の興味を生かした授業を行い、その興味が他の教科に波及して行くように心がける。学習の成果を確認して小さな進歩も必ずほめる。-----①、⑤

※①～⑥などは本校の同和教育の6視点の番号を示す



<社会科における同和教育に関する指導内容>

①地理的分野

題材	指導内容
インドの身分制度	カースト制はインドの近代化を妨げる原因の一つになっている。細分化され、固定化された職業の様子を理解し、その不合理性について考えさせる。
南アフリカの人種差別	南アフリカ共和国の白人による黒人支配の実態、政策的支配の意味を理解し、問題解決に向けての国連などの取り組みに関心を持たせる。
アメリカの黒人問題	アメリカ合衆国における人種差別、特に黒人に対する差別の問題は今なおみられる。その差別反対の運動が今まで行われてきたことを理解し、更に解決に向けて努力していく必要を理解させる。
ラテンアメリカの人種とくらし	ラテンアメリカが人種のるつぼといわれながら、人種的偏見が少ないのはなぜか、アメリカ合衆国や南アフリカ共和国と対比させながら考えさせる。

②歴史的分野

題材	指導内容
文明のはじまり	大規模な農耕によって生産が高まり、支配者と被支配者の階級が生まれ、統一国家が成立していった過程を示し、身分の発生について理解させる。
ギリシアの文化 ローマの発展	古代社会の生活と文化の繁栄の裏には奴隷の犠牲があったことに気づかせる。アテネのポリスでは、成年男子の全市民による直接民主政治が行われていたが、婦人や奴隷は政治に参加できなかったことをつかませる。
縄文時代の 人々の生活	自然物の採集は、不安定な生活であり、共同作業を行い、収穫物は公平に分配していたと思われる。身分の発生もなく、私有財産や貧富の差も未発達で、支配者と被支配者の関係が無かったことに気づかせる。
弥生時代の 人々の生活	稲作の広まりは、集落の定着化と拡大、生活の安定をもたらし、富が蓄積され、集団内部に貧富の差が生じ、階級社会が成立していった過程を縄文時代の社会と対比させることにより理解させる。
大和国家の しくみ	大和朝廷の支配のしかたを氏姓制度を中心に理解させ、公私の隸属農民「部民」と「奴」が一つの固定した身分となったことをとらえさせる。
律令政治の成立	律令国家の支配者である天皇と貴族はさまざまな特権を得た。また、人々は「良民」と「賤民」という身分差別があり、口分田の広さや刑罰の軽重にも差があり、奴婢は牛馬のように売買されていたことを理解させる。
検地と刀狩	秀吉の行った検地・刀狩と身分令は、兵と農・商の分離政策を一段とすすみ、江戸幕府による封建制度の確立と身分制度の元になったことを理解させる。
身分制度	江戸幕府の政治的意図により生み出された身分差別は、農・工・商の民衆を分断し、農民の不満をそらすために「えた・非人」というさらに低い身分を置いたことを正しく理解させるとともに、江戸時代の260年間を通して身分差別が人々の心に浸透していったことを理解させる。

③公民的分野

題 材	指 導 内 容
現代の家族生活 と その問題	第二次世界大戦後、人権保障がまず身近な家族生活においてどのように行われるようになったかを探らせ、さらに今後の家族生活の課題を考えさせる
基本的人権の 尊重	基本的人権は長い歴史と多くの犠牲によって獲得されたものであることに気づかせる過程で、だれもが平等に人権を持っていることを理解させ、人権尊重の大切さを考えさせる
人権の侵害	憲法に定める法の下での平等の意味を正しく理解させ、現代の社会における人権侵害を調べる中で、その非合理性に気づかせる。さらに、人権の侵害がひとたび起こると償うことのできない問題となることに気づかせ、人間尊重の社会づくりのためにどのように取り組んでいったらよいかを考えさせる。現実の部落差別の実態を知らせ、社会的背景を理解させる中で不合理な差別であることを認識させ、差別を許さない心を育てる。
職業選択と確保	職業選択の自由と勤労の権利は憲法によって保障されていることを理解させるとともに、現実に職業における差別問題が起きている事実をとらえ、弱者の側に立った人々に対する就職の機会不均等のあることの問題について考えさせる。
国際社会と平和	世界には様々な人種・文化があり、互いに尊重し合うことが平和への第一歩であること、さらに生命の尊さを考えさせる

人権標語

認めあう心で築こう

自由と権利

中沢中学校

人権標語

自分はいじわるな人ではないけれど
知らないふりもいじめの一つ

中沢中学校

人権標語

考えよう

個々の人権どういふものか

中沢中学校

<国語科における同和教育に関連する指導内容> (国語科年間指導計画)

第1学年

学期	月	単元名	教材名	主な指導内容
一	4	新しい門出	あの坂をのぼれば (物語)	人物の心情の変化を読み取らせ、内容や表現を考えて朗読させる。
	5	文学の楽しみ	朝のリレー (詩)	詩の表現を通して、感動をとらえさせる。
			ひと声 (小説)	表現を手がかりにして、場面の状況や展開を読み取らせる
6	自然の不思議	フシダカバチの秘密 (説明文)	文章の筋道をとらえ、全体の構成を考えさせる。	
二	9	生活の中で	ちょっと立ち止まって (説明文)	自分のものの見方や考え方を広げさせる。
	10	少年の日々	少年の日の思い出 (小説)	作品の主題につながる主人公の心情を読み取らせる。
	11		赤い実 (小説)	主人公の行動や心情を読み取り、人間としての優しさを育てる。
三	1	平和への願い	大人になれなかった 弟たちに (物語) 水門で (小説)	表現に注意しながら「僕」や「母」の心情を読み取らせる。作品を構成する各場面の情景や人物の心情を読み味わわせる。

第2学年

学期	月	単元名	教材名	主な指導内容
一	4	心の目を開く	クロスプレー(小説)	人物像や人間の心の動きをとらえ、人間の生き方を感じ取らせる。
	5	自然と人間	広がる砂漠(説明文)	原因・結果・概括などを読み分け、文章の論理的展開をとらえさせる。
	6	文学の味わい	盆土産 (小説)	作品の構成をとらえ、情景や心情の描写を読み味わわせる
二	9	文学と表現	走れメロス (小説)	場面や人物の描写に注意して心情を読み味わわせ、主題を考えさせる。
	10		夕焼け (詩)	情景と「娘」の心情の推移をとらえ、主題について考えさせる。
	11	生きる姿	子馬 (小説)	作品の展開に沿って、情景や人物の心情を読み取らせる。生と死のかかわりあいの姿を追究し、そこから主題を考えさせる。
三	3	【読書2】	法隆寺を支えた木 (説明文)	文章を読んで、自然と人間との関わりについて考えさせる

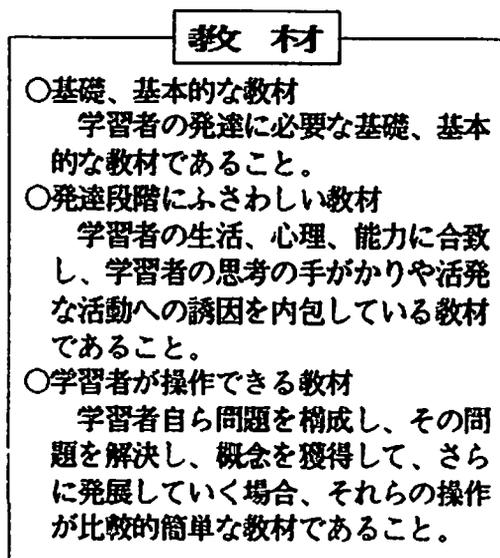
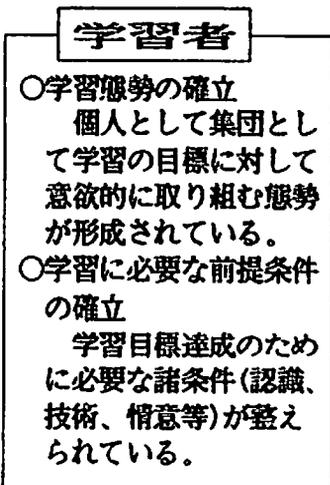
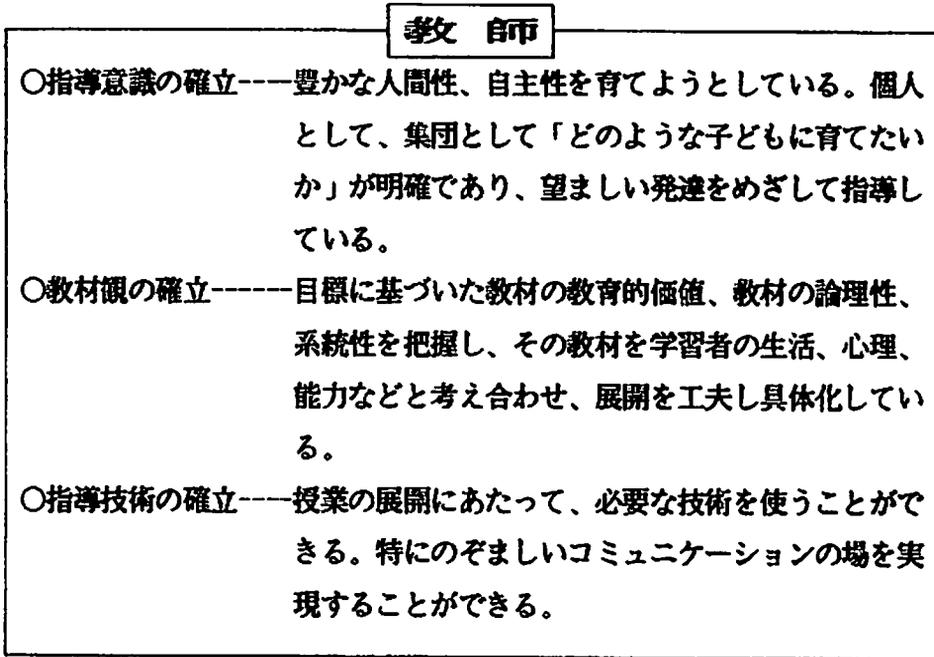
<国語科における同和教育に関連する指導内容> (国語科年間指導計画)

第3学年

学期	月	単元名	教材名	主な指導内容
一	4	自然の探求	広く学ぶ心(説明文)	文章の論理的な構成を読み取り、筆者のものの見方・考え方の特徴をとらえる。
	5	見つめる心	キジの儀式(随筆)	文章の展開に注意して、筆者のものの見方・感じ方を読み取る。
	6	近代の文学を味わう	吾輩は猫である(小説)	近代の代表的作家の作品を読んで、作者の文明・社会・人間に対する感じ方をとらえる
二	9	言葉の追求	新しい文体の誕生(説明文)	文章の展開に即し、筆者の考えの進め方をとらえる。
	10	状況の中で	故郷(小説)	小説を読み、主人公の心の推移をたどって、主題をとらえる。 社会や歴史の変動の中で生きる人間の姿を考える。
			夏の花(抄)(小説)	異常な出来事に対する作者の心情や、出来事のとらえ方・描き方の特徴をとらえる。
11	現代に生きる	わたしを束ねないで(詩) 車掌の本分(小説)	表現の特徴をとらえ、作者の生きることへの思いを読み味わう。 生きるということを自分なりに深く考える。 作品の展開をたどり、「文明や人間」にかかわる主題をとらえる。 社会や人間のあり方について深く考える。	
三	2	真実を求めて	夕鶴(戯曲)	人物の性格や生き方をとらえ人間や人生について考え、戯曲の特色を味わう。

(1)わかる授業の構造

①わかる授業を成立させるためには、教師、教材、学習者の三つの条件が相互に効果的に作用し合い、それぞれがふさわしい条件を備えていなければならない。



(2) わかる授業のための指導計画

学習目標を達成するためには、子どもたちの実態を把握し、学習過程をしっかりと設計しなければならない。

① 目標の明確化、構造化、精選の段階

教科の目標



<学習目標の内容分析>

○単元の学習内容と育成すべき内容を系統化し、構造化する。

<指導計画>

○単元全体の指導内容を小単元に区分し、単位時間ごとの認知、技能、情意、各領域の目標を明確化する。

② 授業構成の段階

<事前調査>

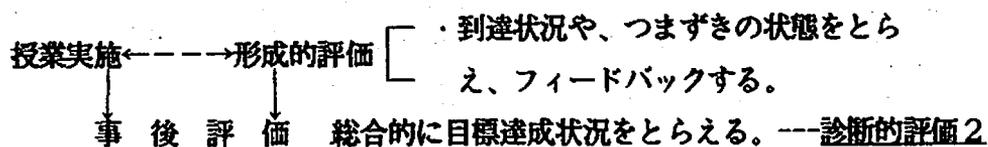
○既有知識量、興味、関心、思考、傾向等の調査

○子どもに即しているか、既習事項との関連-----診断的評価1

<学習指導案>

○指導内容、学習活動、学習形態、評価の観点等の単位時間学習計画

③ 授業実施と評価の段階



④ 単元末、中間・期末評価-----総括的評価



⑤ 新たな目標の設定

(3) わかる授業の教材研究の手順

<指導内容の明確化>

○教材のねらい 指導事項の明確化

<教材そのものを理解>

○教材のとりあげる部分と軽く扱う部分の検討

<教材の位置の把握>

○前後の教材と他学年での教材配列に注目し、それを見通し、計画を立てる。

<教材の拡充や変容>

○生徒の能力と教材の難易、日常経験、既習事項と教材の内容、教材の難しい部分のくだけ方、解きほぐし方、補い方などの工夫。

○授業の中で生徒の状態に合わせ、拡充や変容の工夫。

(4) わかる授業の教材と発問について-----子どもたちが主体的に行動でき、奥が深いもの

- 子どもたちのだいじな発言や発見を生かす働きがある。
- 子どもたちのやる気や関心を盛り上げ、培う働きがある。
- 子どもたちの盲点やつまずきを敏感にとらえる働きがある。
- 教材に対する子どもたちの視点や解釈を有効に位置づける働きがある。

↓↓↓

子どもの力で問題が見つけれられる資料や現象。

素朴な発見や疑問を大切に扱う。

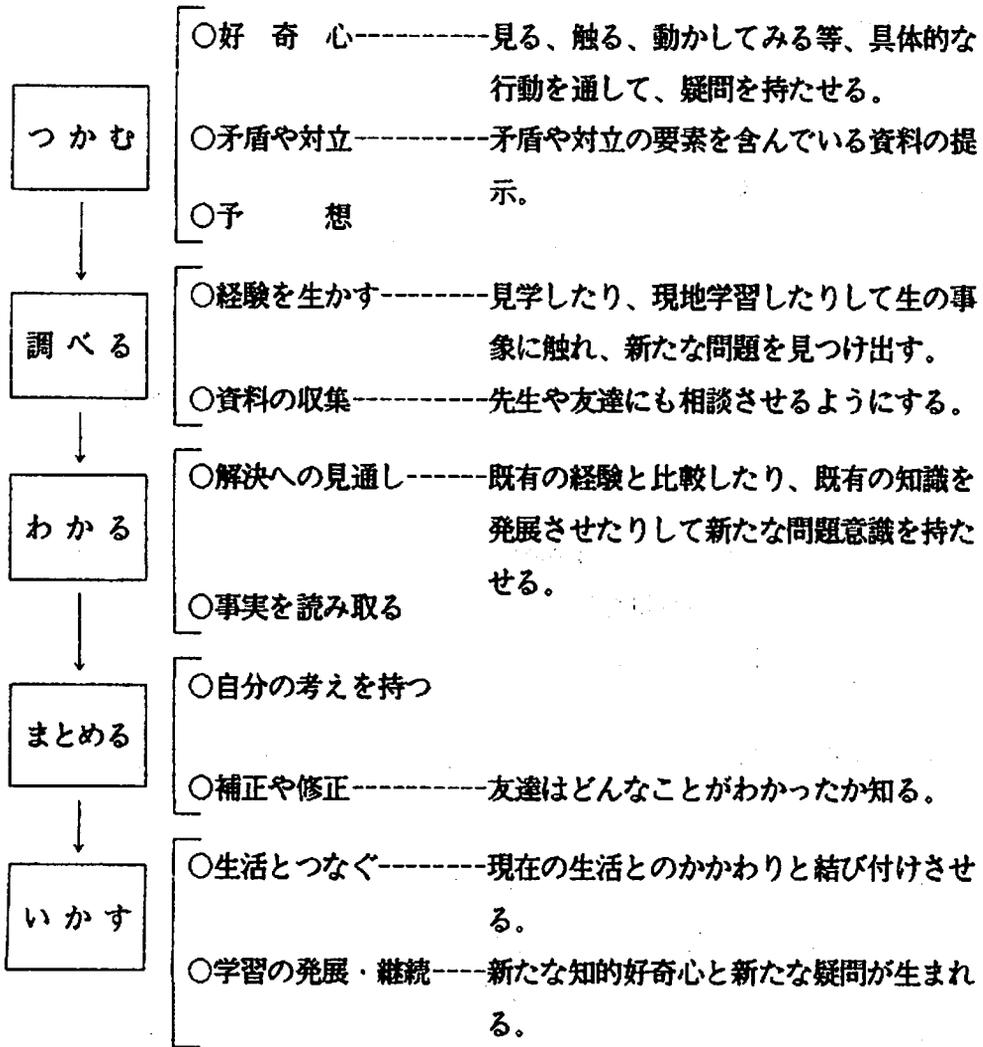
何を見つけさせたいか、教師のねらいがはっきりしている。

※子どもが答えられることよりも、子どもが意味がわかり、子どもが疑問、問題を持てること、次の課題が見えてくることが大切。

(5) わかる授業の型-----3つの型が考えられるが、人権教育においては「追究」型を取り入れたい。

○「伝達」志向 ○「発見発問」志向 ○「追究」志向

(6) わかる授業の体験学習-----問題解決型学習の場合



※ 科学の結果としての「結果まね」「行動まね」よりも「科学の過程」を大切にしたい。

※ 科学的な認識を育てていくためには、予想・仮説を持ちながら、ものごとを見ていかないと、ものごとの本質が見えてこない。

〇〇科指導案

指導者 伊勢原市立中沢中学校 教諭 〇〇 〇〇 印

1. 日 時 平成元年 月 日() 第 校時
2. 学 級 第 学年 組 名(男子 名, 女子 名) 授業場所
3. 学級の実態
 - ◎生徒観
 - ・学級全体としての特色や傾向等
 - ・教科における生徒の状況
4. 単元(題材・主題)名 各教科で、その意義を明らかにして使用する。
5. 単元設定の理由 なぜ、この単元を取り上げたかを明確にする。
 - ◎教材観 単元の持つ意義や、教材の価値
 - ◎指導観 指導の視点、重点、資料の使い方・考え方をどのように指導するかという具体的方策や配慮したことがら等
6. 単元の目標 単元でねらう事柄をもれなく挙げる。
 - ◎理解面(認知領域) ・～を知る。(～を理解させる。)
 - ◎能力面(技能領域) ・観察力、思考力、表現力、資料の活用能力等(～する能力・技能を養う、高めるなど)
 - ◎態度面(情意領域) ・心情、関心、態度(～する態度を養う、培うなど)
7. 指導計画
 - 第1次 ○○○○○○----- 時間
 - 第2次 ○○○○○○----- 時間(本時は 時間目)
 - 第3次 ○○○○○○----- 時間
 - ・指導内容を指導時間との関わりで考察して決定し、学習内容から想定される難易度や、学習者の実態を考慮して時間配分する。
8. 本時のねらい 抽象的なものでなく、生徒の実態を充分考慮して、主としてねらう内容を具体的に記す。行動の目標で示すようにするとよい。(～できる。)
9. 同和教育の視点より特に留意すること
 - ◎研究主題とめざす生徒像に迫るため、本校の同和教育の6視点のうち、どの視点に留意して本時を展開するかを記す。(視点○,○)
10. 本時の展開

過程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	準 備
導 入	※学習者の課題を解決するための内容を書く	※教師の助言、指導、指導上の構えなどを書く 観点 a. 生徒の学習活動についての留意点 b. 指導内容の程度・範囲、生徒の陥り易い点についての留意点 c. 教具や資料の扱い方についての留意点 d. 学習活動における保健・安全についての留意点 e. 形成評価についての留意点 f. 学習形態(個、班、全体等)の別を書く	※教具・資料等、教師側・学習者側の両面から使用するものを書く
分			
展 開			
分			
ま と め			
分			

11. 評 価 本時の内容・内容について生徒の理解の程度を確かめるための観点などを記す。

1. 日時 平成元年6月23日(金)第4校時
 2. 学級 第2学年5組(男子20名,女子21名,計41名)
 3. 学級の実態 全体的にみて、素直な生徒が多い。指示された事に対しては、まじめに取り組もうとする姿勢が見えるが、自分から積極的に発言したり意見を言う事は少ない。
 4. 使用教室 2年5組教室
 5. 単元名 三. 文学の味わい 文学の優れた表現を読み味わう
 6. 教材名 「盆土産」 三浦哲郎
 7. 単元設定の理由 文学作品の中には、さまざまな人間の生き方とか人生的な思いなどが語られているが、それらは決して概念的・抽象的に述べられるのではなく、それぞれの作者の、愛情を含めた丁寧な感性的・形象的表現(文学的な描写・描出)によって作品化されているのである。この単元の中心の目標は「文学の優れた表現を読み味わう」だが、これは文学の世界をその「表現」に即して読むことである。生徒は今までも何回かの文学の学習でこの読みかたを行ってきた。ここでは、その「表現を読み味わう」を特に大きく取り立て、学習の中心目標としている。
 8. 指導目標
 ・作品の構成をとらえ、場面の情景や人物の心情の描写を読み味わわせる。
 ・場面なり表現部分なりの印象を感じ取らせ、作品全体の中心の主題をとらえさせる
 9. 指導計画 6時間扱い
 1. 全文を通読し、第一次感想を書く。
 2. 作品全体の場面構成をとらえる。
 3. 第1の部分の情景や心情を精読する。(本時)
 4. 第2の部分の情景や心情を精読する。
 5. 第3の部分の情景や心情を精読する。
 6. この作品の特徴的ないくつかの印象を読み分け、味わう。
 10. 本時のねらい 場面の展開をたどりながら、第1の部分の場面構成を精読させ、少年の家の家族構成や暮らしぶりについてとらえ、さらに、予告された土産「えびフライ」に対するそれぞれの人物の反応をとらえる。
 11. 同和教育の視点より特に留意すること
 人物の微妙な心情や生き生きとした情景の描写を読みとる。また、ここに描かれる家族は恵まれない生活の一家だが、みんな少しもいじけずに、むしろ明るく心を寄せあって暮らす姿が、いじらしく、また、ほほえましく展開する。そこに肉親の絆の温かさを基調とした、ナイーブで堅実な生活感を読み味わわせたい。(視点1・3・5)

12. 本時の展開

	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点	準 備
導 入	・第1の場面の場面構成表を確かめ合う	・前時の場面構成表をもとに、場面の流れ、構成を的確にとらえさせる。	
展 開	・第1の場面の朗読をする ・場面の展開をたどりながら ○少年の家の家族構成や暮らしぶりについて ○少年と姉の会話のやりとりから感じ取れること ○予告された土産「えびフライ」に対するそれぞれの人物の反応について 表現をさがして発表する。 ・釣りの場面での描写の巧みなどところを見つける。	・場面の構成に合わせて2~3名の生徒に読ませる。 ・冒頭の「…つぶやいてみた」の主語がないこと(その後もずっとないこと)も考えさせる。 ・「油・ソース」などは常備していない日常生活という点を見落とさないように ・姉・祖母の反応から少年が「えびフライ」とつぶやかざるにいらなくなる気持ちを考えさせる	
ま と め	・釣りの場面と「えびフライ」とつぶやかざるにはいられないわけをもう一度確認する。	・次時の予告として第2の場面の場面構成表を確認してくるように指示する	

13. 評 価
 ・「えびフライ」をそれぞれの人物がどのように受け止めているか読み取れたか。
 ・場面から場面への展開をはっきりおさえることができたか。

社会科（公民分野）指導案

指導者 伊勢原市立中沢中学校 教諭 坂岡 一朗

- 1.日 時 平成元年6月16日（金）第3校時
- 2.学 級 第3学年3組（男子23名、女子21名、計44名）
- 3.学級の実態 全体的に明らかく落ち着きのある学級である。社会科に対する学習意欲・関心は高いが、積極的な行動が不十分である。また、学習到達度の遅い生徒もおり、机間巡視の際に指導をしているが、生徒どうしが教えあう雰囲気高めたいと思う。
- 4.使用教室 3年3組教室
- 5.単 元 名 人間尊重の社会をめざして 4 現代社会と人権
- 6.単元設定の理由 日本国憲法で人権の保障が規定されているものの、現実の社会には人権侵害の例も少なくない。一人一人が人間尊重の自覚に立ち、人権を守り育てる努力していく必要があることを理解させるために本単元を設定した。
- 7.指導目標 人権が尊重されている社会を実現するには各人の地道な努力が必要であることを理解させる。
- 8.指導計画
(3時間扱い) ○ 新しい権利 (1時間)
○ 人権の侵害 (2時間) ← 本時は第2時「差別による侵害」
- 9.本時のねらい 差別による人権侵害について、その実態と社会的背景を理解させ、現実が存在するさまざまな差別や偏見に目を向けさせ、それらを解決していこうとする意欲や態度を養う。
- 10.同和教育の視点より特に留意すること 人権尊重の意味や内容を言葉の上から理解しただけでは、差別や偏見をなくそうという課題を解決できるものではない。本時では、平等権の復習をよまえ人間の弱さからくる差別感情を知り、その不合理性・非人間性に気付き、それを克服しようとする意欲や実践的態度を養う。(視点：1,4,5)
- 11.本時の展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料
導 入	○本時の学習内容について説明を聞く。	○本日の課題をしっかりとつかませる。	
展 開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校や家庭・地域での生活の中で、差別や不平等と感じられる事象について考えを発表する。 ・「男だから」「女だから」という表現 2. 日本国憲法の条文中から、平等に関する表現を確認し、その意味・内容を考えさせる。 ・個人の尊厳 (第13条) ・法の下での平等 (第14条) ・两性の平等 (第24条) ○日本国憲法の中で平等がどのようにとらえられているかを復習する。 ・平等権が基本的な人権の基礎になっている。 ・互いに個人として尊重しあうことにより成り立つ。 3. 現代社会に存在する差別事象について教科書からまとめる。さらに差別の原因を考える。 ・部落差別 ・人種、民族差別 ・男女差別 ・心身障害者差別 ○差別の原因・理由について考え、その非人間性や不合理性を知る。 ・支配者の都合により人為的につくられてきたもの。 ・人の心の弱さから差別する際になっってしまうがちなこと。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生徒の日常生活の中から差別や不平等と思われることについて思い起こさせる。 2. 既習の部分であるため、深入りは避ける。 ○考えをまとめさせる方向での助言をする。 ○誤った平等のとらえ方をしないように注意する。 3. 個々の事象への深入りよりも差別への憤りを引き出すようにする。 ○差別は非人間性であり・不合理なものであることを確認させる。 ○歴史的背景と差別には深いかわりがあることを確認させる。 ○それでも差別者の側に立ちうることに気付かせる。 	<p>○教科書P.230「日本国憲法」</p> <p>○教科書P.34～35「人間尊重の社会へ」</p>
ま と め	○差別をなくし、真の平等社会をどのように実現していったらよいかを考え、ノートにまとめる。	○時間があれば、数名の生徒に発表させる。 ○ノートを提出させ、個々の見解について助言する。	

- 12.評価・反省 ○ 差別は人間性の習とくであり、不合理であることを客観的に判断できたか。
○ どれも差別者の側に立ちうることに自分の問題としてとらえ、自ら差別や偏見を解消に立ち向かう気持ちを持たせることができたか。

理 科 [第 2 分 野] 指 導 案

指導者 伊勢原市立中沢中学校 教諭 和田 央

1. 日 時 平成元年6月29日(木) 第3校時
2. 学 級 第1学年4組 (男子20名、女子20名 計40名)
3. 学級の実際 全体的に明るく、元気なクラスである。理科に対する学習意欲も高く、意見発表等もよくし、授業の雰囲気は全体として良い。しかし、まだ持続力にやや欠け、わがままなところもみうけられる。実験学習をとおして、お互いに協力しあいながら学習に取り組みるようにしていきたい。
4. 使用教室 第1理科室
5. 単 元 名 物質とその変化
6. 単 元 目 標
- 物質の単位体積あたりの重さ(密度)は、物質の種類によって決まっていて、物質の種類を区別する手掛かりになることを理解させる。
 - 物質を区別するには、色、手触り、味、におい、熱したときの变化、光沢、電気の通りやすさ、磁石に引き付けられるか、溶解性、他の薬品との反応、粒(結晶)の形などの物質の性質を手掛かりにできることを理解させる。
 - 物質の体積は、温度によって変化するため、物質の量を表すにはふつう重さを使うことを理解させる。物質の性質(10時間)
 - 物質の重さと体積(5時間)……
 - 1. 重さと体積(2時間)………本時は第2時
 - 2. 物質1cm³あたりの重さ(3時間)
 - 物質の区別のしかた(5時間)
7. 指導計画
8. 本時のねらい
- 身近な物質(物体)の体積と重さの測り方を理解させ、測定した値をグラフに表すことができる。
 - グラフから、種類のわからない物質が何かを推測することができる。
9. 阿和教育の視点より特に注意すること
- 班員が、それぞれの役割をきちんと果たし、友達の見解を尊重しお互いに協力して学習できる。
 - 班団の中で自ら考え、自分の意見を積極的に発表する。

10. 指導過程

過程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	準 備
導 入	前時の復習をする。 ・メスシリンダー、上皿てんびんの使いかた		メスシリンダー、上皿てんびん 記録用グラフ用紙
展 開	実験の目的・方法・まとめかたを知る 実験①、②、③、④をする。 実験①ボルトの重さと体積の測定 実験②釣り用重りの重さと体積の測定 実験③1円硬貨10枚の重さと体積の測定 実験④種類のわからない物質の重さと体積の測定	グラフの点の取りかたに注意する 能率的に実験ができるように、班で役割分担を確認し、実験に取り掛かるようにさせる。 器具の取り扱い等、安全に留意する。 目盛りの10分の1まで読み取らせる。	実験用ワークシート 実験用具 おもり、1円硬貨 ボルト、アルミニウム
閉	実験結果を班でまとめる。 ・数値の確認とグラフ化 ・実験で工夫した点、疑問に思ったこと等を書く ・記入したグラフをつかって、種類のわからない物体が何か推論する。	・グラフの点が正しく書けているか、 机間巡視する。	
ま と め	実験結果を発表し、結果をまとめ、次時の課題をつかむ。	・生徒の発想を大事にする。	

11. 評 価

- ・メスシリンダーと上皿てんびんの操作が正しくできたか。
- ・目盛りの読みかたが正確にできたか。
- ・実験結果をグラフ化できたか。
- ・未知の物質の重さと体積をグラフ化することで、その物質が特定できたか。

技術・家庭科学習指導案

伊勢原市立中沢中学校 教諭 川口泰吾

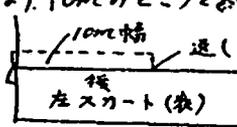
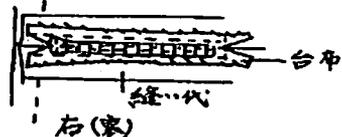
1. 日時・場所 平成元年6月15日(木)2校時・木工室
2. 学年 第1学年 3・4組(女子)40名
3. 生徒観 温かな生徒が多く、活発な生徒が少ない。全体的に明るくよいが、ややもすると、まだ話しかけにくい。また、製作に興味のわかない生徒もいる。
4. 單元名 木材加工1 (ティッシュペーパー入れの製作)
5. 單元設定の理由 ティッシュペーパー入れの製作をとおして、木材の特徴と、その効果的な使用法を理解せるとともに、木材加工の基礎的な技術を習得させる。
6. 單元目標 簡単な木製品の製作を通して木材の特徴と加工法の関係について理解させ、製作の楽しさや完成の喜びを味わわせる。
7. 指導計画 木材加工1 (ティッシュペーパー入れの製作) 24時間
 (1) 木材と生活 1時間
 (2) 木製品の設計 6時間
 (3) 木製品の 6時間 (本時は11時間目)
 (4) まとめ 1時間
8. 本時の目標 (1) 図面のみかたがわかる。
 (2) 製作の順序がわかる。
9. 同科教育の視点より特に留意すること
 ・一人ひとりと大切に、お互いに協力しあっているから学習する。
 ・話し合いの問題を解決する実践力のある生徒の育成。

10. 指導過程

	指導内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (5)	・本時の学習内容の確認	・本時でティッシュペーパーの製作の順序を知る	・本時の目標の確認
展 開 (35)	・材料表のみかた ・図面のみかた ・仮組み ・作業順序 ・作業上の注意 ・上板のけがきとやすりがり	・各部分の寸法をはかり、材料表とくらべる ・どの部材が図面のどの部分にあたるか調べる。 ・各材料を図面をみながら仮組みをする。 ・班で作業の順序について話し合い考える。 ・作業上の注意についての説明を聞く。 ・上板のけがきをおこなう、やすりがりをする。	・机周巡視をしいるから指導する。 ・2人1組で実施する。(お互いに協力させる) ・安全面について十分に指導する ・木工やすり、紙やすりを使用する。
まとめ (5)	・本時のまとめ ・次時の予告	・本時の学習について反省する。 ・次時の学習内容について知る。	・木材料をきちんとしまう ・工具の整理をする。

11. 評価

- ・図面のみかたがわかったか。
- ・製作の順序がわかり、友達と協力して作業ができたか。

<p>説明 実践</p>	<p>(5) 布と表にひらようにしうけ。後中心線より、10cmのところを糸で縫う (1つけと布に縫いよけて)</p>  <p>(6) 布の裏を出し、ファスナー台布を縫い代にまっつ付ける。(1つけ糸1本)</p>  <p>(7) (1)で1つけをした部分を取ろ (6)の完了したときに(1)の1つけを取つても良いこと。</p>	<p>・10cmの縫い目は、表より見ると縫い目を揃えるよう注意させる。</p> <p>・布が最後ににらまないので、縫針を打つ。(1つけをするように指示)</p> <p>課題3 台布を縫い代にまっつ理由。</p> <p>布の表には、針目は出ないことばかり (縫い代と、台布の縫い合わせのため)</p> <p>完成作品は、正しく出来たか、グループ相互で観察する</p>	<p>条件記入用紙 (7エック四)</p>
<p>まとめ 発展</p>	<p>・スカート作り(ファスナーつぎ)の部分のまっつが出来たか</p> <p>(1) 下前(左)で0.3cm出す</p> <p>(2) ファスナー上下を合わせる } ことが理解出来たか</p> <p>(3) 台布を縫い代にまっつ } 作業するところが分かる</p> <p>・次回の課題を教える。 (特針、針の確認、糸くす)</p> <p>学習用具の片付け</p> <p>当番(清掃)</p>	<p>表に左、右を記入し、下上前と定着させる</p> <p>[課題の解決]</p> <p>・スカートと着装したとき、ファスナーが見えない</p> <p>・上(ベルト布にくいこまない) } 上り下り、下(縫い代にくいこまない) やすい</p> <p>・縫い代に台布がくいこまない。</p> <p>提出 (名札) (グループ評価表)</p>	<p>名札用紙</p>

12. 評価と反省

- (1) 次時に扱うスカートの作り方が、針縫え工夫もして正しくつくれることが出来るか (特効的に取りくみ、実践の場を生かすことが出来る)
- (2) 互いに協力し、作業をすすめることが出来るか

メモ

授業参観をより効果的に行うためのチェックリスト

本時の目標 (ねらい)	
同知要員の 視点	

＜事前＞

教材の準備	
-------	--

教師の働きかけ		生徒のあわれみ	
過程	説明・発問	問<(整頓の語)>	発問(発言)
<p>○導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切であるか <p>○展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整頓・補助等は使っているか ・引例・具体例は充分提示しているか ・時間配分はうるさいか <p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ方は適切であるか 			

○目標は到達できたか。(授業の確度化は成功か否か)

○生徒一人ひとりを大切にしているか。

○生徒の人間性豊の意識を高めているか。(マテリアルを導く方は可か)

○生徒がこれだけ授業に参加しているか。

○よい知識力、理解力、発問力があるか。

○見ている楽しい授業であるか。

(4) 教科研究部のまとめ

①研究の成果

私たちは、この研究で行うべき同和・人権教育における授業と通常の授業とどこが違うのかと、その差異をみつけるのに苦慮した。しかし、人権教育の視点から研究・実践を積み重ねる中で通常の授業で見逃しがちな教師と生徒との関わりや、あらゆる場面での人権尊重の指導内容の重視など、教師自身の人権問題に対する変容がみられた。

各教科において、努力目標・具体的方策を同和教育の視点に立って見直すことにより、年間指導計画立案に際して単元目標の明確化と具体化が行われた。また、毎日の授業過程においても「なにを」「どのようにとらえ」教材化していくかを目的意識的に行っていこうとする「教師の意識変革」により、生徒の意欲に変容が見られつつある。しかし、日常の授業においては学習課題の達成にとらわれてしまいがちであり、ゆとりある年間計画と意識的な実践の積み重ねが必要である。

<授業研究を通して>

研究仮説①の「お互いに磨き合いながら学習する」ためには、授業の目標をしっかりとふまえた教材の選択が不可欠である。体験学習的な教科においては、教材が生徒の興味・関心を引き出せず、創造性に欠け、完成の喜びがわからないようなものや、生徒の力量を的確にとらえず安易に完成するものであってはならない。それでは個人が悩む必要もなく、小集団の中での話し合い活動や協力も生まれえない。また人間的な接触も希薄となり、他の生徒の置かれている状況や気持ちを理解し、相手を思いやることもできないことになる。また、知的学習の分野においても、みんなで協力し、磨き合い、自己の考えを出せるような教材や発問が大切であり、それによって友達が変わり、自己も変容するものである。

このように授業を行うには「どんな授業を創るのか」、もっと言えば「どんな子に育てたいのか」といった教師の考えが明確でなければならない。また、指導内容については、よい教材づくりによっていかに学習に取り組ませるか、生徒が主体的に活動したくなるようにするかなどといった工夫が大切である。

研究仮説②の「わかりやすい授業を実践してゆけば、教科の目標が達成される」においては、知的な学習の場合、興味と関心を引き出せるような導入

はもちろんのこと、授業の展開においても生徒が予想・仮説を持ちながら活動し、「ものごとを見る」という過程をふまないとものごとが見えてこないものである。生徒が答えられることよりも、意味がわかり、疑問・問題を持つことのほうが大切である。よって授業はわからないことから始まり、やっぱりわからない・・・そして次の課題が見えて来るような授業を目指すべきである。

子どもの特性は本来、学習意欲を持っているものであり、つねに集団を求めるものである。何か知ったら集団に伝えたい、集団から学びたいという欲求を持っている。この素晴らしい子どもの特性は、教師主導の知識注入のみに終始した授業においては、教師と生徒、生徒相互の関係において知識を持っている者が上、持っていない者は下とされ、そこからは子どもたちが共に学ぼうとする姿勢は生まれえないものである。

授業の準備や進める上での約束ごとなどの習慣化のための指導も日常の授業で定着させておくことが大切である。持ち物や発表する態度、聞く態度などは、学習課題を明確にし、授業を効果的に展開していく上で重要なことである。

美術科の共同製作の授業では、班ごとにみんなで話し合い、画題を決定し、分担を行うところから授業に入ったが、このことは生徒が主体的に授業に取り組んでいくための一つの方法ともいえよう。また、その分担をして製作していく活動は、共通の目標に向かって援助し合う場ともなっていた。

授業の形態に小集団学習を取り入れる場合、自然発生的な活動を教師が援助する方法と、班の中での役割分担という機能を生かし協力体制をつくらせる方法とがある。技術家庭科(女子)の授業においては、後者を取り入れ、意図的に学び合い教え合う小集団へと追い込む方法であった。

課題の進捗状況は、生徒の発表においてとらえる方法と机間巡視によってとらえる方法などがあるが、いずれにしてもそれらを整理し、形成的評価としてフィードバックすることが大切である。

中間評価、終末評価を行う方法として、生徒自身が記入するチェック表を用いた教科があった。学習内容や課題を各段階でどの程度理解し、達成したかということを自己評価あるいは相互評価した。これは自己の到達したところが明確になり、あらたな目標の設定にも役だっている。今後、各教科でチェック表の内容とともに、どの場面で用いるかの研究が必要である。

授業がわからないままで過ごしている子どもたち、いつもつまらないと思っている子どもたちをなくしていくことは、彼らの持っている欲求、能力を拾い上げ、引き出すことが前提となる。それが互いに認め合う基礎ともなる。そのためには、どの教科においても知的学習のみを行うことなく、形態の工夫・機器の活用などを今後、研究・実践する必要がある。

研究仮説③の「同和問題や基本的人権を扱った教材を年間指導計画に位置づければ差別や偏見について、正しい認識が持て人権尊重の精神が育つであろう」について、社会科、国語科を中心にして実践した。

社会科では「なぜ、差別が生まれたか」について、生徒は歴史的な知識や外国の例としては理解しているものの、身近な問題としての意識は薄い。そこで、わかりやすい差別の実態を提示することにより、自分達の問題としてとらえさせることが必要となる。差別を差別として感じていない生徒に対しては、教師が日常生活から題材を掘り起こすことが大切である。公民の授業の反省から、基礎的な理解を促すため、全校生徒に対して映画「同和問題の解決のために」を見せた。

国語科では同和教育につながる人権尊重をめざした読み物教材を取り上げた。このような教材の場合、どの生徒にも場面設定を行い、深い読みに入っていくような配慮が必要である。ここでは教師はじっくりと生徒に問いかけ、考えを深め合う間の取り方をし、小さな声で話す子どものつぶやきを拾ってあげるような器量を持つことが大切である。「教育は心で教える」ためにも教師の人間性の涵養が求められている。

日頃から教師は、子どもたちの実態を把握し、年間指導計画や毎時の指導案の中で充分時間がとれるような配慮が大切といえる。

②今後の課題

全教科で昨年度の反省に基づいて、人権教育・同和教育の視点に立った教材分析・指導内容・指導法の研究をすすめ、授業に取り組んできた。その結果、教師は、すべての生徒にわかる授業を創造し、一人ひとりの生徒が自分の学習に展望を持つようになりつつあるが、生徒一人ひとりの学習権の保障という立場で更に研究を推進する必要がある。

また、生徒が相互に認め合い、励まし合い、共に授業を創造していくためには、日常生活や授業の中のどのような場面をとらえて集団を高めていくかという具体的な研究が必要である。

各教科の人権を取り扱う内容においては、子どもたちが人権尊重の意識を高め、差別を見抜き、実践できるような指導内容・指導法の研究を押し進めなければならない。

どの教科においても明るく楽しい授業が基本である。教師の押し付けではなく、一人ひとりの思いが声になる授業をめざさなければならない。そのためにはいずれの教科も体験的な要素を取り入れると興味深くわかりやすい授業となる。

教師主導で、指導内容伝達型の授業においては、子どもたちの真の変容はみられない。うわべだけの知識の伝達でしかない。これでは科学的・合理的なものの見方・考え方など育つはずはないし、問題を問題としてとらえる眼や問題を解決しようとする実践力も生まれない。

今後もしっかりとした年間計画と教材研究が大切である。指導内容(法則や概念)は見えにくい。いかに教材(事実・事象)として見えやすいものを通して行うかの工夫である。それとともに先に述べたように教師自身が豊かな感受性を持ち、感動する心を持てるようにすることが必要である。教師自身が成長するためには社会のあらゆる場面から謙虚に学ぶ姿勢と努力が大切である。子どもたちがものごとを判断し、人生を切り拓いていくための基礎としての学力をいかに保障するかも大きな課題である。朝自習の時間を15分間設定し、生徒が課題をつくって取り組んでいるが、そのやり方、教科との連携が今後の課題である。また、夏休み学習相談日をいかに活用し、効果を上げていくかもさらに研究する必要がある。



3. 道徳研究部

(1) 研究のねらい

人間尊重の精神の育成を目指し、日常生活の諸問題の中で、生徒の道徳的な判断力・心情及び態度を養い、自ら進んで自己の生活に生かし、たえず自己を探究しながら民主的な社会を形成していくための道徳的な実践力を養い、進んで平和的な国際社会に貢献できる生徒を育成する。

〈重点目標〉

- ・日常生活の基本的な生活様式を養う。
- ・偏見や差別に気づき許さない意欲と態度を養う。
- ・自然をいつくしむ心を養う。

(2) 研究の仮説

道徳の16項目を精選するとともに、年間指導計画の再編成及び、人権尊重からの観点をつくることにより、

「認め合い、励まし合い、共に生きる生徒」が育成できる

”互いの人権を尊重し、共にのびていく生徒”

”互いの立場を認め合い、他人の心の痛みがわかる生徒”

”話し合い、問題を解決する実践力のある生徒”

中学校学習指導要領 道徳 の内容項目16の中から、以下の5項目を本年度の指導の重点項目とした。

道徳指導重点項目

項目1. 生命を尊び、心身の健康の増進を図り、節度と調和のある生活をする。

項目5. 自分と異なる考えや立場も尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、他に学ぶ広い心を持つ。

項目7. 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り開いていく。

項目9. 自然を愛し、美しいものに感動し、崇高なものに素直にこたえる豊かな心を持つ。

項目13. 自己の属する様々な集団の意義を理解し、協力し合って集団生活の向上を図る。

(3)研究の内容

①年間研究活動計画案

昭 和 6 3 年 度		
月	活動内容（授業研究に関して）	（資料見直しに関して）
4		・道徳教育年間指導計画の提示
5	・年間研究活動計画の立案・提示	
6	・授業研究の観点のあらい出し	
7	・授業研究の観点の検討	・見直し（差替え）資料の回収
8		
9	・授業研究へ向けての取り組み	・見直し（差替え）資料の検討
10	・道徳授業研究	
11	・授業研究反省のまとめ	
12	・1月授業研究に向けての取り組み	・見直し（差替え）資料の回収
1	・道徳授業研究	・見直し（差替え）資料の検討
2	・年間の反省	・見直し（差替え）資料のまとめ
3	・次年度へ向けての方向付け（年間活動計画案の提示）	
平 成 元 年 度		
月	活動内容（授業研究に関して）	（その他）
4	・道徳教育年間指導計画の提示（差替え資料も同時に提案）	
5	・年間研究活動計画の確認	・差替え資料の授業実践への研究 (通年)
6	・授業研究への準備	
7	・授業研究および反省	・道徳的意識の調査
8	・授業実践における評価・反省	・道徳資料のまとめ
9	・授業公開への取り組み・準備	
10		
11	・共同研究発表会 授業公開(各学年1学級)	
12	・道徳授業における研究発表の評価・反省	
1	・次年度以降へ向けての方向付 (道徳教育年間指導計画の検討 ・ 道徳授業資料の再検討)	
2		
3		

②道徳教育全体計画

中 沢 中 学 校 道 徳 教 育 全 体 計 画

道徳教育は、単に定められた道徳の時間だけでは、その十分な効果を生むことはできないもので、学校のあらゆる教育活動が道徳教育の意味あいをもっているものである。教師相互の共通理解のもとにたつて、その教育活動全体の中で、望ましい人間性の伸長を図り、人間性豊かな生徒を育てていくよう、努めなければならない。

そうした中であつて、人間の生き方について、自覚を深めるとともに、道徳的実践力を育てていくことが求められている。

本校生徒の実態をふまえ、道徳の時間をはじめとして、各教科での指導、また、学校行事、学級指導、学級会活動、生徒会活動、クラブ活動等特別活動を通しての指導、部活動における指導、更には家庭・地域社会との連携の中で、それぞれの特質に応じた教育活動がなされなければならない。

ことに、道徳の時間においては、「各教科、特別活動等における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充し、進化し、統合」しようとするものである。

道 徳 教 育 目 標

人間尊重の精神の育成を目指し、日常生活の諸問題の中で、生徒の道徳的な判断力・心情及び態度を養い、自ら進んで自己の生活に生かし、たえず自己を探究しながら民主的な社会を形成していくための道徳的な実践力を養い、進んで平和的な国際社会に貢献できる生徒を育成する。

重 点 目 標

- ・日常生活の基本的な生活様式を養う。
- ・偏見や差別に気づき許さない意欲と態度を養う。
- ・自然をいつくしむ心を養う。

教 科

- ・各教科の目標を達成することによって、道徳性豊かな生徒を育てる。
- ・能力適性に応じた指導法を工夫し、意欲的に自ら学習する態度を育てる。
- ・生徒の学習活動を生かし、授業に主体的に臨める学習態度を養う。さらに、望ましい学級の雰囲気や人間関係を育てる。

道徳の時間

- ・道徳の時間以外における道徳教育を補充、進化、統合して、生徒の道徳性を図る。
- ・道徳的判断力、心情、態度及び実践意欲の向上を図る指導によって、人間の生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。
- ・資料を通して、学級の仲間とともに、他者の生き方を理解し、自己の生き方を考える。

特別活動

- ・生徒の自発的、自治的な集団活動を尊重し、人間的な成長と人間的なふれ合いを促す。
- ・生徒の自己実現をめざす場を多く設定し、望ましい校風を育て、豊かな充実した学校生活を体験させる。
- ・集団生活の規律、協力、責任などを実践的に学ばせ、集団の一員としての立場を理解して行動できる態度を養う。

領域外

- ・日々の清掃活動を通して、協力、責任などを実践的に学ばせるとともに、感謝の心をもって、進んで学校環境の美化に努める態度を養う。
- ・家庭との連携を図り、定期的に交通指導を行い、自転車通学者をはじめ、登下校、帰宅後の交通安全指導の徹底を図る。
- ・登校時の指導を定期的に行い、規律ある生活習慣を自ら身につけさせる。

家庭・地域社会

- ・PTA広報・学年通信など、あらゆる機会を通して、道徳的実践への協力と理解を深め、生徒の望ましい道徳性の向上を図る。
- ・毎年、定期的に地区懇談会を行い、校内外の生活について、親と教師との理解を深め合う。
- ・基本的生活習慣が身につくよう家庭との連携を図る。
- ・校内美化作業を生徒、父母、教師がともに協力しあい、学校環境整備を実施し、働き、助け合う喜びを学び、美しいものへの感動する心を養う。

今回の校内共同研究においては、人権教育を通して、学校同和教育を考えるに当たって、「道徳の時間」の研究を主に、年間道徳指導計画の再検討を行い、道徳授業の見直し、また、道徳授業の資料の見直しを行っていった。

道名教育青年同指指十面 (1 年)

月	時数	主題名	資料番号	題材名	項目	人間尊重からの視点
4	1	望ましい生活習慣	☆	生きたことば	2	・礼儀は、形式的なものでなくお互いの存在を認め合い理解し合える糸口となる。 ・共に生きていく共通の喜びの出発点ということを理解させる
5	3	思いやり	25	千円札	5	・相手を理解し、相手の気持ちや立場を思いやることの大切さを自覚させる。
		軽率なふるまい	1	目黒	1	・他人の誤りに対して寛容な心を持つような態度を養う。
		勤労の喜び	31	エアロンおばさんの歌	6	・外見だけに捕らわれずに内面を見る態度が必要である。 ・他人のやさしい心遣いが、わかる人間になってもらいたい。
6	3	誠実と責任	☆	形見の万年筆	4	・自ら選んだことは「誠実」に実行し、かつその行動に対してどこまでも責任を持つ。 ・自主自律の精神を育てる。
		自律の精神	19	敗者	4	・社会生活の秩序を守る心育てる。
		社会の秩序	85	母と子	15	・自分さえ良ければ他人を傷つけても良いという考えをなくす ・地域社会に自ら進んで役立つとする気持ちが大切である。
7	1	奉仕の心	79	ゴミ収集車	14	・集団の成員として、友のハンデを知ったのなら援助する。 ・人間、競争する場合条件が違っても競争しても意味もない。 ・集団の中に置ける自己の役割とは何か。 ・「そうじ」は、自己及び自己の所属する集団の生活向上のためにやるのだ。 ・自分達の代表を選んだ側の責任。 ・自分と異なる意見や行動にも、寛容の心を持って直し、相手に対して援助や助けをしようとする態度を養う。
9	3	励まし合う友情	55	越中君のけが	10	・自分よりハンデのある者がいたら、それを理解し、すすんで行動にうつし、総括する。
		集団の秩序	74	エゴイスト	13	・社会生活において決まりを守ることの大切さを理解させる。 ・合理的に批判しあい、平和的に話し合う建設的な態度がまきりの根本にあることを理解させる。
		許す心	☆	雷合戦	5	・自己の立場や役割を理解し、協力して家庭生活の充実を図る。 ・積極的に行動し、暗い状況を打破する。
10	3	自主	20	歯医者	4	・不正や悪を見のがすことなく、勇気を持って糾弾することが大切である。その行動が真の人間関係を作り上げる。
		集団生活の向上	☆	一台のエレベーターから	13	・父に注意された主人公の気持ちを思うと、自分のとった態度の味さによって、周りの人に迷惑をかけたことが良く反省されている。
		家族愛	68	母の病氣	12	・自然と人間との共存、人間は自己の利益を追求する余り、自然を犠牲にしていけないか。 ・人間は大自然から自然に感謝し、人間が生きるに必要な最低限を「神」にむき預けているのだ。
11	3	自然への愛情	49	エビネとクマガイソウ	9	・不正や悪を見のがすことなく、勇気を持って糾弾することが大切である。その行動が真の人間関係を作り上げる。
		正義感	80	辞書引き大会でのできごと	14	・父に注意された主人公の気持ちを思うと、自分のとった態度の味さによって、周りの人に迷惑をかけたことが良く反省されている。
		正しい判断	37	七夕の日の約束	7	・親子の立場を考えて冷静に行動し、結果について率直に責任のある行動をしようとする態度を養う。 ・哲三の「おれはやだな、おれ生徒会の委員をやっているからなあ」のところは法の精神を理解させたい。
12	2	自主自律・家族愛	☆	歩き続けて	5・4	・源造は外形だけでなく中身の無い太閤おどりに参加することは、どうしてもできなかった。この内容は新しい文化の創造に役立つとする面が出てくる。
		まきりを守る生活	86	自転車	15	・人間の弱さや脆さを見つめ、その克服に努めつつ、人間愛の精神を深めていこうとする態度を養う。 ・この主人公の勇気ある態度つまり勇気は大切でず
		伝統文化の継承	91	太閤おどり	16	・字級集団の向上のため、勇気と連帯で立ち向かい、その原因をさぐり改善のためにも行動を起こす大切さを理解させる。 ・かればけさもぼんやりと床の上に起き上がって、きのうもらった新しい役のことを考えていた〜わたるの(互)体を引き寄せた・・・のところは、特に勤労の尊さや、幸福を目指す充実した生き方をよく表現している。
1	3	人間愛の精神	☆	二度と通らない旅人	8・9	・感情的なもつれによって相手の立場を理解できないで悪い方向へと人間関係が進んでしまう。相手の個性や立場を重んじることの大切さをよく示している
		勇気	13	めざし	3	・高太郎は、自分が商売で進むべき道が植物以外にないことは、自己の人生を切り開いて行く姿がよく表現されている。 ・ぼくは、その旗の事が勢に気がかりになりだしたので、・・・もとのところへ返さなければ・・・自分の軽率な考えを省み直す返さうとするところがよい。
		信頼・友情	☆	「こわくなんかない」	10	・高太郎は、自分が商売で進むべき道が植物以外にないことは、自己の人生を切り開いて行く姿がよく表現されている。 ・ぼくは、その旗の事が勢に気がかりになりだしたので、・・・もとのところへ返さなければ・・・自分の軽率な考えを省み直す返さうとするところがよい。
2	3	仕事への精熟	32	虎	6	・高太郎は、自分が商売で進むべき道が植物以外にないことは、自己の人生を切り開いて行く姿がよく表現されている。 ・ぼくは、その旗の事が勢に気がかりになりだしたので、・・・もとのところへ返さなければ・・・自分の軽率な考えを省み直す返さうとするところがよい。
		理解と信頼	26	裏切り	5	・高太郎は、自分が商売で進むべき道が植物以外にないことは、自己の人生を切り開いて行く姿がよく表現されている。 ・ぼくは、その旗の事が勢に気がかりになりだしたので、・・・もとのところへ返さなければ・・・自分の軽率な考えを省み直す返さうとするところがよい。
		たゆみない努力	38	植物とともに	7	・高太郎は、自分が商売で進むべき道が植物以外にないことは、自己の人生を切り開いて行く姿がよく表現されている。 ・ぼくは、その旗の事が勢に気がかりになりだしたので、・・・もとのところへ返さなければ・・・自分の軽率な考えを省み直す返さうとするところがよい。
3	2	日本文化の継承	92	一本の旗	16	・高太郎は、自分が商売で進むべき道が植物以外にないことは、自己の人生を切り開いて行く姿がよく表現されている。 ・ぼくは、その旗の事が勢に気がかりになりだしたので、・・・もとのところへ返さなければ・・・自分の軽率な考えを省み直す返さうとするところがよい。

道名敬孝教育年間指導要綱十面（2年）

月	時数	主題名	資料番号	題材名	項目	人間尊重からの視点
5	3	生きがいを求める生活態度	☆	道ばたの石のように	6	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を愛し美しいものにあこがれ人間を愛する精神を深める。 ・お互い助け合い、友情を育てていこうとする。 ・本当の思いやりとは何か。 ・弱いからと違って差別してしまうことは良いのか。 ・リレー選手選考をジャンケンでした結果好記録を持つ平田さんが補欠に回った。そこで闘いたい気持ちから、補欠を交替させたいと思う気持ち。 ・新記録のタイムに満足のいゆゆ私の発目を後に振り返り、恥ずかしさを感じる。（記録のよい人を集めたっかた私の気持ち。）
		相手の理解	28	清作と字	5	
		集団と個人	76	タイム1分1秒9	13	
6	3	自主自律	22	菊づくり	4	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗したからと言って、妥協な方法で取り繕うことはいけな い。 ・心の中のうつろさは、どこからくるのか。 ・不正を許さない考え方を学ばせる。 ・忘れ物をよくする野尻を邪魔者扱いする主人公の心 ・野尻のために余分に消しゴムと鉛筆を用意する主人公の優しさ。 ・他の忠告を素直に受け入れ、冷静な判断を下すことの大切さを身をもって知った。 ・意地を張って無理をしたことによる生命の危機に及ぶ失敗。
		友情	58	斑鳩成	10	
		かけがえのない命	4	流されたテント	1	
7	1	くじけない心	14	自由研究	3	<ul style="list-style-type: none"> ・つらく苦しいことでも、最後までやりとおす強い心を持つ。
9	2	望ましい生活習慣	☆	床当り	2	<ul style="list-style-type: none"> ・礼儀の持つ必要性を理解させ、それが社会的に持つ意義を考えさせる。 ・社会見学に出かけるグループ編成の無グループに入れないAさんの心境 ・他のグループに入れてもらうことになったが、その時の私のはっきり言えずにいた心境 ・互いの理解であった事の解決した喜び
		積極性	15	グループ日記	3	
10	2	家族の思いやり	69	おばあちゃんの里帰り	12	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃とはほど感じないが、家族というもの大切さを知る。 ・心の底まで割って居せる明るく楽しい態度を築く。 ・戦争の悲惨さを感じさせる。 ・敵対するものの命、人間の命の平等 ・信を尊重し、集団の中での豊かな人間関係を築く。 ・科学的・合理的精神に立脚し、客観的に判断できる。
		人間愛	94	インデギルカ等の道難	16	
		法治社会の規律	☆	ドロップハンドル	15	
11	3	理解と友情	57	冷戦	10	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに理解のないまま暮らす日々であるが、そういう状況の中で相手の立場に立って真の友情を深めていく。 ・公共の物を扱うときの配慮。 ・きまりをやぶることによる他人への迷惑。 ・検知器をきれいにするを続けるを得ない私。 ・親切心をもって行ったことに対して何の償いもせぬかに見えた。相手に対する気持ち。 ・相手を罰罰は、非難するが、その時味わった主人公の心理。
		公共の利益	82	検知器	14	
		善意	27	バナナの味	5	
12	2	身辺の処理	10	短い鉛筆	2	<ul style="list-style-type: none"> ・不用になってしまいうような物でも、いざとなると大切なものである。 ・物を大切に使うと人の心を尊重しよう。 ・物を大切に扱うことの大切さ。 ・自分が困っているとき、困っている人に対してつらく当たる人間の弱さ。 ・自分の人間としての弱さを恥じる心。
		人間の弱さ	46	二度と通らない旅人	8	
1	3	勤労の尊さ	☆	やおやのユニフォーム	6	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい職業観の基礎を培うようにする。 ・たしなめる大人を規範的だとやりこめてしまう忠の人間としての身勝手。 ・自分の信念にしたがって生きること。 ・回りに感化されない強さ。
		きまりの意識	87	ワカサギ	15	
		理想をかかげて	40	陶工志願者	7	
2	3	自然を愛する心	51	山が泣いている	9	<ul style="list-style-type: none"> ・長年丹精込めて育てた杉が、雷によって折れていく音を聞いて山が泣いていると目ったおじいさんの心境を察するわたし。 ・互いに相手の立場や特性を理解して助け合う。 ・健全な異性愛を身につける。 ・戦場とはいえ、人種・民族は異なれども人間は同じ心を持ち、相通づるものがある。 ・人間は本質的には皆平和を願っているものである。
		男女の協力と理解	☆	バレンタインデー	11	
		人間の幸福の追求	93	ビルマのたて琴	16	
3	1	集団の成員としての自覚	75	オリエンテーリングの失敗	13	<ul style="list-style-type: none"> ・自分勝手にめいめいが発言して集団のことを考えない人間の身勝手さ。

道徳教育年間指導計画（3年）

月	時数	主題名	資料番号	題材名	項目	人間尊重からの観点
5	2	集団の一員	77	お茶入れ	13	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の一員として、約束を守らなかったための後悔の悪さ。 ・自ら選んだ行為の結果については、現実とその責任を引き受けようとする。また、その行為に対する、周囲の暖かい思いやりについて考えさせる。
		責任感	23	名譽の失格	4	
6	3	働く喜び	34	田植え	6	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことの厳しさや喜び。 ・親の働く姿からまなぶ、喜びの気持ち。 ・自然に対する畏敬の念を持たせたい。自然愛護。 ・自己の権利を正しく主張すると共に、義務は責任をもって遂行する態度を養う。
		自然への感動	54	山崎の碑	9	
		法治社会の規律	☆	無免許	15	
7	1	他に学ぶ心	☆	青い目・茶色い目	5	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちや立場を推しはかり、その意見や行動が自分と異なる場合にも寛容であらうと努める。
9	2	集団と自己の自覚	78	山につかされた男	13	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の底辺で、國を生かすことがいかに大切であるか、個々の力なくしては集団は存続し得ないことを理解させたい。 ・友達の間情や励ましに応じて、互いに協力し合って変わらぬ友情を育てる。
		友情の確立	60	五千二百円	10	
10	3	職業の理解	35	保健区の父	6	<ul style="list-style-type: none"> ・人のために仕事に打ち込む親の姿に、職業に対する考え方の甘さを痛感する。 ・小銭を用意しない客に対するバスの運転手の非難の自業。 ・乱暴な言葉ではあるが勇気を持ってたしなめた若者の態度、健全な異性愛に基づき、自然な肉りの無い付き合いをする。
		適切なことば使い	12	五百円札のお客	2	
		清純な交際	65	上を向いて歩こう	11	
11	3	反省	29	マネージャー	5	<ul style="list-style-type: none"> ・マネージャーとしての縁の下力持ち的行動。 ・打撃的行動を反省する心。 ・生きるための努力とかけがえのない命をいとおしむ心情を育てる。 ・常に希望を持ち、積極的に真理と真実を求めると共に、妥協な妥協を排して、より高い目標を求めその実現に努める。 ・子供料金で電車に乗り、後めたい気持ちでおどおどした行動をする。 ・仲間から嫌なあだ名で呼ばれてしまう。 ・広く世界の人々との距離を越えた遠距離を添ひ、人類の幸せに貢献しようとする態度を養う。
		生命の尊重	5	天井が明るい	1	
		理想の追求	☆	私の青春	7	
12	2	自主的な生活態度	24	汚れた乗車券	4	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間から嫌なあだ名で呼ばれてしまう。 ・広く世界の人々との距離を越えた遠距離を添ひ、人類の幸せに貢献しようとする態度を養う。
		人徳の福祉	95	群衆園	16	
1	2	男女の交際	66	高校受験	11	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく園芸の女いとも子の姿から素直になって行く松田。 ・相手の行為に不当な気持ちを言えずに悩む主人公。 ・最後に嘘がばれて相手の気持ちを傷つけてしまう。
		思いやり	44	よきの煮物	8	
2	2	社会全体の立場	8	因遊	14	<ul style="list-style-type: none"> ・社会全体のためではあっても自分が犠牲になることは納得できない心情。 ・娘の態度にいらだち、仕事をさせたことにより卒業式を欠席させた母親の後悔。
		親子の愛情	72	卒業式	12	

④授業研究の観点

道徳授業を取り扱うにあたり、指導案を作成し、その指導案に対して同和的観点を定めて行く。その中で同和的な目標が達成できたかどうか考えて行く。

ア. 指導案の作成

- ・ 研究部会で、各学年毎に作成される指導案の形式を統一し、指導案の内容を検討し、それを企画会へ提示する。
- ・ 再度、その指導案を学年へ提示し、各学年会で検討を加え、指導案の作成に当たる。
- ・ 指導案の中に、同和教育的観点を盛り込み、人権教育の一貫としての位置付けを考慮する。

イ. 授業研究会の持ち方

- ・ 各学年1学級授業提供をし、学年所属の職員の参観にて行う。なお、学年毎に授業をチェック表(別紙)に基づき観点別にチェックしながら参観していく。学年で「教師のおさえ」・「生徒のあらわれ」を半数ずつの教師がチェックし、学年の道徳研究部で授業実践記録をつけておく。
 - ・ 授業後、次の項目について、研究会を学年毎に持ち、さらに全体会で研究を深めて、以後の指導の参考としていく。
 - ・ 授業について
 - ・ 指導案について
 - ・ 主題と資料について
 - ・ 道徳研究授業チェック表について
 - ・ 実践記録について
 - ・ 同和教育の観点から
 - ・ 他の学級での自習態勢について
 - ・ その他
-
- ・ 授業研究提供学級以外の学級の道徳授業は、各学年で、扱う資料を決めて自習態勢をとり、「道徳学習シート」を利用して、資料に基づき各自が葛藤を図れるよう準備する。

⑤道徳授業資料の見直し

同和教育を進めるに当たって、人権を尊重することに主眼をおいたこの研究の中で、道徳教育が、どんな関わりをもって、その指導に当たっていくことが求められているかを考えた。まず、人権教育との関わりで、道徳指導重点項目1～16の中で、どの項目を特に取り上げていけばその目的を達成できるか、本校の生徒の実態と合わせて、整理統合することにした。

本校では、従来、神奈川県道徳研究会ファイル式資料の甲案を用いていたが、資料の季節感、時代性、そして、本校の生徒の実態を考えるに、必ずしも十分なものばかりとは言い難い点も、あるのではないかと指摘されるものもあった。

そこで、資料を見直し、上記の条件にそったものを、他資料から補い、本校独自の年間指導計画を立案することにより、本校の『めざす生徒像』に生徒を一步でも近づける一因となることを願い、検討を進めた。

授業を通して、適切な資料の年間を通しての配置、これは、季節的なもの、また、指導の時期的なことを主に配慮した。次に、資料の見直しについてであるが、中には、時代的に現代の生徒の年ごろでは、内容の理解に困難をきたすものもあり、その資料から、道徳的価値観を考える以前の問題も生まれて来る場合もある。資料の内容理解ではなく、個々が心の葛藤がはかれ、また、他の考えをも知り、自らの考えを整理するに適切なものをと考え、その選択を行った。

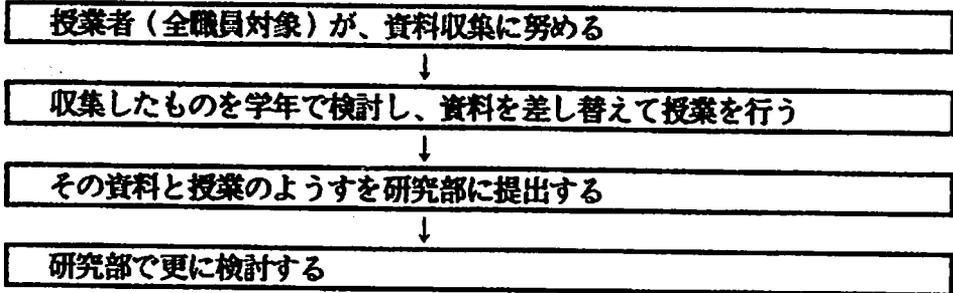
また、昭和62年度のいじめを中心とした調査の結果からも本校の道徳指導で求められる内容を検討した。家庭的処遇に関する嫌がらせ、授業中の発言妨害、特別活動時の嫌がらせ、仕事の押し付け、などについては、生徒間において、いじめの実態が認められていないことが多いが、失敗した者を馬鹿にするとか、体つきのことで嫌がらせを言うとか、なにげなく発した言葉が、人を傷つけるなど、人権についての基本に関わる問題についてどう指導していかなければいけないかを認識しあい、このような実態をも考え合わせ、資料の検討を行い、研究を進めた。

その中で、個々の人権を尊重する人格を形成し、授業時、特別活動時、そして、清掃、部活動など、日常の活動に活かされていくものと考えた。

<参考>差替え資料として考えられる資料

- ・生徒作文 ・人権作文集 ・他の読物資料
- ・視聴覚教材 ・自主制作資料 ・その他

資料の見直し・差替えの手順



《資料の見直し、差替えの一例》

第2学年 2月実施 「男女の協力と理解」

「幸一のためらい」 —— 「バレンタインデー」

「男女の協力と理解」という主題で授業を進める場合、2年生ともなると、生徒も指導者も、なかなか主題に迫りにくく、扱いにくいことも起きがちである。

そうした中で、「バレンタインデー」というのは、2月のこの時期になると、とかく話題にもなることが多く、スムーズに授業に入っていく中で、主題にも迫りやすい。

資料「幸一のためらい」は、委員長格のエミが出てきたり、クラス全体がミドリをしめ出したりして、全体として暗い感じがする。がそれに対して、「バレンタインデー」の方は、平凡なより身近な女子中学生の話と感じ取れるし、終わり方も前資料に比べ、すっきりと明るいものとなっている。また、「バレンタインデー」で、チョコレートを贈る女子生徒に対して、少し慎重に考えさせる内容となっているのも良いと考えられる。

資料「幸一のためらい」を読んでみると、幸一君の勇気のあるなしが話題になってしまいが、「バレンタインデー」の資料では、男女のお互いの理解がいかに難しいかを讀むものに訴えているようである。

第3学年 7月実施 「他に学ぶ広い心」

「たびの季節」 —— 「青い目・茶色い目」(視聴覚教材)

筆者が貧しいおばあさんから40銭をかすめ取って、後でわびようとするうが、それがはたせない。その時のおばあさんの優しい励ましの「言葉かけ」を思い出し、後悔の念にかられながら、今度は筆者がおばあさんの役割を果たせるように世の中を生きていこうと決意する、という内容であるが、資料的にも古く、40銭というような金銭単位は時代錯誤の感がある。

そこで、現代の世の中にある差別に目をむけ、それを許さない態度を養う教材として、最適のビデオ教材“青い目、茶色い目”を取り上げてみた。アメリカにおける人権差別は、今なお根深く残っている。しかし彼らはそれを解決しようと懸命に努力している。そうした彼らの姿を見つめながら、我々日本人の意識の中にも多くの差別が同様に存在することを認識する必要がある。そして人間はその悲しみに気づく。我々は生き方や考え方の違いを認め合いながら、差別や偏見の誤りをとりのぞかなければならない。心情による理解を通して、日常の行動として、具現化できるようにさせたい。

差替え資料

[1 年]

	昭和63年度	平成元年度	
主 題	題材名・指導項目	題材名・指導項目	差 替 え 理 由
	資 料 内 容	資 料 内 容	
望 ま し い 生 活 習 慣	もらったおはぎ 2 ・ 食事の支度をしな ない母のエゴと、最 後に勇一はおばさ んに何か悪いこと をしたような気持 ちは子供の純真な 心を表している	生きたことば 2 ・ 礼儀は、形式的な ものでなくお互い の存在を認め合い 理解し合える糸口 となる。 ・ 共に生きていく 共 通の喜びの出発点 ということを理解 させる。	もらったおはぎを家族に見 せてから食べなくてはいけな いという母の考えは、家庭の しつけの良いところを見せた いということから出発して いる。生活習慣とは、行儀で はなく、お互いがそれぞれの 立場を理解したうえで応用さ れなければならない。
	誠 実 と 責 任		形見の万年筆 4 ・ 自ら選んだことは 「誠実」に実行し かつその行動に対 してどこまでも責 任を持つ。
許 す 心		雪合戦 5 ・ 自分と異なる意見 や行動にも、寛容 の心を持って接し 相手に対して援助 やはげましをおく ろうとする態度を 養う。	一つの出来事に対して、そ の場に居あわせた人たちの態 度が適確に描かれ、あやまち を起こした人に対してどのよ うにしたら良いかを考えさせ るにふさわしい教材である。
	集 団 生 活 の 向 上		一台のEバーターから ・ 社会生活において 決まりを守ること の大切さを理解さ せる。 ・ 合理的に批判しあ い、平和的に話し 合う建設的な態度 がきまりの根本に あることを理解さ せる。

	昭和63年度	平成元年度	
主 題	題材名・指導項目	題材名・指導項目	差 替 え 理 由
	資 料 内 容	資 料 内 容	
自 主 自 律 ・ 家 族		歩き続けて 5・4	子どもの万引に対して父親の とった行動は、責任のとり 方というものを体で教えてい る。今の中学生に最も欠けて いるものを題材にした、イン パクトのある教材である。
		・親子の立場を考 えて冷静に行動し、 結果について率直 に責任のある行動 をしようとする態 度を養う。	
信 頼 ・ 友 情	席替え 10	こわくなんかない10	「席替え」は、いたずらに友 達に追従することなく、忠告 し、励まし合い、真の友情を 育てることにあるが、その部 分がボケている。それに対し 「こわくなんかない」は、信頼 ・友情を真正面から取りあげ 集団生活の向上のために、一 人ひとりがどう考え、どう行 動すればよいのかに迫る的確 な教材である。
	・席替えを通して、 友情の尊さを理解 する必要があるこ とを教えたい。	・学級集団の向上の ため勇気と連帯で 立ち向かい、その 原因をさぐり改善 のためにも行動を 起こす大切さを理 解させる。	



差替え資料

[2 年]

	昭和63年度	平成元年度	
主題	題材名・指導項目	題材名・指導項目	差替え理由
	資料内容	資料内容	
生きがいを求める生活態度		道ばたの石のように ・自然を愛し美しいものにあこがれ人間を愛する精神を深める。 ・お互い助け合い、友情を育てていこうとする。	道徳の最初の授業なので、指導者も、生徒も取り組み易い「詩」から入っていった方がよいと思う。展開の中でも、生徒の発言が出やすく計画されているので、これからの先の道徳の授業の進め方を考えてみた点からも適していると考ええる。
望ましい生活習慣	万年筆と雑巾 2 ・ありがとうと感謝の気持ちを口にだせなかった私。それに対する相手の態度に自分を正そうと化しているところ ・雑巾を届けられぬ私の心情を追求させたい。	体当り 2 ・礼儀の持つ必要性を理解させ、それが社会的に持つ意義を考えさせる。	時期的に考えて、ちょうど登下校の仕方が問題になるころである。生徒は登下校の中で、他を見ることなく自分の目の前しか見えていない。通行する人の立場からの見方・考え方を知らせたい。
法治社会の規律		ドロップハンドル ・個を尊重し、集団の中での豊かな人間関係をつくる。 ・科学的・合理的精神に立脚し、客観的に判断できる。	きまりを破ったりする生徒がちょうど出てくるころである。内容的にもどちらに判断ししかかねるので、生徒の意見が出やすいと考えられる。その中できまりの意義について考えさせたい。
勤労の尊さ	ぼくは魚屋 ・魚くさいことによって隆に差別される信夫。 ・差別しようとしている隆を非難する学級委員の原さんの勇気。	やおやのニフォーム ・正しい職業観の基礎を培うようにする。	主題である勤労の尊さを扱う場合、新しい資料の方が実際に授業をしてみて、身近であり、意識化しやすい。

差替え資料

[3 年]

	昭和63年度	成 元 年 度	
主 題	題材名・指導項目	題材名・指導項目	差 替 え 理 由
	資 料 内 容	資 料 内 容	
法治社会の規律		無免許 15	無意識のうちにきまりを破ってしまった軽率な主人公の行動をもとに、法を大切にする意識にせまる資料として適切である。
		・自己の権利を正しく主張すると共に義務は責任をもって遂行する態度を養う。	
他に学ぶ広い心	たびの季節	青い目・茶色い目 5	NHKテレビ放送によるビデオ資料で、差別に気づき、差別を許さない心情を養うのに適切な資料といえる。
	・釣り銭をだましたことを後悔し、自分の果たすべき行動を悟る。(反省と向上)	・相手の気持ちや立場を推しはかり、その意見や行動が自分と異なる場合にも寛容であろうと努める。	
理想の追求		私の青春 7	生徒にとっても身近な感じを与えるバレーボール選手を通して、理想の実現をめざして努力していくひたむきな態度を学ばせる資料として適切である。
		・常に希望を持ち、積極的に真理と真実を求め、安易な妥協を排して、より高い目標を求めその実現に努める	
家族の一員としての自覚	おじいちゃんの病気		内容項目12は、他にも資料があるので割愛して、他の項目に差し替えた。
	・家族の一員としての自覚と、老人への思いやりの心を育てる。		
言葉と礼儀	サインはV 2		結論が最初に出てしまっているため資料としては不適切である。話合いがしにくい資料であり、ひとつの意見に決めつけられがちである。言葉遣いの中に人権的に不適切なものがある。
	・ミスしてしまったを責めるのに「あ」を言ってしまっ江。 ・人の気持ちを考え心無い言葉。		

(4) 道徳研究部のまとめ

三つの重点目標を掲げ、どこまで生徒の心が変わり、人間尊重の精神が培われていくかということを目指し、研究に取り組んできた。

①年間研究活動計画に従って研究を進めてきた。授業研究に関して年間2回の研究会で教師側の授業資料のあり方、主題のとらえ方、同和的観点のとらえ方等を考えることにより、生徒の人権意識を高める手だてとなっていると考える。更に授業研究を通して、次にあげる授業研究の反省をもとにより密度の濃い研究を進めていく必要があると考える。

〈道徳授業研究の反省〉

・指導案について

研究部作成の指導案に基づく授業であったが、授業者自身の作成のものの方が、より学級の実態がふまえられるであろう。

・資料について

より資料の精選・研究が必要ではないだろうか。県道研ファイル資料をはじめとする読物資料に限らず、他に視聴覚教材を用いた資料をも活用する方向で研究を進めた。

・授業研究について

授業参観をするにあたっての観点はチェックカードを用いて参観に当たり、(○△×での評価を行ったが、明確にならない点が指摘され、箇条書きで気付いた内容を書くことにした。)多方面からより効果的な指導法をめざしたが、十分な効果が得られず、かえって、授業者を拘束する面が強いため、本来の目的から外れてしまう危険性が考えられたため、研究途中であるが、チェックカードの使用は、見合わせた。

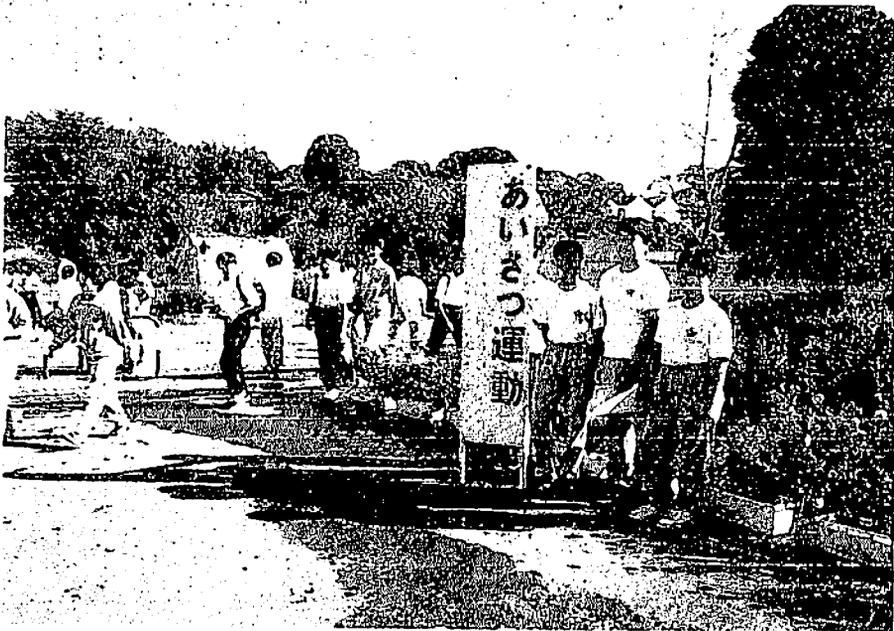
・生徒が自ら考えていこうとする意識が徐々に見られるようになってきた。

②道徳教育年間指導計画を県道研ファイル資料をもとに立案しているが、さらに本校の生徒の実態に合う資料をと各資料の見直しを試みている。しかしまだ十分とは言えず、より資料の精選が必要であることを実感している。『道徳授業は資料が命』と聞くと、さらに切なる思いがする。葛藤を導き出す資料を中心に研究をすすめるとともに、感動を呼び起こす資料の大切さも研究し、生徒の心に迫りたい。

③生徒の同和意識の変容は、なかなか表に出てきていないのが実状であるが、人間尊重の精神は芽生えてきたようにとらえることができる。授業時、特別活動時をはじめ、各学級内の諸活動、その他の活動において、他を重んじ、他の気持ちも考えているようにとらえられる場面もかなり見受けられ、道徳的価値観の上になった言動が随所に表れてきているように思われる。

以上のことから、授業実践を通して、人間尊重の精神の育成を目指し、研究を展開してきたが、未だ研究の目も浅く、生徒の変容を十分にみることができるとは言い難いが、偏見や差別に気づく日常生活の諸問題の中で、意識を持って対応しようとする姿勢も現れてきたように思われる。しかし、道徳的な実践力を身につけ、現実の生活に、その意識が十分に活かされ、実践されているには至らないのが現状と言える。これらを考えると、長い目でみた日々の地道な指導、また目立たないが、心を感動させ、変容させる指導が大切になっていくのではないだろうか。

今後、資料の見直し、授業研究の持ち方等、さらに研究を進め、人権意識の高揚をはかり、道徳的実践力のある生徒育成を考えている。が、特設の道徳の時間ばかりでは、十分にその成果を期待することに難しさがある。そこで、道徳指導全体計画にそって、日常生活の諸活動で、おりにふれ、意識付けをし、そのうえに立った実践力を養っていききたい。その中でめざす生徒像として掲げた姿に迫っていききたい。



「資料名」ゴニ収集車

一年二組 氏名 M・H (男)

主人公の名前は「大石照子」です。

私は、この話を読んで主人公の行動・考え方に「賛成・反対」です
なぜなら、主人公は

「自分のお母さんは一生懸命やっている、
まわりの人にいろいろな事を言われたら、
母がかわいそうだと気がかて、

という点があるからです。

しかし、私は主人公の
と中かう、お母さんに対して無理矢理、そうじ
とをやめさせる。

のような行動・考え方には前とは逆の意見もっています。

そのときの主人公以外の人たちに対しては、

自分達のために、そうじをしよう、こののに、
文句を言うのはやめた方がいい。

と思います。

以上のようなことから、私は
せむきみんなのためにや、たのに、ぎやくに
変な事を言われるなんてかわいそうだと

と感じました。

私にも、これと同じような経験があります。

ということですが。

「資料名」ゴニ収集車

一年二組 氏名 M・D (女)

主人公の名前は「照子」です。

私は、この話を読んで主人公の行動・考え方に「賛成・反対」です
なぜなら、主人公は、母の大変さを分かっている事は良い事
だけれど、主人公の人は世間を気にしすぎていると思
います。母が始めた事だからやめるとかやめないとかは

自分の意志にまかせた方がいいと思ひました。行動に
反対な理由は、世間を気にしすぎている
という点があるからです。

しかし、私は主人公の母の大変さを感じて考えた。当番制
という考えはいいと思います。みんなに自分の町を
きれいにしてみようという事は、すばらしいと思
ひました。主人公の、母と町を大切に思うう

ゆき井行動・考え方には前とは逆の意見もっています。

そのときの主人公以外の人たちに対しては、人が親切にやってくれてる
事を、悪い言うわで言うのは、みぎやうなやり方だと
私は思ひました。自分が二度ぐらいや、打つ、若し
さをおぼえれはいい

と思います。

以上のようなことから、私はうわすする人は悪いけれど、
母を大切に作る気持ちはずばらしい

と感じました。

私にも、これと同じような経験があります。小学校2年生のころ先
生が町のゴミ拾いをしなさいと言ったので、実際にやっ
たのですが、まわりの人がいろいろな感で見ているのを
知って、それはやめてしまった

ということですが。

「資料名二度と通らない旅人」

二年 三組 氏名 T・I (セ)

主人公の名前は「病気の娘の父親」です。

私は、この話を読んで主人公の行動・考え方に「賛成・**反対**」です
なぜなら、主人公は

ひどい嵐の晩道に迷った旅人が一晩とめてそれ
としようものもことわり木をいばいくれとしようものもことわり
自分の娘のことしか考えず、その旅人がくれた
「よくきく言葉」というのも信じなかつた、という点があるからです。

しかし、私は主人公の
あの旅人がもう一度もど、てきてくれたら自分
は「てきふるかぎり親切に」してあげようと田じい自
分の「はくじょう」に後悔した
のような行動・考え方には前とは逆の意見ももっています。

そのときの主人公以外の人たちに対しては、
父親が「ことわつたとき、母親や兄もいっしょになつ
てことわり、旅人に親切になつた。一人ぐらゐ「反対
」のこゝろをする人が「こゝろよい」のこゝろに
と思ひます。

以上のようなことから、私は
身内のことは「かり考へ、他人に不親切に」してゐる。
自分が「なれたとき」のこゝろを考へられぬ
かなあ、
と思ひました。

私にも、これと同じような経験があります。
程殿は「なりけど、本心」謀みました。戦争中「食へ物か
少ない」ために「自分の子には多くあげ、あづか」つてゐる身より
の「な」の子には「少ししかあげなかつた」といふことです。

「資料名流されたテント」

2年 3組 氏名 C・M (女)

主人公の名前は「真次」です。

私は、この話を読んで主人公の行動・考え方に「賛成・**反対**」です
なぜなら、主人公は自分勝手で、人の意見も聞かず、自
分の「音」見が、正しくなくて、とうしてし
ました。

しかし、私は主人公が「キャンプ」の時の「じい」のこゝろで、
自分が「どんなに」勝手だつたかといふことを知
り、反省した
という点があるからです。

そのときの主人公以外の人たちに対しては、もう少し自分達の意
見を強く言つていけば、そんなじいこは「なかつた」で
も、真次は「勝」と「広」より「上級生」なうで「強くは
い」えなかつたのだ。
と思ひます。

以上のようなことから、私は「みんな」で、よく話し合つて、
慎重に「行動」をとらぬいと、生命の「危険」を
生んでしまふこともある。人の「意見」も聞か
ず、正しい「判断」をすることが「大切」であつたと思ひました。

私にも、これと同じような経験があります。
雨が「降り」やうなのに「むりやり」友達を「さそつて」か
さも「持たず」に行つてしまひ、みんなに「迷惑」を
かけてしまつた。
といふことです。

「資料名 無免許」

3年 5組 氏名 Y・K (男)

主人公の名前は「良造」

一です。

私は、この話を読んで主人公の行動・考え方に（賛成・反対）です
なぜなら、主人公は

正義感心や 責任感があって
やさしい

という点があるからです。

しかし、私は主人公の

顔見知りり警官に、自分だけ
罰金を払わなくてよいように
しくほしいと用心、夫

のような行動・考え方には前とは逆の意見もっています。

そのときの主人公以外の人たちに対しては、

顔見知りの警官は、良造からも
罰金をと、たけれど、これで
よかった
と思います。

以上のようなことから、私は

いくら知り合いだからといって、
悪いことをしてたら注意しな
りければならない
と感じました。

私にも、これと同じような経験があります。

ありません

ということです。

「資料名 無免許」

3年 5組 氏名 S・S (女)

主人公の名前は「良造」

一です。

私は、この話を読んで主人公の行動・考え方に（賛成・反対）です
なぜなら、主人公は

バイクに乗っていた中学生を注意したし
免許証のことを自分で反省した

という点があるからです。

しかし、私は主人公の

自分が免許証を忘れたのだからキップ
を切られるのはあたりまえなのにその
顔見知りの警官がいけないだと思おう
のような行動・考え方には前とは逆の意見もっています。

そのときの主人公以外の人たちに対しては、

とてもいい人達ばかりだと思おう。悪い事
をしていた中学生も注意されたときは
素直になつていたし決して反抗などし
なかつた所がとてもよかったです
と思います。

以上のようなことから、私は

もし自分が注意をされた時は素直
に聞き入れもし誰かが悪いことをして
いたらちゃんと注意をしてあげなけれ
ばいけない
と感じました。

私にも、これと同じような経験があります。

ということです。

- 1. 日 時 平成元年7月4日(火曜日) 第6校時
- 2. 学 級 第1学年2組 40名(男子20名, 女子20名)
- 3. 主 題 名 奉仕の心(資料名 ゴミ収集車)

4. 主題設定の理由

- ・内容項目14はより良い社会の実現の為に、自ら進んで地域社会の生活の向上に役立つとする態度を養うことをねらいとしている。集団の中でひとりひとりがより良く生活していくためには、役割分担し、その仕事さえ責任を持ってしていけば良いのかと言うと、決してそれほど単純に割り切れるものではなく、個々の創意による自発的な無償の行為に支えられている部分が多い。
- ・生徒は全体的に明るく素直で与えられた仕事はやるが、さらに良いものをもという創意工夫や自発的な活動は不十分である。特に、利害関係には敏感で、嫌な仕事はできるだけ避けようとし、公平にとか、順番にという考え方で対処し、仕方なく引き受けることが多い。しかし、実生活においては、多くの無償の行為が人々の生活に潤いを与え、より良い社会の実現に結びついている。
- ・この資料では、ゴミの収集という生活の中で身近な事柄を扱い、主人公の立場を自分に置き換えて考え易い。多くの生徒は物事を合理的に考え、それを正しいとする主人公には共感するであろう。しかし、正しいことが常に最善であると言われるのかを考えさせ、主人公の母親の無償の行為が、やがて、より良い社会集団の形成に役立っていったことを理解させたい。

5. 本時のねらい 自ら進んで集団や地域社会に役立つとする態度を育てる。

6. 同和教育の観点より特に留意すること

よりよい集団を作るために、ひとりひとりが奉仕の心を持ち、自分の判断で行動に移すことの大切さと、同時にまた、他人の無償の行為によって、集団の生活が成り立っている部分が大いであることを認識させる。

- 視点1・・・個を尊重し、集団の中での豊かな人間関係をつくる。
- 視点4・・・科学的、合理的精神に立脚し、客観的に判断できる。
- 視点5・・・物事を自分の問題としてとらえ、自ら解決する。

7. 本時の展開

段階	展開の概要	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1. 伊勢原市のゴミ収集についての現状を省みる。		・ゴミ収集車が来ない、伊勢原青年の家の話をし、現在、生活が大変便利になっていることを認識させる。
展開	2. 資料を読み、内容を把握する。		
	3. 主人公の母親の行為をどう思うか、感想を発表する。	○主人公の母親の行為についてどう思いますか。 ・母親の奉仕的な生活態度は、社会にとって大切な潤滑油となっている。そういう姿を尊敬する。 ・母親の行為はかえって近所の人の協力を受け入れにくい方向に働いているのではないだろうか。 ・みんなの問題はみんな協力して公平に処理していくのが当然である。	
	4. 共通の問題意識を設定し、話し合う。	○母親がゴミの収集場所の掃除を続けたのはどんな気持ちからなのか考えよう。	
	(1) 近所の人たちについて	○近所の人たちの反応についてどう思いますか。 ・ずるい。 ・やらないための言い訳をしている。	・正しいと思える行為にも難しさがあることを考えさせる。
	(2) 私の考えについて	○順番にやるべきだという私の考えについて、どう思いますか。 ・順番にやるべきだと言う考えに賛成だ。 ・ほかの家の事情を無視している。	・正しいことが最善かを考えさせる。
(3) 主人公の母の気持ちについて	○主人公の母の気持ちをどう思いますか。 ・えらい。 ・おせっかい。 ・好意が正しく理解されずかわいそう。	・母親の行為が生き方の基本からきているものであることを抑える。	
(4) 近隣の代表の来訪について	○近隣の代表の来訪はどんな意味がありますか。 ・みんなの事柄はみんなですることになる。 ・感謝されていることがはっきりした。	・母親の行為が契機となり、合理的な解決につながったことに気づかせる。	
終末	5. 教師の感想、説話を聞く。		・係、生徒会など身近な事柄に置き換え話をし、実践化につなげたい。

8. 評 価 奉仕の心を持って生活することの意義とその大切さが理解できたか。

第2学年 道徳学習指導案

指導者 伊勢原市立中沢中学校 教諭 小堀 滋

1. 日時 平成元年6月23日(金曜日) 第5校時
2. 学年・組 第2学年4組 42名(男子20名、女子22名)
3. 主題名 かけがえのない生命 (資料名: 流されたテント)
4. 主題設定の理由

・項目1は「生命のかけがえのなさの自覚」を深めることをねらいとしている。「生命」がかけがえのないものだということは承知している。しかし、このことを深く自覚し行動しているかというところでない場面もしばしば見られる。軽率と無謀さからくる行動から危険に身をさらされることもある。
 ・生命の尊さを深く自覚し、節度ある生活態度を築き、積極的に心身の鍛錬に取り組み態度にはもう一つ物足りなさを感じるのが最近の傾向である。そこで自ら生きていることのありがたさを自覚し、生命を大切に、無謀な行動は臆に慎み、節度ある生活態度を築くことに努めなければならない。このような意識を育てる指導が大切である。
 ・この資料は主人公真次が友達2人とキャンプを計画し実行する。はじめはリーダー的によく動いていた真次だが、遅れたことから、危険がありそな中州にキャンプ地を決め、そのことから友達と自分を危険におとし置いてしまう。大人に助け出されるが、自分の軽率な行動を反省するという話である。

5. 本時のねらい
 軽率な行動によって生命の危険にさらされることがあること、そのため軽率、無謀な行動は慎み、節度ある生活態度を築くことが大切であることを学ぶ。なによりも、生命が尊いということを学ぶ。
6. 同和教育の観点より特に留意すること
 生命のかけがえのなさや自覚させ、軽率、無謀な行動は慎み、節度ある生活態度を築くことに努めなければならないことを理解させる。
 視点4・・・科学的・合理的精神に立脚し、客観的に判断できる。
7. 本時の展開

過程	展開の概要	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1. 本時の学習を知る。軽率な行動から危険にさらされる場面が無いか考える。	○軽率な行動から、どのような危険にさらされたことがありますか ・計画無しで登山に出かける ・遊泳禁止の所で泳ぐ など	・思った事を自由に発言できる雰囲気させる。
展開	2. 資料を読み内容を把握する。 3. 共通の問題(主人公真次のふるまいや考え方)について話し合い、感想を発表する。 (1)真次の計画、行動について	○真次がリーダーとして計画し、実施したことについて、どう思いますか ・リーダーとしての意気込みはとても良い ・責任感もある ・兄の申し出を断わり、自分たちでキャンプをさせようとしている点は評価できる ○増水の時、自分だけ泳いで渡ってしまおうかと思った真次について、どう思いますか ・自分勝手である ・しようがない ・自分もそうするかも知れない ○増水の時、ロープを対岸まで取りに行こうとした真次についてどう思いますか ・友達のことを思い、冷静に判断している ・増水時に対岸まで泳ぐのは危険である ○警告を無視して、中州にテントを設置した真次についてどう思いますか ・どんなにリーダーらしい行動をとっても、生命の危険を冒した主人公の態度は非難できない ・自分の意地で、警戒を受け入れなかったことは良くない	・共感、批判の発言を取り上げ話し合いができるようにする ・主人公のリーダーらしい点を補い、評価する意見を多く取り上げる
	(2)増水の時に取ろうとした真次の行動について	○「すみません」しか言えない主人公の気持ちを振り返ってみよう ・どんなことをしても自分の生命に危険を招いた行為は取り返しがつかないことだと反省をしている ・考えもしないで行動してしまうことが案外多い	・命を守ることが最も大切であることを考えさせたい
	(3)行動を無視した真次の行動について		
	(4)反省する真次について		・自分の非を認めるに至ったことをとらえさせたい
終末	4. 日頃の自分たちの生活を振り返ってみる 5. 教師の感想を聞く		・生徒の発言を評価する ・命のかけがえのなさや自覚させる ・節度ある生活態度を築くことの大切さを考えさせる

8. 評価 生命のかけがえのなさや理解し、自らを見つめ直すことができたか

第3学年 道徳学習指導案

指導者 伊勢原市立中沢中学校 教諭 高橋 健一

1. 日 時 平成元年6月23日(金曜日) 第5校時
2. 学年・組 第3学年5組 44名(男子24名、女子20名)
3. 主 題 名 法治社会の風俗 (資料名:無免許 出典:文教社「中学生の新しい道3」)

4. 主題設定の理由

- ・項目15は「法の精神と権利、義務の意義を理解し、社会の風俗を高めていく。」ことをねらいとしている。中学3年生ともなると、法に対する理解も深まり、決まりにかなった行動をする反面、風俗に反発する気持ちも出てくる年頃でもある。従って、この時期に法の意義を明らかにし、日常生活の中で決まりを守らされているという意識から、すすんで決まりをまもるという意識を育てる指導が大切である。
- ・男女共に、少々落ち着きを欠くグループと、積極性があり物事を正しく判断しようとする堅実なグループ、そして、積極性に欠け傍観的立場をとるグループに分けられる。女子は男子よりも大人びた考えや行動をする。また、いくつかのグループは存在するが、クラスをまとめようとするリーダーも活動を始め始めている。しかし、クラス全体の雰囲気としては、まだまだ字級係活動の停滞が感じられる。これは、目先だけの獲得だけにとらわれて、何でも人任せにすることが多かったり、狭い自己中心的な考えによるもので、一つ一つの活動においての自覚、そして責任と旨うものもしっかり理解できていないためだと考えられる。
- ・この資料は、PTAの校外指導員になったばかりの主人公が、中学生の無免許運転を注意した後で、自分自身が検問に引っかかり、いつも便宜をはかってあげていたのに、罰金を払うように言われ、先相許してやった中学生と重ね合わせて考えて複雑な心境になるというものである。
主人公が注意した中学生と期せずして自分自身が同じ様な立場に追い込まれてしまうことに気づかせ、主人公の不満とそれが何で解消したかをくみ取らせたい。

5. 本時のねらい

違法の精神を身につけ、自己の考えを正しく主張すると共に、自分だけの利害獲得だけで行動することなく、義務は責任をもって遂行する態度を養う。

6. 阿和教育の観点より特に留意すること

規則が守られるためには、一人一人が積極的に協力して行く必要があるという自覚を深めて行くことの大切さに気づかせ、法と社会秩序の意義を理解する。

視点1…国を尊重し、集団の中での豊かな人間関係を作る

視点4…科学的・合理的の精神に立脚し、客観的に判断できる。

7. 本時の展開

過程	展開の概要	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1. 本時の学習を知る。	○交通事故の原因で、最も多いものは何だろうか。 ・スピード違反、酔っぱらい運転、駐車違反など	・思ったことを自由に発言できる雰囲気にかせる
展開	2. 資料を読み、あらすじを確認する。		
	3. 主人公の考えやふるまいについて、感想を発表する。	○主人公の考えやふるまいについて、どう思いますか。 ・中学生に注意していながら、自分で違反している。 ・自分の非に気づいたから、えらい。	・事前に資料を読ませ、感想を書かせておく。 ・事前に主人公の行動に賛成するものと、反対するものに分けておく。
	4. 主人公の気持ちの移り変わりについて、話し合う。 (1)中学生の無免許運転を注意したことについて (2)簡単に許してやったことについて (3)免許不携帯で、違反とされた良造について	○主人公が中学生を注意したことについて、どう思いますか。 ・PTAの校外指導委員になったから、いい格好をしたい。 ・注意しにくいのに、注意したのはえらい。 ・中学生が、思いのほか素直に謝ったから、よいと思う。 ・自分なら絶対に許さない。 ○主人公が違反とされたことについて、どう思いますか。 ・ごまかして家に入ろうとしたので、当然のことである。 ・素直に謝って、今後気をつけられたい。	・共感、批判の発言をとりあげて、話し合いができるようにする。

<p>(4)罰金を言い渡されたことについて</p> <p>(5)良造の不満が消えた理由について</p> <p>5. 自分の体験に照らし合わせ、考えたことや感じたことを発表する。</p>	<p>○罰金を言い渡されたことについて、どう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> いくらなんでも厳しすぎる。 本当に軽い違反なのに厳しすぎる。 違反したことにかわりはないのだから、当然のことである。 <p>○主人公の不満はなぜ消えたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 警官と話しているうちに自分の非に気がついたから。 違反の程度は、中学生が重く、自分は軽いと思っていた誤りに気がついたから。 <p>○決まりがなくなったらどうなりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 決まりがなかったら、困る。 決まりによって、自分の生活が守られている。 <p>○決まりに違反して、罰せられたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 登校時調査 自転車通学 	<ul style="list-style-type: none"> ここで、厳しすぎるという意見と、いや当然であるという意見とをたたかわせる。
<p>まとめ</p> <p>6. 教師の感想を述べてまとめる。</p>	<p>○決まりについて、その必要性を、あらためて、確認しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の発表を評価する。 教師自らの体験談や、新聞の記事などを事前に用意しておく。

8. 評価

権利を正しく主張し、義務を厳しく遂行する。そのためには、一人ひとりが積極的に協力していかなければならないという気持ちが深められたか。

無題 第九 終計

晩秋の日差しをあびて、良造は、クリ岡の作業に追われていた。クリ岡は、農道に沿って、なだらかに傾斜して広がっている。クリの収穫が終わわり、残ったのが三か所に山積みになって燃やしているのである。

良造は農協に勤務するがたわら、いくらかの田畑を耕作するいわゆる農業農家である。先週の日曜日には、クリの枝のかりこみをした。ときおりその枝を火に投げ入れると、炭がバリバリと音を立て、赤い色を残したまま空高くまいあがった。

ふと、良造は作業の手を止めた。農道の東側から、エンジンの音がびびいてくる。だれだろう・・・？どここの知でもいまは収穫も終わって、めったに働きに出る者はいないはずなのだ。

やがて、二台のバイクが走っているのが見えた。先頭のバイクに乗っているのは、白っぽい作業服の若い男。うしろのバイクは、青いトレパンの中学生だ。良造がながめていたうちに、その二台のバイクは西側の雑木林の道に消えていった。そのうちにこちらにやってくるはずだ。

良造はしばらく迷っていた。中学生がバイクに乗っている、注意すべきではないか？良女がこの件中学に入学し、良造はPTAの校外指導員になったのである。

「よし、思いきって注意してやるか。」

ふんぎりをつけるように良造は歩きだし、車のボンクスカから腕章をとりだしてきた。緑色の地に、「校外指導員」という白い文字がうきでている。それを腕につけると、きつぱりとした勇氣みたいなものがわいてきた。

雑木林の方から、ふたたびエンジンの音が聞こえてきた。良造は道路のまん中に立つた。ぐんぐん近づいてきた二台のバイクは、良造の姿を見てスピードを落とした。良造は両手を広げて、立ちどまった。若い男が、げげんな顔をしてバイクを止め、中学生もそれにならった。

「ちよつと、エンジンを止めてくれ。」

良造にいわれて、二人はスイッチを切った。中学生は若い男のうしろにかくれるようにして、うつむいていた。

「君たちは兄弟か。」

「いや、ちがうんだ。近所の子だよ、これは。」と、若い男が答えた。

「おい、中学生、顔を上げろ。おれは校外指導員をやっている。何でバイクを止められたか、わかっているだろうな。何年生だい？」

「三年生です。すみませんでした。」中学生はいまにも消えりそうな声を出した。

良造は、自分がすばらしくよいことをしているような気分になってきた。ひとしきり中学生に説教してから、若い男の方に向かって、いった。

「君も悪いぞ。中学生と知っていてさそうなんて、とんでもないことだ。これから氣をつけてくれよなあ。」

「どうも、すみませんでした。これからはぜったいにさそわないから、こんどだけはかえんべししてください。」

若い男はヘルメットをとって、頭を下げた。うしろの中学生も、びよこんとおじぎをした。聞きなおつて口答えをするかもしれないと思つたのに、あまりにもすなおに、人にあやまれて、良道としてもこれ以上強く出ようがなかつた。

「よし、わかつた。本来なら学校に連絡しなければならぬのだが、今回にかぎりだまつておく。免許をとるまでは、もうバイクに乗つてはいけないぞ！」

良道が念をおすと、二人はうなずいて、バイクに乗り静かに去つた。中学生にはエンジンをかけないで押していけよ、よほどいふかと思つたのだが、里までの距離はかわりあり、かわないそうすぎると考えて見送つた。

夕ぐれの間、せまつたクリ岡の谷をはさんだ向かいの山から、ケーン、ケーンとキジの鳴く声が聞こえてきた。バイクの二人が去つてから、時間ばかりで良道は作業を切りあげ、車で帰途についた。

良道の家の入り口のすぐそばに、楯がかかつている。その楯のところで、スピード違反の検問がおこなわれていた。長い机を二つならべて、違反者が三人ばかりいすにすわつて警官と向い合い、手続きをしていく。

この目にかぎつて良道は、免許証を家に忘れてきていた。そのことに気がつき、困つたなと思つたが、このまま山へ引きかえすのは不自然だし、かえつてあやしまれる。とにかく家がそこなのだから、入らないわけにはいかない。

近づいていくと、顔見知りの警官がいた。良道はほつと、

「ご苦労さんです。」とさりげなく声をかけた。ところがそのとき、もう一人の警官が近寄つてきて、

「免許証を見せてください。」といつたのである。良道はあわてた。そしてしどろもどろになりながら、釈明した。

「免許証はあるんですが、その、山へいくんで君がえたと、つい忘れてしまつて、すみません、ほんとうにあるんです。家は、ほら、ここがそうなんです。すぐ取つてきますから。」

しかし、その警官は許してくれなかつた。顔見知りの警官は、そばで氣の毒そうにもぞもぞしていたが、

「しかたありませんね。」と低い声で良道にいい、違反者のほうにいってしまつた。けつきよく良道はキップを切られ、すぐそこ家の庭に車をいれた。

家にながつて君がえするとその内ボケントに免許証が入つていた。良道は、どうにも胸のなかのちやもやがすつきりしなかつた。——あの中学生を許してやつたおれが、

罰金をはらわされるとは！免許証を忘れただけじゃないか。それにあの警官も思知らずだ。夏の暑いときには、水を飲みきたり、電話を借りきたりしたくせに。注意だけでいいとか、同僚の警官にいつてくれてもよさそうなんだ……

そんなことを考えていると、やがて玄関の音が聞き、あの顔見知りの警官の音がした。良道は顔を出したくなかつたが、しぶしぶ玄関に出ていき、あすつとした声で、

「ご苦労さんでした。」といつた。警官はひたいをしきりにこすりながら、

「いやあ、今日はまいりました。いつもお官の入り口を借りて検問をやつてゐるのに、こんなことになつて、ほんとに、氣の毒なことでした。しかしわたしも、立場上あのと、大目に見るわけにもいかなくて、そのところを強して下さつて、これからはあんな場所を貸して下さりませぬか。」といつた。

良道は、すぐには返事をしなかつた。弱りきつた表情の警官は、なおもひたいに手をやつたまま、ことばをつづけた。

「スピードの出しすぎで、最近事故が多くて弱つてるんですよ。死傷者がふえるいっぽうなんです。」

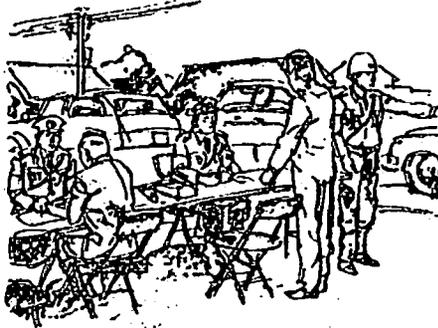
良道の氣持ちに同情し、何とかしてきげんをおしてもらおうとして、あせをふきふきけんめいに話しかける警官を見て、

いるうちに、良道の胸のなかのちやもやも、少しづつ晴れていつた。人のよきさうなこの警官は、良道のかわりに罰金をはらいたいくらいの氣持ちでゐるらしかつた。

「わかりました。いや、免許証を忘れたわたしが悪いんだから。入り口のところは、いつでも使つてくださいます。」

良道はきつぱりといつた。警官はほつとした顔になり、札をいつて帰つていつた。

居間にもどつた良道は、一服しよるとタバコに火をつけた。音いけむりのなかに、良道をバイクで去つた中学生の顔と警官の顔とが二重写しになつてうかんで消えた。



出典：文教社「中学生の新しい道3」（小坂弁吉・文）

5. 調査資料研究部

(1) 研究のねらい

調査資料研究部は、各研究部の研究および実践の「補助的」な存在で次にあげる2つの研究を通して、各研究部のサポート、チェックの機能をしている。

◎同和教育先進校の研究内容を収集・検討し、各研究部へ提供する。

◎継続的な生徒の実態調査を実施し、研究内容の進展、確認をみる。

(2) 研究の内容

① 年間研究活動計画

昭和63年度	1学期	4月	同和教育先進校の研究資料の収集、検討および各研究部への提供	
		5月		
	6月			
	7月			
	2学期	8月		同和教育先進校の研究資料の一覧表作成
		9月		実態調査の項目の検討および作成 実態調査の実施、集計 実態調査結果についての考察
10月				
11月				
12月				
3学期	1月	実態調査の反省		
	2月	年間の反省		
	3月	次年度に向けての方向付け（年間活動計画の立案）		

平成元年	1学期	4月	組織作り、年間計画作成
		5月	年間計画の提案 実態調査の立案作成
		6月	実態調査の完成
		7月	実態調査の実施
	2学期	8月	実態調査の集約・考察
		9月	実態調査の集約・考察
		10月	発表会の準備
		11月	実態調査について発表
	3学期	12月	実態調査の実施
		1月	実態調査の集約・考察
		2月	実態調査の考察の提案
	3月	研究全体の見直し 来年度の研究の方向性検討	

② 同和教育先進校の資料の研究

全国各地より、同和教育の先進校より研究資料を取り寄せ、本校の研究内容にあい、役立つ資料を精選した。各研究部へ提供できた資料の学校および団体を次にあげると

- ・和歌山県西和中学校
 - ・大磯中学校
 - ・末広小学校
 - ・茨城県水戸第一中学校
 - ・国府中学校
 - ・姫路市教育委員会
 - ・静岡県教育委員会
 - ・静岡県天城中学校
 - ・桑野本町中学校
 - ・茨城県利根中学校
 - ・千葉県長南中学校
 - ・千葉県南部中学校
 - ・奈良県菟田野中学校
- 等である。

③参考文献

著 書	著 者	出 版 社
やさしい学校同和教育	東上 高志	部落問題研究所
やさしい部落の歴史	東上 高志	部落問題研究所
被差別部落の歴史	原田 伴彦	朝日新聞社
部落問題入門	村越 末男	明治図書
同和教育創造南海中学の歩み	水田精喜、熊沢昭二郎	部落問題研究所
人権(差別からの解放)	平野 一郎	明治図書
暮らしのなかの部落問題	上田 一雄	明石書房
人権をくらしのなかに	今野 敏彦	開窓社
表現の自由と「差別用語」	部落問題研究所	部落問題研究所
人権のあゆみ	小林 茂	山川出版社
集団の教育	在原市教育委員会	部落問題研究所
近世神奈川の被差別部落	荒井貢次郎、藤野豊	明石書店
入門 部落の歴史	原田 伴彦	部落解放新書
部落問題 資料と解説	部落問題研究所	解放出版社
部落問題論	和田鶴蔵、中村拡三	学術図書出版社
部落解放を教師の手に	部落問題研究所	解放出版社
同和教育の探求	小川 太郎	部落問題研究所
同和教育はなぜ必要か	村越 末男	明治図書
部落史をどう教えるか	稲垣有一、寺木伸明 中尾健次	解放出版社
同和二千年史		同和文献出版社
部落問題学習の資料と手引き	東上 高志	部落問題研究所

④ 実態調査について

(ア) 昭和62年、63年、平成元年度の実態調査

昭和62年度、63年度、平成元年度の2年間にわたり、学校生活のさまざまな場面にわたる15項目(A~O)のアンケートを実施しました。A~Nのそれぞれの項目について(1)、(2)の2つの質問があります。そして、答えを1、2、3の中から選択します

- (1) あなたは~したことがありますか? 1. よくある 2. ときどきある 3. ない
 (2) あなたは~されたことがありますか? 1. よくされる 2. ときどきされる 3. されない
 ただしOについては、4. いじめはない。の選択肢が追加されています。その集計は、一人ひとりの加害度と被害度のバランスを検討し、下のように分類しました。(Oは除く)

(1)	(2)	加 害 度	加害度別分類
1. よくある	3. されない	加害傾向の強い者	加害傾向
2. ときどきある	3. されない		
1. よくある	2. ときどきされる	加 害 ・ 被 害 者	加害・被害とも
1. よくある	1. よくされる		
2. ときどきある	2. ときどきされる	被害傾向の強い者	被害傾向
2. ときどきある	1. よくされる		
3. な い	2. ときどきされる	傍観・不関知者	関知しない
3. な い	1. よくされる		
3. な い	3. されない		

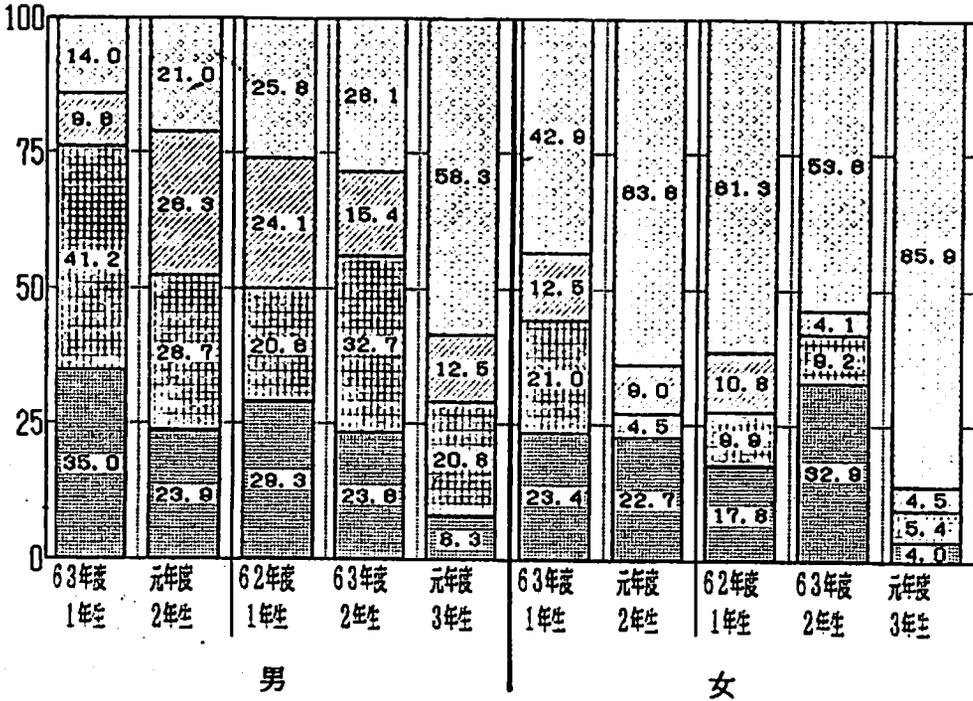
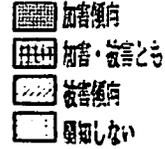
以下、上のように集計した結果を記します。

A (1) あなたは授業で、間違っただ言をしたり、失敗をした人をばかにしたことがありますか？

- ① よくする。 ② ときどきする。 ③ しない。

A (2) あなたは授業で、間違っただ言をしたり、失敗をしたとき、ばかにされたことがありますか？

- ① よくされる。 ② ときどきされる。 ③ されない。



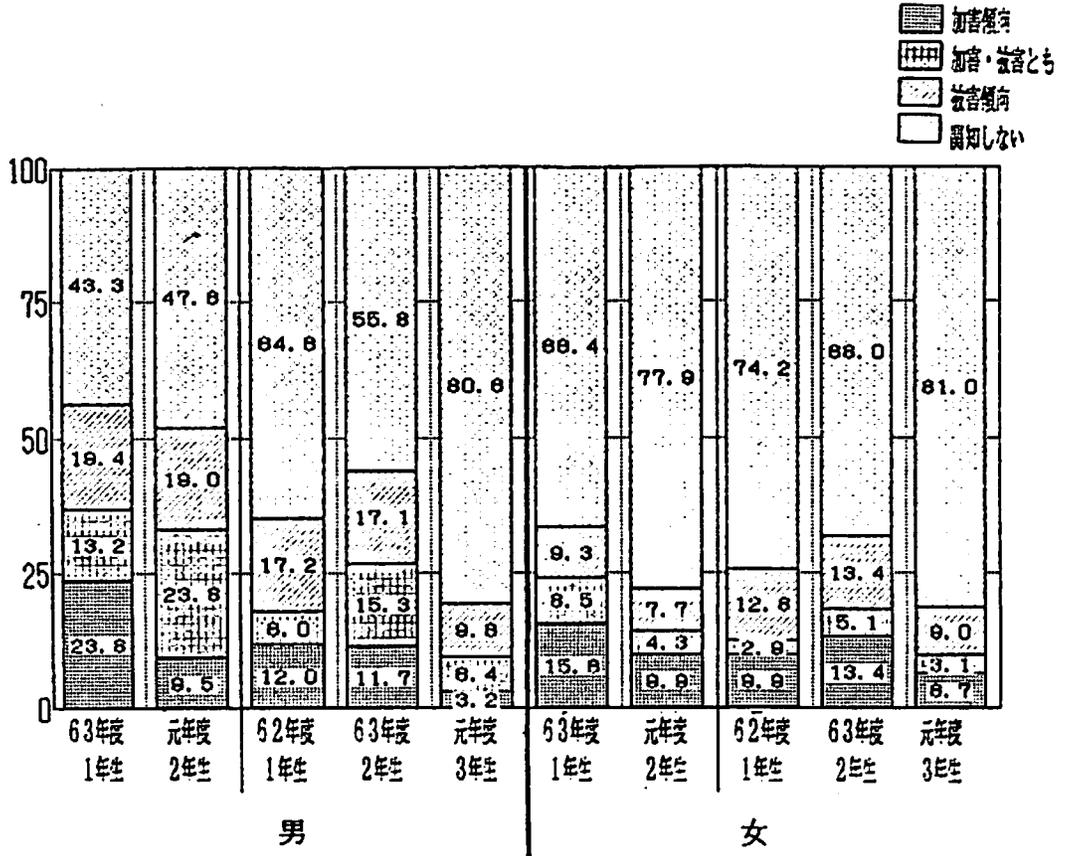
3年生は男女ともに加害傾向の生徒が減っている。特にこの1年間の減り方が大きい。また、学年を問わず関知しない生徒の数が年を追って増えている。以上のことから、少しずつではあるが良い方向に向かっているようである。

B(1) あなたはテストの点数や、成績の悪い人をばかにしたことがありますか？

- ① よくする。 ② ときどきする。 ③ しない。

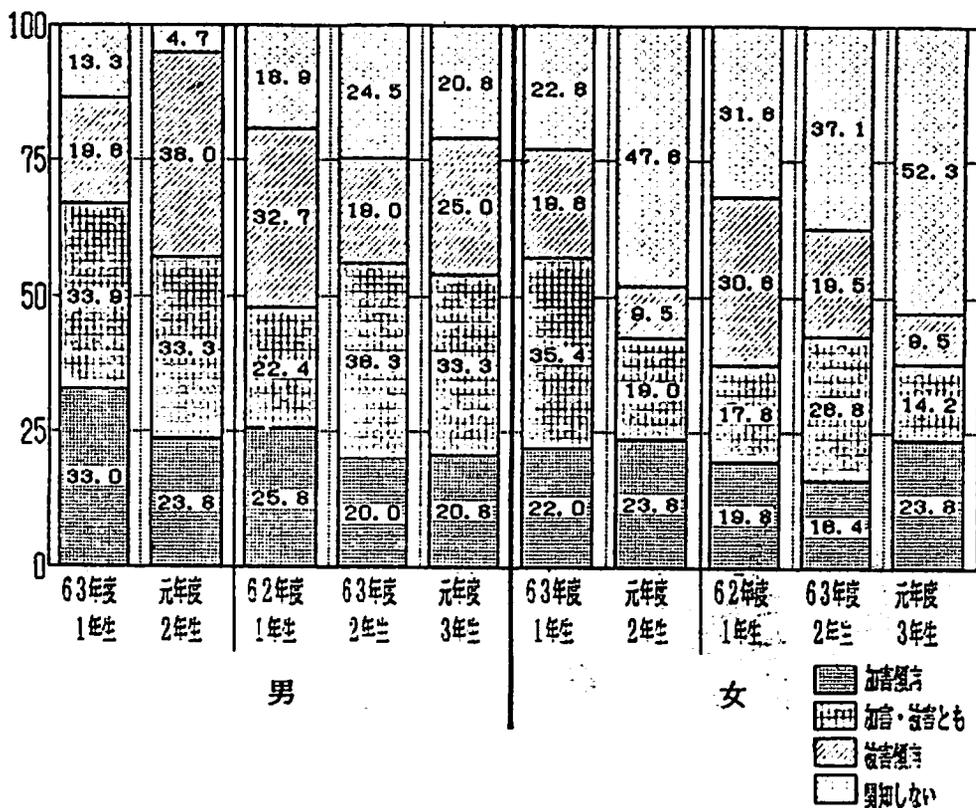
B(2) あなたはテストの点数や、成績が悪いことで、人にばかにされたことがありますか？

- ① よくされる。 ② ときどきされる。 ③ されない。



2年生については昨年と比較すると加害傾向の生徒は減り、関知しない生徒が増えているので好ましい方向に向かっているようである。3年生もほぼ同じことが言えるのだが、なぜか昨年の実態は一昨年より好転していないことがわかる。だが、A同様この1年間の比較では急好転している様子がうかがえる。

- C(1) あなたは人の顔つきや体つき、身なりのことで悪口を言ったことがありますか？
 ① よくする。 ② ときどきする。 ③ しない。
- C(2) あなたは自分の顔つきや体つき、身なりのことで悪口を言われたことがありますか？
 ① よくされる。 ② ときどきされる。 ③ されない。



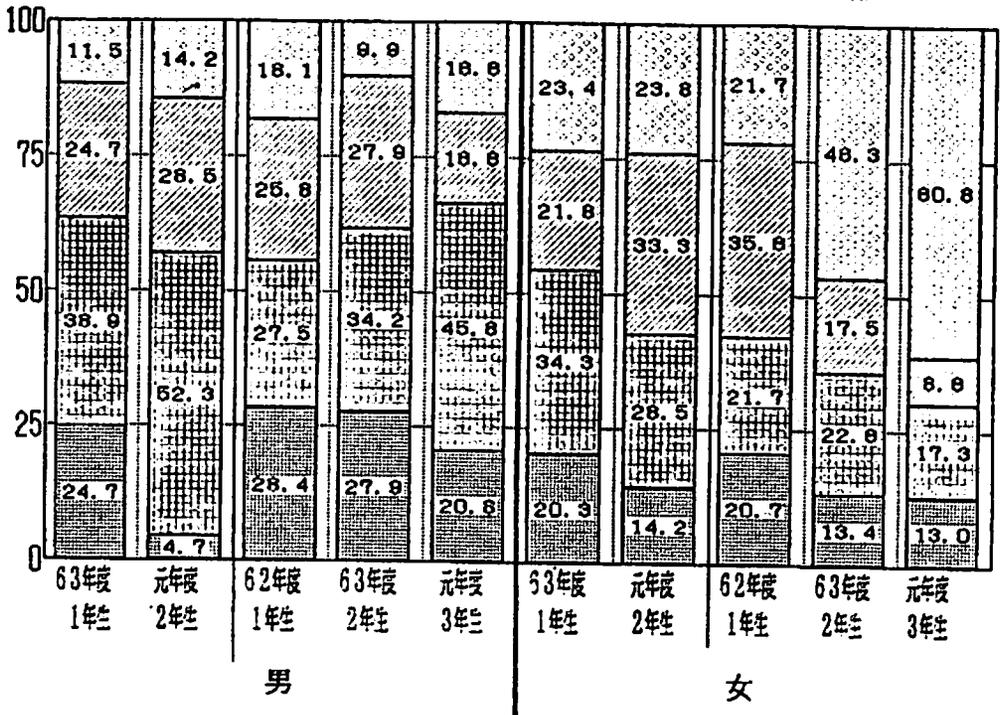
体つきや顔つきはいくら努力しても直らないことであり、それについては最も避けなければならないことである。しかし、2年、3年ともまったく好転している様子はない。このことは今までの研究や実践ではなんの成果もないことを示しており生徒達に心情的に訴える道徳や学活の中での地道な実践の積み重ねて解決しなければならないだろう。他にも最近のテレビなどの影響も考えられる。しかし、逆に考えると生徒の意識の向上のためこのような結果になったこともありえる。

D (1) あなたは友達のいやがる「あだ名」をわざと呼んだことがありますか？

① よくする。 ② ときどきする。 ③ しない。

D (2) あなたは自分をいやな「あだ名」で呼ばれたことがありますか？

① よくされる。 ② ときどきされる。 ③ されない。



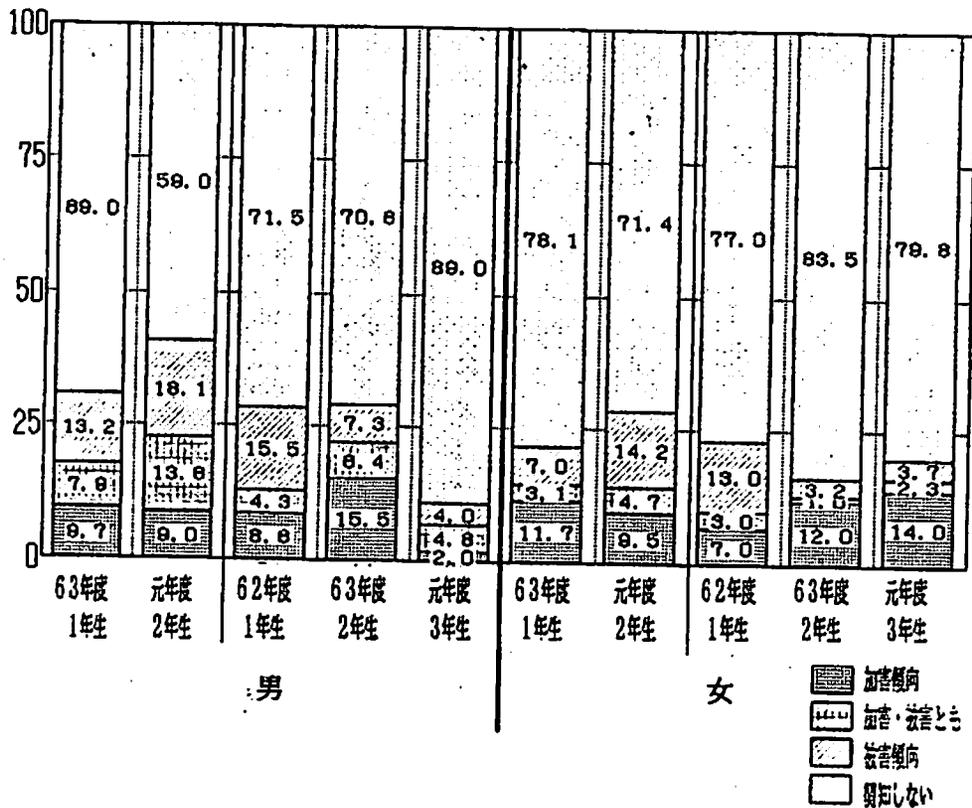
2年生の男子で加害傾向の生徒が減っている様子がうかがえるが、被害傾向の生徒は逆に増えているので特定の生徒が加害行動を起こしている実態が考えられる。その他の2年女子、3年男子はほとんど変化は認められず、このことも同様、心情的に訴えていく地道な実践が望まれるのではないかな。

E (1) あなたは父母の職業や家のことで、悪口を言ったことがありますか？

- ① よくする。 ② ときどきする。 ③ しない。

E (2) あなたは父母の職業や家のことで、悪口を言われたことがありますか？

- ① よくされる。 ② ときどきされる。 ③ されない。



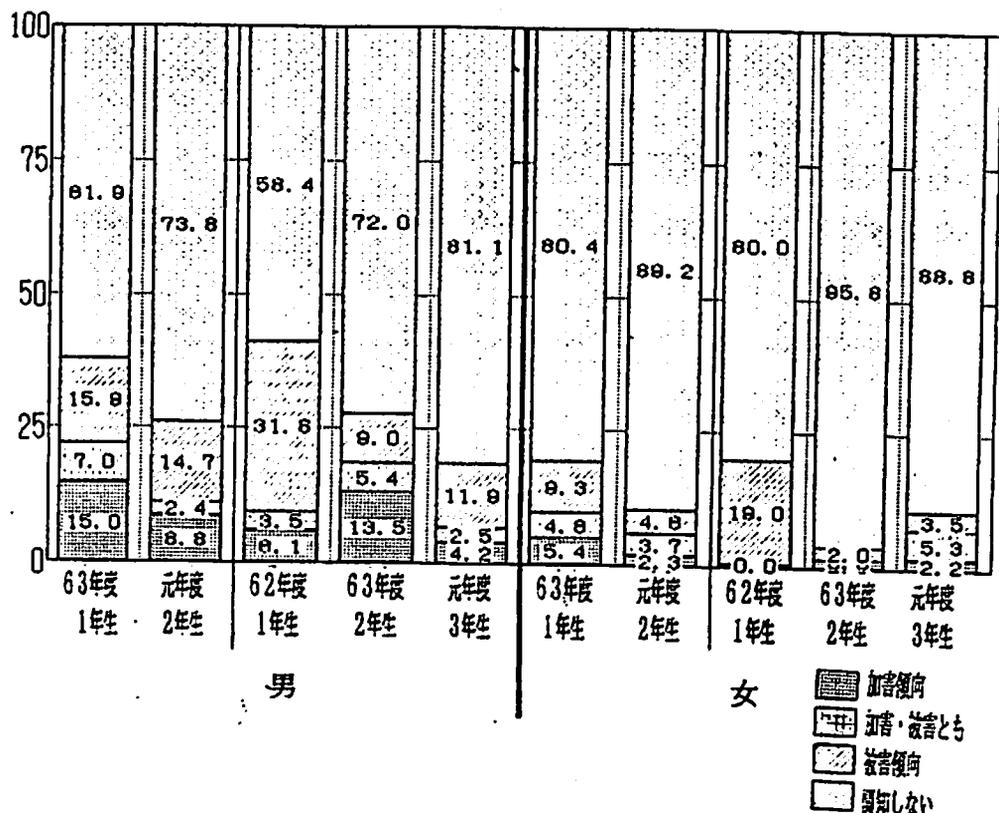
もともと、加害傾向の生徒は少なかったがこの設問も職業蔑視の実態を見るうえで軽視できないものである。2年の男女で被害傾向が増加、3年女子で年を追って増えている加害傾向の生徒数など見落としてはならない実態である。このことも普段からの地道な実践によって解決の方向を探る必要が十分ありそうである。

F(1) あなたは授業中、特定の人の発言をわざと邪魔することがありますか？

- ① よくする。 ② ときどきする。 ③ しない。

F(2) あなたは授業中、発言を邪魔されたり、ひやかされたりすることがありますか？

- ① よくされる。 ② ときどきされる。 ③ されない。



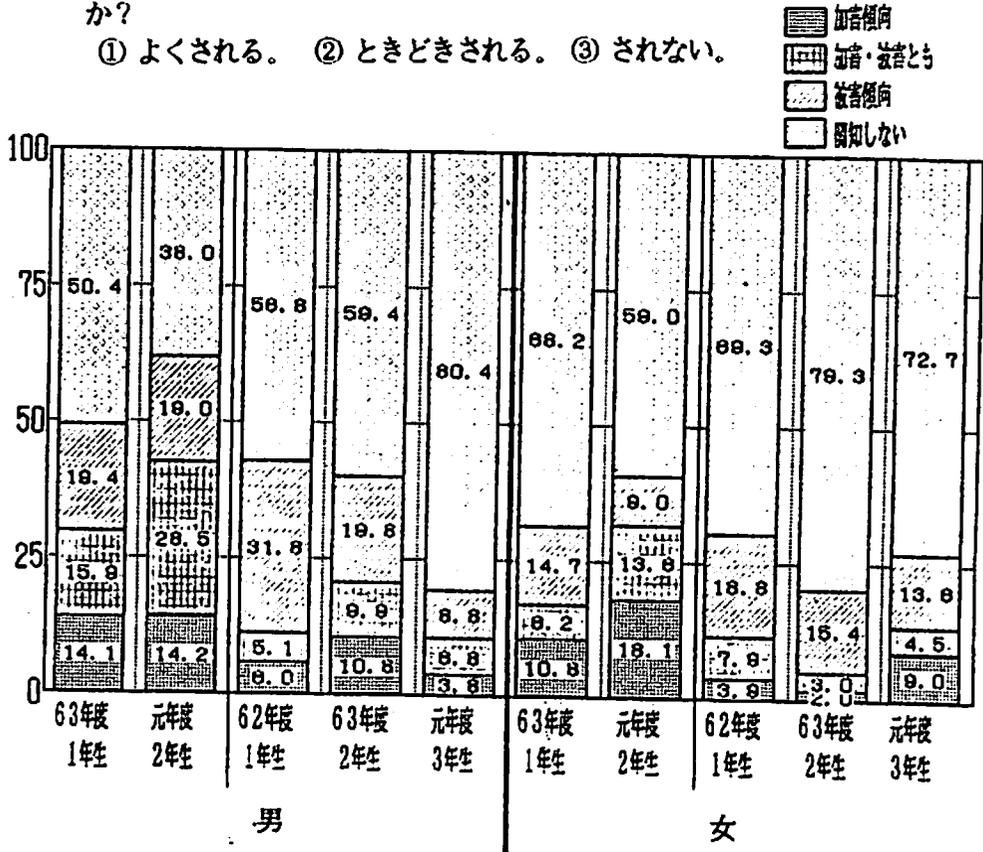
各学年とも加害傾向が減り、関知しない生徒も増えている実態がうかがえるので好ましい方向に向かっているようである。学級の日や普段の活動などが活発になってきたことがこのような実態を生んできたのではないか。

G(1) あなたはクラブや部活のとき、特定の人の邪魔やいやがらせをすることがありますか？

- ① よくする。 ② ときどきする。 ③ しない。

G(2) あなたはクラブや部活のとき、邪魔されたり、ひやかされたりすることがありますか？

- ① よくされる。 ② ときどきされる。 ③ されない。



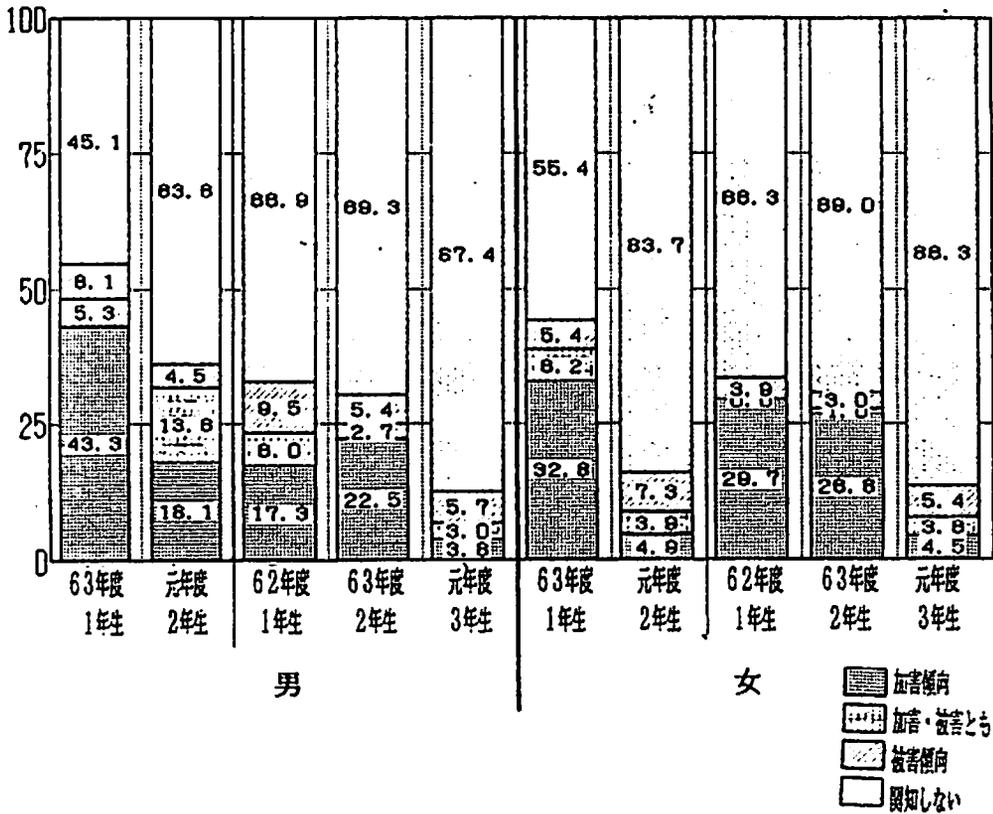
2年生で加害傾向が増え、被害傾向が減り、関知しない生徒が減っていることがわかる。また、3年の女子では加害傾向が少しずつ増えている。上級生になり下級生に対して先輩風をふかしたくなるのだろうか。

H(1) あなたは掃除のとき、特定の人の机を運ばないことがありますか？

- ① よくする。 ② ときどきする。 ③ しない。

H(2) あなたは掃除のとき、自分の机が運んでもらえないことがありますか？

- ① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。



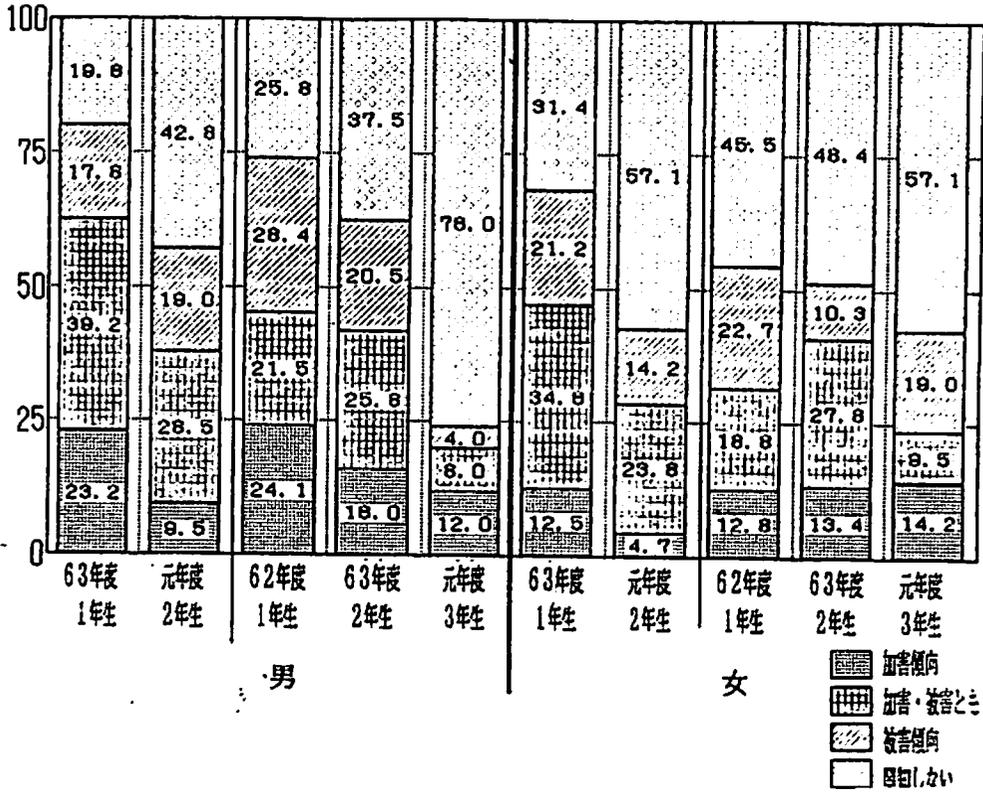
掃除のとき、机を運ばないようなことは幼稚ないたずらだと考えられる。やはり学年が進むにつれ減少している。

I (1) あなたは、特定の人々の指示を聞かないことがありますか？

① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。

I (2) あなたは、自分の指示を聞いてもらえないことがありますか？

① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。



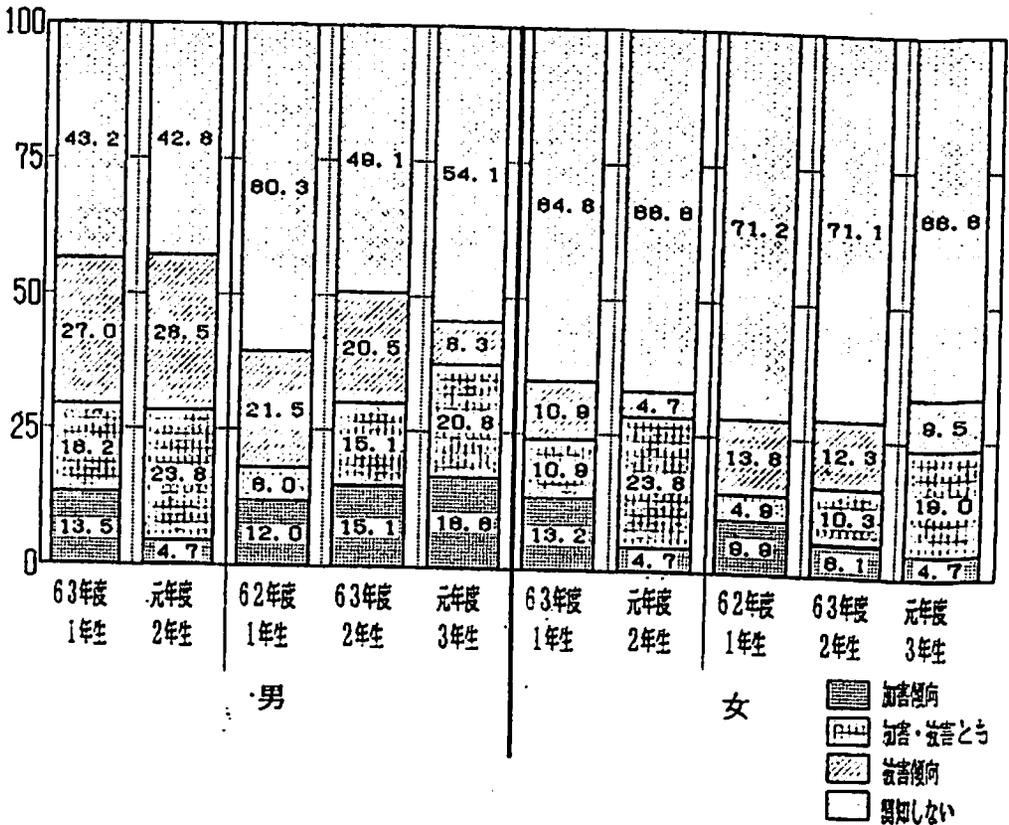
無視はいじめの前兆と考えることができ、これもC同様に軽視することはできない。3年女子は横ばいだがその他は加害、被害ともに減少の方向に向かっている。学級の日や実践七場面などを通していろいろな活動が活発化してきたことがこのような結果をもたらしているようであるが、その人数は少ないとはいえないのでさらに諸活動を活発化していくことが望まれる。

J(1) あなたは人の机に落書きをしたり、学用品にいたずらなどのいやがらせをしたことがありますか？

① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。

J(2) あなたは自分の机に落書きをされたり、学用品にいたずらなどのいやがらせをされたことがありますか？

① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。



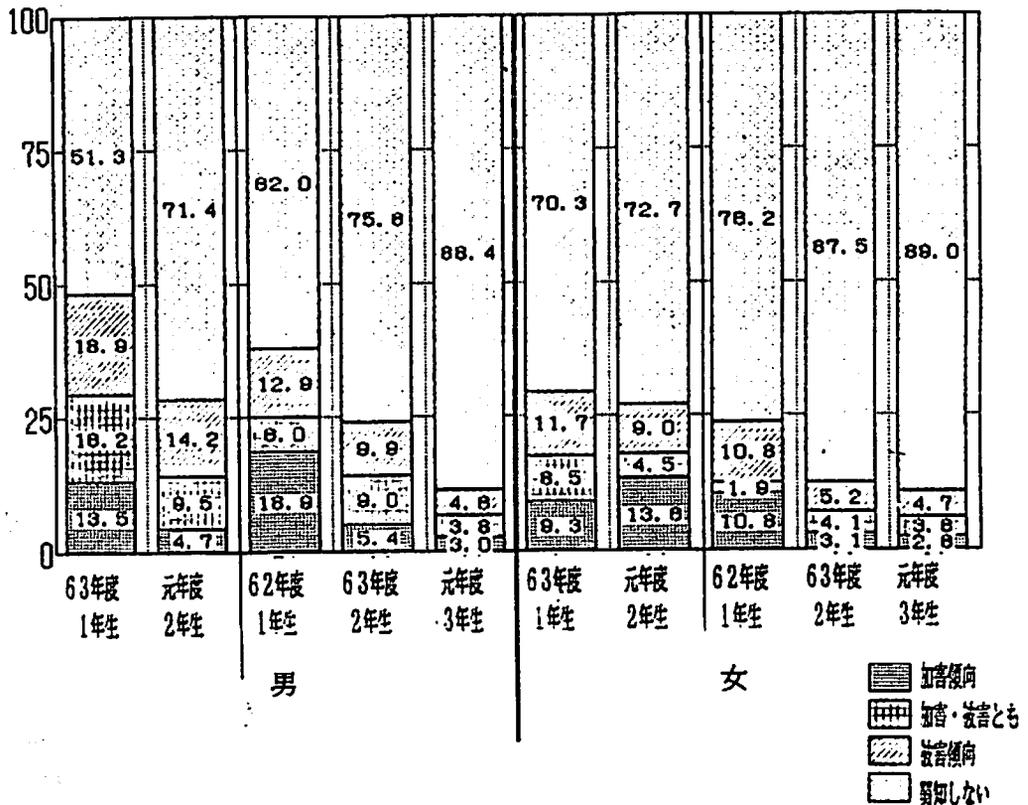
日同様に人に対してではなく所有物に対するいたずらであり、幼稚ないたずらといえるわけだがかなり様子がちがう。特に3年男子は加害傾向が減るところか少しづつではあるが増えていることがわかる。逆に被害傾向は減っている。特定少数の生徒に対しておもしろがっていたずらをしていることも十分考えられる。その他の2年男女、3年女子は加害傾向が減っているので全体的にはこれで良いようである。

K (1) あなたは、いやな掃除場所を人に押しつけたことがありますか？

- ① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。

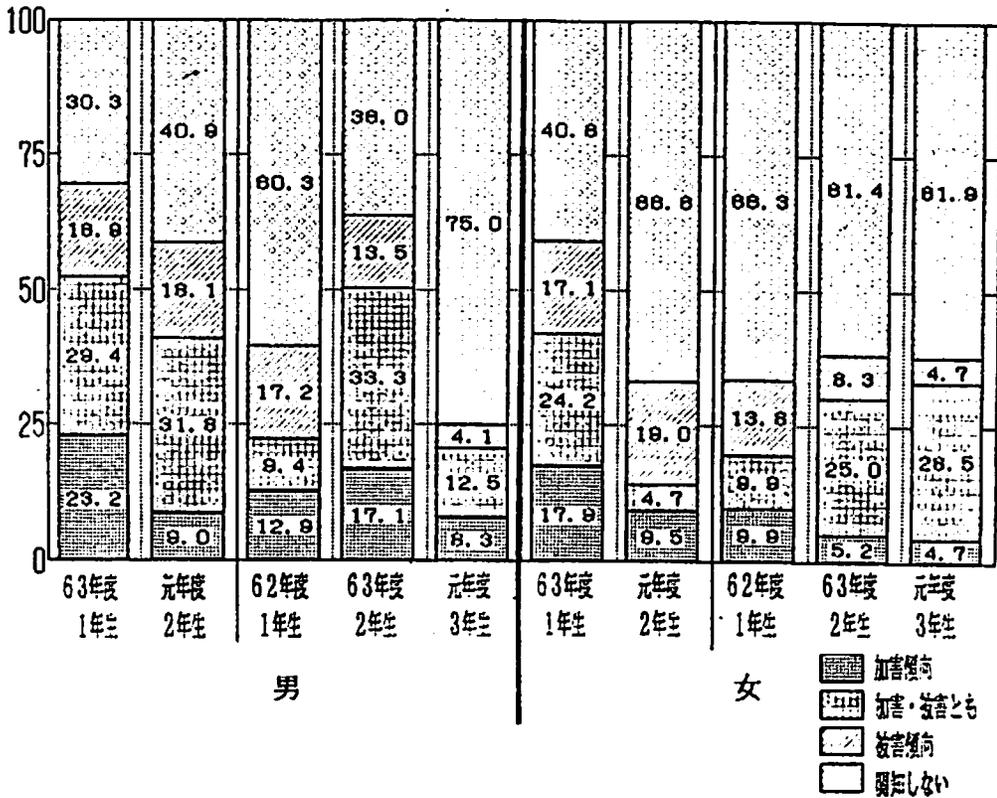
K (2) あなたは、いやな掃除場所を人から押しつけられたことがありますか？

- ① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。



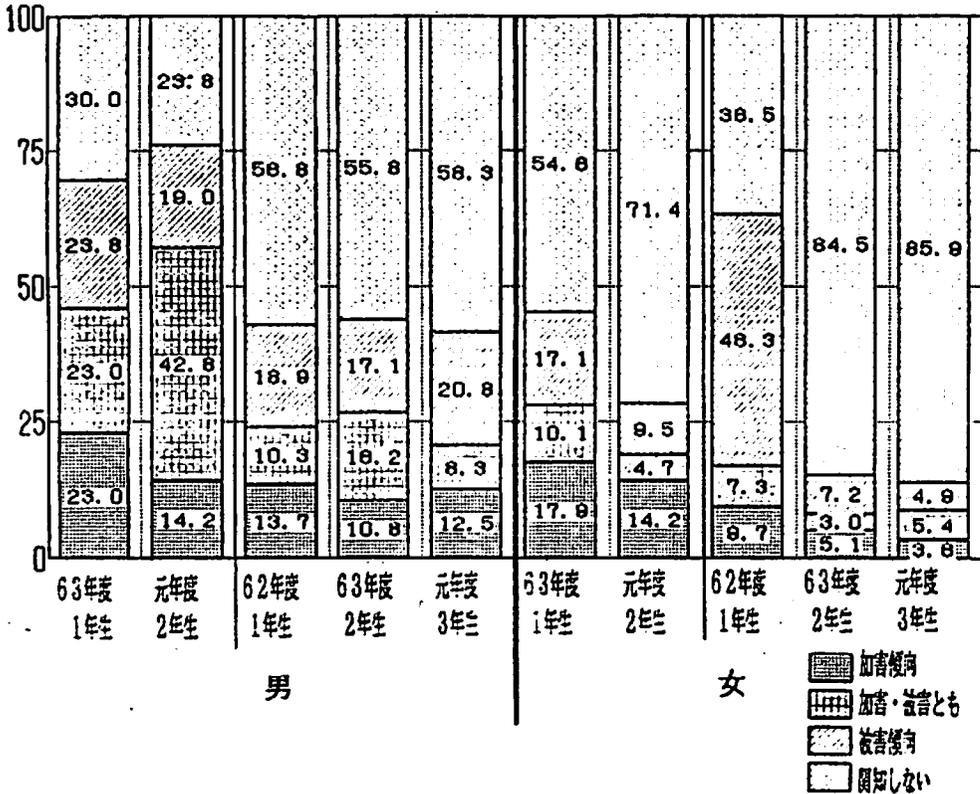
各学年とも年を追うにつれ加害傾向が減り、関知しない生徒が増えている。(2年女子は例外で加害傾向が若干増えている。)特に問題はないだろう。

- L (1) あなたは、自分の仕事を人に押しつけたことがありますか？
 ① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。
- L (2) あなたは、自分の仕事を人から押しつけられたことがありますか？
 ① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。



各学年とも年を追うにつれ加害傾向が減り、関知しない生徒が増えている。ただ3年男子が2年生のときは例外で加害傾向が増えたりかなり他とは異なる様子である。今後、原因を探りたい。

- M(1) あなたは係を決めるとき、その人が適任でないのにいやな係に推薦したことがありますか？ ①よくある。 ②ときどきある。 ③ない。
- M(2) あなたは係を決めるとき、自分が適任でないのにいやな係に推薦されたことがありますか？ ①よくある。 ②ときどきある。 ③ない。



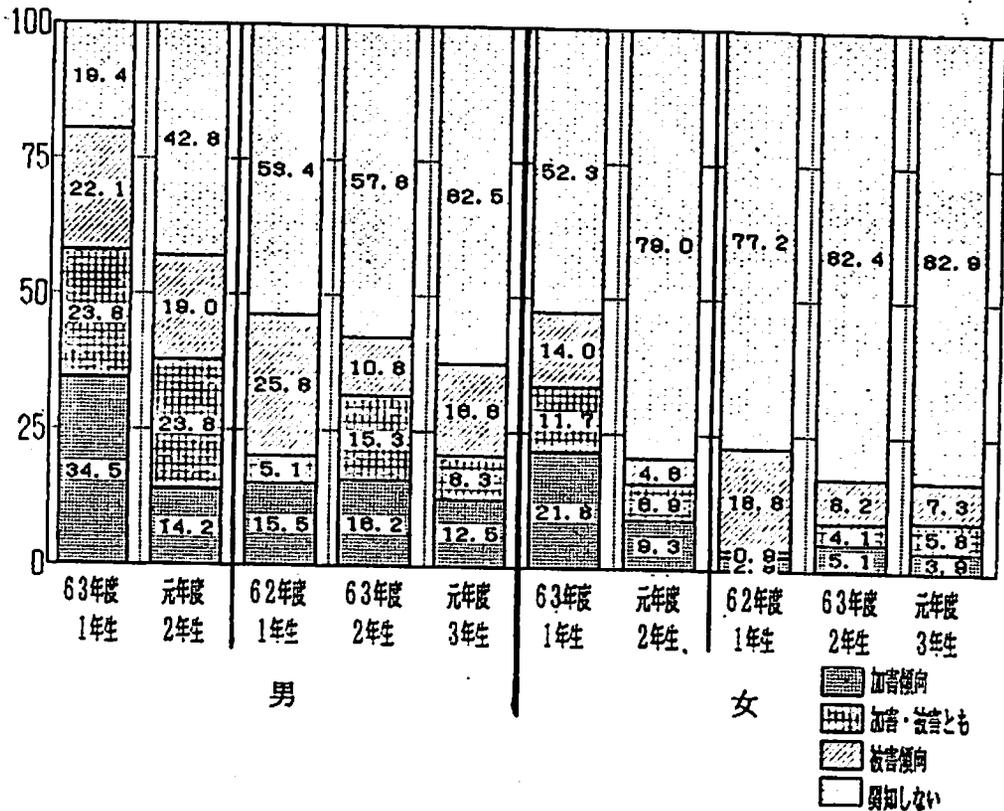
女子は2、3年とも年を追って、加害傾向が減り、関知しない生徒が増えているのでこのようなことが改善されているようである。しかし男子については2年生は加害傾向は減っているものの関知しない生徒は逆に減り、3年にいたっては加害傾向が増えている。特に男子の中にこのようないじめが潜在していることがわかる。

N (1) あなたは、弱いものいじめをしたことがありますか。

① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。

N (2) あなたは、意味もなく、いじめられたことがありますか。

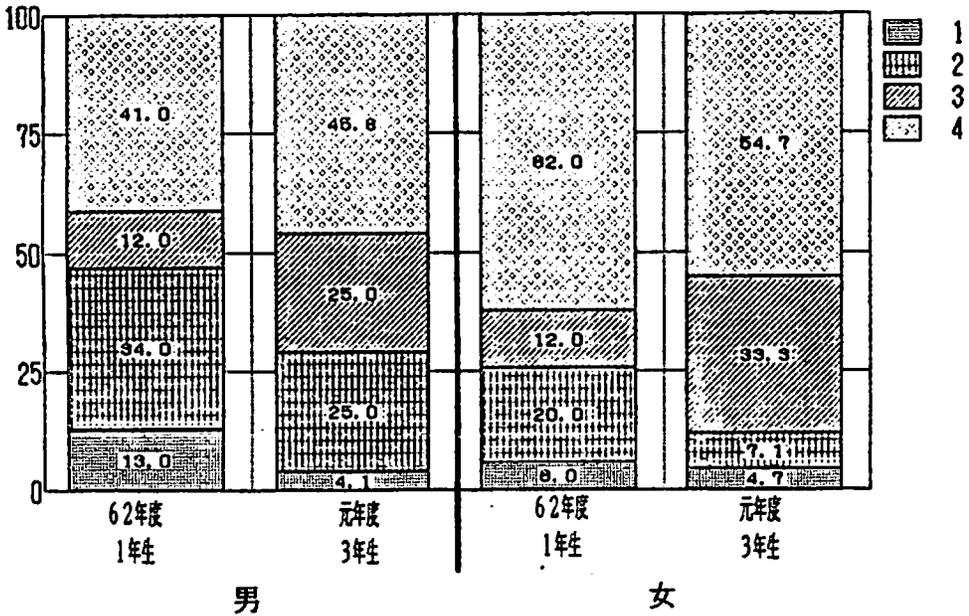
① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。



各学年とも関知しない生徒が増えていることから、いじめはかなり減っているようである。活発化した諸活動がこのような結果をもたらしたことは十分考えられる。ただ、女子に比べ男子の加害傾向の人数が多い。

○(1) あなたは、弱いものいじめを見たとき、やめるように注意したり、やめさせたことがありますか？

- ① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。 ④ いじめは見ない。

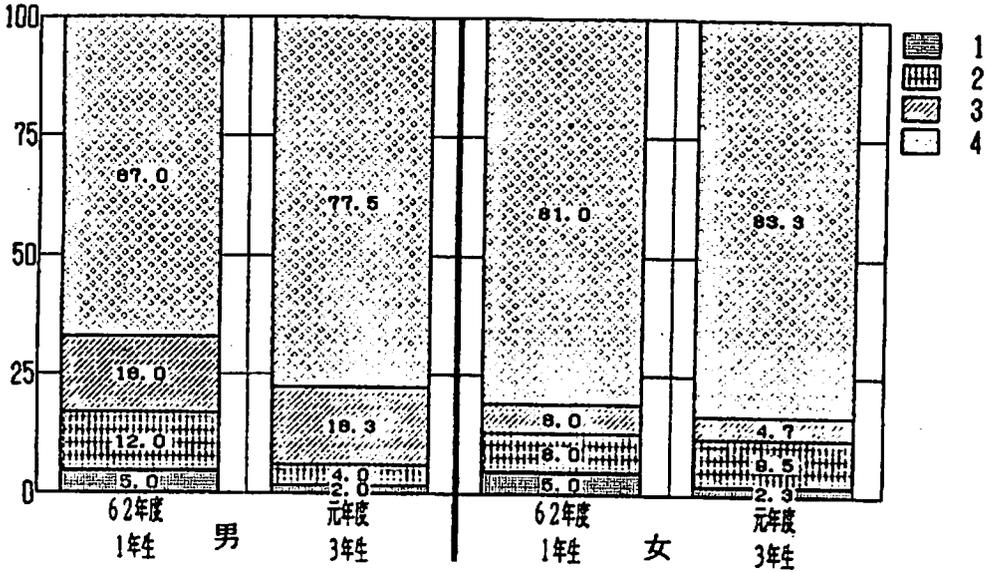


○(1)～(3)は昭和63年度実施の際「④いじめはない」という選択肢を設けなかったため、その年のデータは参考にならない。したがって、現3年生の2年前と今年の結果のデータだけ記した。

③と答えた生徒を2年前と比べると男子は2倍(12%→25%)、女子は3倍(12%→33.3%)と急が増えている。これはいじめを「いじめを見て見ぬふり」をしている生徒が急増していることを示している。Nよりいじめが減ったことが分かったが、本当に弱い立場の人に手が差しのべられていない実態が浮かんでくる。

○(2) あなたは、いじめられたとき、助けてもらったことがありますか？

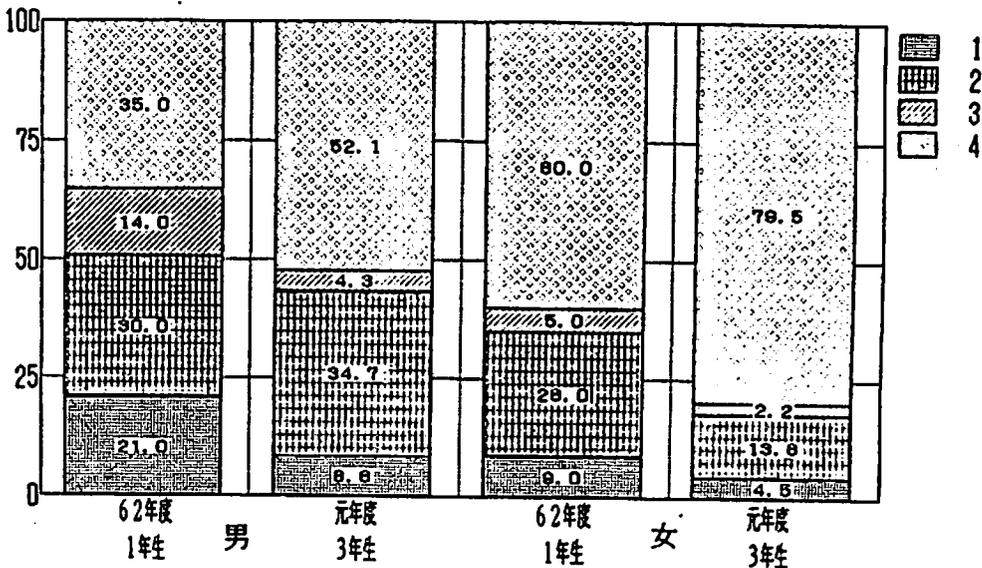
① よくある。 ② ときどきある。 ③ ない。 ④ いじめられたことはない。



①と答えた生徒が徐々に減っている。つまりいじめられっこが助けられない実態がある。しかし、いじめが減っていることから当然のことかもしれない。

○(3) あなたの学級には、弱いものいじめを注意したり、やめさせたりする人がいますか？

① いる。 ② 少しは、いる。 ③ いない。 ④ いじめはない。



③と答えた生徒が2年前と比べると大幅に減っている（男子は14%→4.3%、女子は5%→2.2%）。①と答えた生徒の減少はいじめ自体の減少に起因していると思われるが、諸活動の活発化によって助け合いの精神が少しは具現化したものと考えられる。

(3) まとめ

3年間の研究および実践の成果を見るために3年間同じ質問を実施したが、おおむね好ましい方向へ生徒は変容していることがわかった。これは特活研究部を中心に実践してきた実践七場面、学級の日、自然愛護活動などで非常に活発化したさまざまな活動の結果だと考えられる。生徒同士の話し合いや活動を通しての助け合いが功を奏したのであろう。

しかし、CとO(1)で分かったように、いくら努力しても直らない顔つきなどによるいじめやからかい、本当に弱い立場の生徒に手を差しのべない実態などは大きな問題である。このようなことはテレビを代表とするマスコミの影響も十分考えられるが、教科の授業や道徳で生徒の心情に訴えていく面がいま一步足らなかったこととして反省し、今後の研究の糧としていくことを強調していかなくてはならない。また、このような結果は生徒の意識の向上のためにも取れることも付け加えておきたい。

<研究協議>

- ・ 灰色のシャ-シ
- ・ OOくん、OOさんの指導方針
- ・ 実践7場面の「④時間を守る」教師はどうとらえているか？ 又、時間を守らない教師を生徒はどうとらえているか？
- ・ 1年の社会科で「白人の食堂」という資料の扱いについて。

IV. 研究の成果と今後の課題

従来、同和教育に対して関心の薄かった教師集団が、学校同和教育とは何かと考へ、手探りの中で出発した研究である。私たちはまず、人権教育の充実をめざして積極的に取り組んでいくことが本校の生徒と地域の実態に即した同和教育になると考えた。次に本校においての同和教育の現段階での目標は、この案地づくりを達成することだと考えた。同和教育は全教科・全領域で取り組まなくてはならないという認識のもとに研究・実践を進め、いろいろな機会・場面をとらえて人権意識・豊かな心情の醸成に努めてきた。その研究実践の中で教師、生徒共に同和問題に対する関心も高まってきている。さらに、様々な実践の中で教材の研究も進み、指導の方法・生徒への接し方も、より生徒一人ひとりを大切にする方向で進展してきた。

生徒の活動や実態に関しては、学校生活における集団活動の中にあっては、生徒自身が自分を大切にし、さらに他を大切にしようとする言動が随所に見られ、ごく自然のうちに人権意識が高揚してきているように思われる。また、全体的にいじめたりいじめられたりする生徒が減少していることが生徒の実態調査にも現れている。

しかし、生徒の実態は、いわゆる調査だけでなく実際の活動を見ないと的確に把握することは難しい。今後も教科・学級指導・学級会活動・朝の会・帰りの会や学校行事、本校で取り入れた一分間スピーチ、学級の日など生徒の動きが現れ易い機会をとらえ、一人ひとりの生徒の気持ちや、その置かれた状況をしっかり把握し、生きた場面での指導をしていかなければならない。実践力を高めていくためにはそれぞれの場面で教師の目的意識を持った働きかけが必要であり、それにより生徒が人権とはなにかという意識をより明確に持つようになる。その積み重ねが日常の活動の中に現れてくるものである。例えば、体育祭の取り組みでは、毎年縦割り色別を取り入れており、色別練習においても例年以上に3年生が1、2年生をやさしく熱心に指導するなど、好ましい人間関係が見られた。それは日常の部活動における練習においてもいうことができる。

また、地域ならびに保護者に対する啓発活動については学校同和教育の推進にはぜひとも必要なことである。そこで、今年度は4回にわたって夜7時から行われたPTAの地区別懇談会の始めに、毎回「同和問題の解決のために」という映画を上映した。また、日曜授業参観の機会を利用してビデオで本校の研究につい

て説明し、理解と協力を求めた。さらに、PTA広報紙「ききょう」でも、この研究を話題としてシリーズを組んでとりあげ、広く一般保護者の人権問題に対する関心を高める取り組みをしている。これらの内容が家庭で話題となって子供たちに与えた影響は大きいのではないだろうか。しかし、今年度までの取り組みではまだまだ十分なものとはいえない。今後、この面での取り組みを充実していかねばならぬまい。

この研究を振り返ってみると、現実には限られた人員と時間の中で、幅広い領域においてどれも完全にしていくことは極めて困難で、まだまだ追及が不十分な状態であるが、試行錯誤の中で生み出されたものは大きい。何をどうしたら良いかもわからずに始めた研究であったが、職員が一丸となって人権意識を生徒に根づかせる取り組みを行ったことと、生徒と共に活動しながら生徒の心を豊かに育てるといふ、教育の基本に戻ることでこれらの成果が得られたのだと考えたい。ここで培われた同和教育を受け入れる素地の上に社会科等の教科における差別と人権の指導も、より実り多いものになってくるはずである。また、実践内容相互の関係の有機的なつながりと論理的な裏付けが弱いという批判は受けても当然かもしれない。従って、これからの研究の進展のためには、論理的にまとめ、さらに検証する必要があると考えている。そして、この研究の各領域を取り上げて、一つひとつ深化させることも課題として残っている。

これまでに述べてきた成果は、あくまでも短期間の取り組みにおいて見られたものである。しかし結果には、すぐ現れるものとそうでないものがある。教育というものを総合的に見た場合、その真の成果は、子供たちの少なくとも10年、20年先を見なければわからない。我々の研究の成果にも同様なことが言えよう。

我々は、今後も子供たちが主体的に自分自身で考え判断し、創造的・積極的に行動し、問題を問題としてとらえ、解決のために行動できるようにするために今後とも機会を設け、働き掛けをより効果的なものにしていきたい。

<ご指導をいただいた先生方>

三重大大学教授	今野 敏彦 先生
茨城県北相馬郡利根町立利根中学校長	小島 昭典 先生
中教育事務所指導主事	福島 睦恵 先生
伊勢原市教育委員会指導主事	青木 薫 先生
伊勢原市教育委員会指導主事	大木 一夫 先生
伊勢原市教育委員会指導主事	石井 惇雄 先生
伊勢原市教育委員会指導主事	牧 喬 先生
伊勢原市教育委員会指導主事	高原 重信 先生
伊勢原市立高部屋小学校教頭	岡広 隆治 先生

<研究に携わった職員>

学 校 長	三橋 修	教 頭	近藤 俊二
研 究 主 任	山下 登	研究副主任	浦野 英文

特別活動研究部

・ 川口 泰孝	桐山 多美子	和田 央	川口 久雄
石川 茂雄	宮崎 和美	坂井 勝	米本 幸子
北島 昌人	馬場 めぐみ		

教科研究部

・ 佐伯 正一	柏木 平	坂間 一朗	鍛代 道信
渡辺 一夫	西尾 幸子	松元 千恵	

道徳研究部

・ 小瀬村 一郎	田中 陽子	佐久間 正男	高橋 健一
森 加代子	小堀 滋		

調査・資料研究部

・ 橋本 貴永	鈴木 恭子
---------	-------

事務主事 関口 晶子

校務整備員 萩原 文隆

< 旧 同 人 > (敬称略)

長嶋 寛	末政 豊次郎	久須美 八重	渡辺 静夫
北村 帆波	小華和 三舟	矢口 正美	関水 恵子
齋藤 初美	頼住 一美	大村 菊代	

